

田園環境都市ビジョン 基礎資料

小山地区



2023年1月

小山市

田園環境都市ビジョン 基礎資料 | 小山地区

目次

I 調査の趣旨と調査概要 ……	1
1 目的	
2 本調査の「風土性調査」としての性格付け	
3 地域での各種調査	
4 調査報告 ……	2
5 田園環境都市ビジョン基礎資料の作成	
II 踏査および文献調査による報告 ……	3
1 小山地区の概況	
2 地域の自然について ……	4
3 地域の自然への人の働きかけについて ……	9
4 地域と人々の心身の結びつき ……	22
5 景観から読みとれるその他のこと ……	24
III 簡易社会調査による報告 ……	28
1 目的と実施概要	
1-1 目的について	
1-2 実施概要について	
1-3 座談会形式のグループインタビュー	
1-4 アンケート調査について ……	29
2 結果整理の手法について	
3 各調査の結果報告 ……	30
3-1 グループインタビューおよび個別聞き取りの記録	
3-2 アンケート調査結果（概要と考察） ……	65
4 調査結果の整理 ……	75
4-1 住民構成が多様な都市型エリア	
4-2 生活と意識	
4-3 他者への意識	
4-4 他地区への関心 ……	76
5 参考資料 ……	77
5-1 キーワード抽出	
5-2 地区別の世帯数・人口数の変化 ……	79
参考・引用文献 ……	81

I 調査の趣旨と調査概要

1 目的

小山市では、生態系の頂点に立つコウノトリが定着・繁殖するラムサール条約湿地「渡良瀬遊水地」を擁する、都市と田園環境が調和したまちとして、小山市の現在の環境を将来にわたり維持向上させていくため、これからのまちづくりを「田園環境都市 小山」と呼び、SDGs の実践と一体化したまちづくりに取り組もうとしている。

本調査は、上記背景を踏まえて、踏査（現地調査）、地域の聞き取り調査、文献調査を実施して基礎資料を作成し、小山市における持続可能な社会実現に向けた「田園環境都市 小山」を具現化させるとともに、市民・企業・市民団体・行政など各主体に「田園環境都市 小山」を浸透させて各種取組みの深化を図るものである。

2 本調査の「風土性調査」としての性格付け

本調査は、地域の風土性（風土の性質、成り立ち）に着目して行った。「気候風土」から「企業風土」まで、人々になじみのある風土は、地域の自然に人間が暮らしと生業を通して働きかけてかたちづくられる（詳細はII章を参照）。

こうした風土の調査は、地域に暮らす市民とともに地域の自然と人間の関係のこれまでを知ることにつながる。そして、そこから地域の持続可能なあり方を考えてゆくことが可能となる。また、ある専門分野の中で行われる地域研究とは違い、調

べる対象は自然から社会、文化まで幅広く、それら風土の要素を分析し、要素の間の関係を調べた結果を総合・統合することで風土の成り立ちが読み解けてゆくため、地域の実像を浮かび上がらせることに結びつき得る。

このように、持続可能なまちづくりに市民と行政が共同で取り組む際に依って立つ基盤と考えられる風土性調査として、本調査は実施することとした。

3 地域での各種調査

踏査（現地調査）、簡易社会調査2種（聞き取り調査、アンケート調査）、文献調査を組み合わせで行った。以下は、その概要である。

3-1 踏査

小山市小山地区及びその周辺で踏査を行い、後述する文献調査を適宜組み合わせ、調査地区の地理や動植物の生態、地域の歴史や民俗に関する情報を収集し、地理的条件が土地利用、都市環境・田園環境それぞれの市街地・集落の構成にどのように生かされ、建築物や土木構造物の形態等にどう影響しているのか調査した。また、これらと地域の人々の生活や生業との関係性や、どのように地域の産業や文化等を生みだし発展させ、現在の風土形成にいたっているかについて調査を行った。

踏査は、必要に応じて市担当者と業務受託者が共同で実施した。

I 調査の趣旨と調査概要

3-2 簡易社会調査1 — 地域の聞き取り調査

当該地区の将来のまちづくりに資するキーパーソンを対象に、グループインタビューとして聞き取り調査を行った。

踏まえて、「田園環境都市 小山」を具現化させるとともに、市民・企業・市民団体・行政など各主体に「田園環境都市 小山」を浸透させて各種取組みの深化を図るための基礎資料として、本報告書を作成した。

3-3 簡易社会調査2 — アンケート調査

現地調査と聞き取り調査をもとに、調査地区在住の市民が知る情報等をさらに少しでも多く集めることと、「田園環境都市 小山」の具現化に向けた取組みの周知を目的として、地域の現状や課題それらに対する意見等を尋ねるアンケート調査を行った。

3-4 文献調査

各調査に必要な情報収集のため、当該地区に関連する各種文献について調査を行った。なお、市は業務受託者へ市史や調査対象地区に関する資料を貸与もした。

4 調査報告

風土性調査の結果を調査地区在住の市民に伝える報告発表を下記日程、会場において行った。

- ・ 日程 令和4年12月12日(月) 18:00-19:30
- ・ 会場 小山市役所 本庁舎6階 大会議室
6abcd

5 田園環境都市ビジョン基礎資料の作成

上記4で行った報告と当日の質疑応答の結果を

II 踏査および文献調査による報告

1 小山地区の概況

小山市の基本地形と小山地区の位置

西から思川低地、宝木（たからぎ）台地、鬼怒川低地が並び、宝木台地の西側に思川、東側に鬼怒川が流れています。これらの低地と台地にまたがる小山市の中央部に、小山地区は位置します。

小山地区は、明治 22 年（1889）の町村制施行に則して小山町、稲葉村、神鳥谷村が合併した小山町をもととし、面積は 13.93km² で市の面積の約 8.1%を占めます。地区の人口 53,187 人は、市の人口の約 31.7%に当たります（令和 3 年 4 月 1 日現在。「令和 3 年度版小山市統計年報」より）。

地区は、ほとんどが宝木台地の上であり、一部は思川低地に位置します。この辺りには、現在宝木台地の西側に沿って流れる思川がかつて流れた跡がそれより西側に複数あり、思川の東岸に位置していた時期があることが、それに関係している可能性があると考えられます。

地形と交通

現在の小山市の範囲が含まれた古代の下野国は、当時の律令国家が支配した地域の東北端に位置しました。そのために、中央と地方の諸国を結ぶ幹線の交通路、五畿七道の一つである東山道が、小山市域の北側で思川低地を東西に通され、宝木台地の上を北北西へと伸ばされました。河川の氾濫が繰り返されて形成され、もとは主に湿地であった二つの低地に比べて、台地の上は道を通すのにより向きました。中世には、幕府のある鎌倉と東国武士の本領を結ぶ連絡路が整備され、小山市域では台地の上に奥大道（おくだいどう。鎌倉街道

のひとつ）が通されました。また、祇園城が築かれ、城下町が建設されています。近世に入ると奥大道にかわって日光道中（日光街道）・奥州道中（奥州街道）が整えられ、西側に平行する思川を利用した河川交通と組み合わせて使われました。

近代には、河川交通は鉄道交通に置き換わり、その後自動車交通が台頭しますが、ここで見てきたような地形との関係に基づき、奥州道中を継承する国道 4 号とその東側に平行する東北本線、東北新幹線を中心に小山市は今日も交通の要衝としての位置を占め、小山地区はその中心にあるといえます。

交通と市街化

奥大道、日光道中は、小山市域では思川に沿った台地の縁から少し東側に通されました。北から南へゆるやかに傾く宝木台地には湧き水や雨水に削られてできた南北にのびる浅い谷がありますが西側の縁にはほぼ谷はなく、工事の手間を省き直線的に道が通せるためにこの位置が選ばれたと考えられます。そして、この道沿いにもうけられた宿場の東側に東北本線が引かれ、祇園城の城下町の東側で小山駅が開業し、以降小山地区の鉄道から東側で農地や荒地が市街化されました。それは、地域の農業と結びついた製糸・製粉などの工場の立地に始まる工業の発展とも関係しました。

今日、小山市の面積の約 19%を占める市街化区域は、このように主として地形と交通の古代からの関係の上に形成されました。小山地区は、ほとんどがその中に位置しています。

2 地域の自然について

風土とは?

風土とは、地域の自然に人間が暮らしと生業を通して働きかけることでかたちづくられる、人々が生きる環境のことをいいます*。

* 藪田稔編『神道』弘文堂、1988年、総372頁

それは、いってみれば人々が生きる身近な世界、生活世界でもあります**。

** アルフレッド・シュッツ、トーマス・ルックマン『生活世界の構造』那須壽監訳、筑摩書房、2015年、総634頁

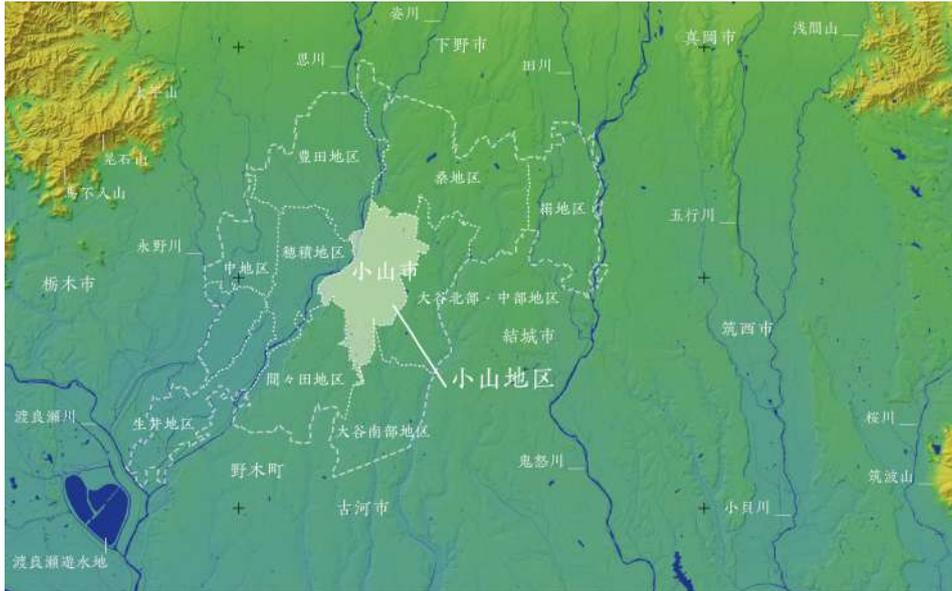
図1 風土の定義

実際に地域を見て歩く踏査と、地域について書かれた書籍や論文に学ぶ文献調査を組み合わせ、地域の風土性について調査を行った。この調査は、はじめに「地域の自然について」、次に「地域の自然への人の働きかけについて」、続いてそのようにかたちづくられた「地域と人々の心身の結びつき」について、そして「景観から読みとれるその他のこと」を調べて記述する流れで実施した。

以下、その結果を市民への視覚的な説明にも用いられるようにスライドショーとして整理したものを、順に掲載する。なお、図1には再び風土の定義を示した。

出典 | 藪田稔編『神道』(弘文堂、1988年、総372頁)。
アルフレッド・シュッツ、トーマス・ルックマン『生活世界の構造』(那須壽監訳、筑摩書房、2015年、総634頁)

II 踏査および文献調査による報告



合併以前の旧町村の区分に基づく小山市内の11地区を示す | 出典: 国土地理院 | 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2022)

小山地区は、小山市の中央部に位置します。

図2 小山市の地区区分と小山地区

市域は、旧町村の区分に基づいて11地区に分けられ、小山地区はその中央部に位置する。



小山市の市街化区域と小山地区の位置関係を確認する | 出典: 国土地理院 | 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2022)

地区は概ね市街化区域に指定され、自然は既に...?

出典: 総務省 | e-GOV | 都市計画法 <https://laws.e-gov.go.jp/document?lawid=343AC0000000100> (2022-12-09 参照)

図3 小山市の市街化区域と小山地区の位置関係を確認する。

小山地区は、概ね市街化区域に指定される。

地域の自然について: 都市の自然の見方

「しっかりと目を開いてみないと、
都市に残っている自然は
樹木と公園だけのように思えてしまう。
しかし、都市の自然は樹木や庭園、(中略)
空き地に繁っている雑草だけではない。

出典: アン・スパーン『アーバン エコシステム』高山啓子訳、環境コミュニケーションズ、1995年、2頁 (原著出版1984)

図4 都市の自然の見方 (1)

出典 | アン・スパーン『アーバン エコシステム』高山啓子訳、環境コミュニケーションズ、1995年、2頁 (原著出版 1984)



思川左岸。観晃橋下流側。対岸に思川緑地が。2022/10/30

「都市の自然とはわれわれが呼吸している
大気であり、立っている大地であり、

出典: アン・スパーン『アーバン エコシステム』高山啓子訳、環境コミュニケーションズ、1995年、2頁 (原著出版1984)

図5 都市の自然の見方 (2)。出典は図4に同じ。思川左岸の観晃橋下流側 2022/10/30

II 踏査および文献調査による報告



台地斜面林。外城。写真右は水が染み出した箇所を拡大撮影したもの。2021/10/06

飲んだり排出したりしている水であり、
棲み家を分け合っている生きものたちなのである」

出典: アン・スパーン『アーバン エコシステム』高山啓子訳、環境コミュニケーションズ、1995年、2頁 (原著出版 1984)

図 6 都市の自然の見方 (3)。出典は図 4、5 に同じ。外城の斜面下の湧水箇所 2021/10/06

出典 | アン・スパーン『アーバン エコシステム』高山啓子訳、環境コミュニケーションズ、1995年、2頁 (原著出版 1984)



御殿広場から東側の方向を見る。中央町。2020/09/22

「これらは皆、都市の自然そのもの」である。
大半が市街化された小山地区にあっても、

図 7 都市の自然の見方 (4)。出典は図 4、5、6 に同じ。御殿広場 2020/09/22

II 踏査および文献調査による報告



図8 御殿広場と思川の間台地斜面に残された樹林 2020/09/22



栃木県内の年平均気温、1月平均気温と常緑広葉樹林の分布



駅東公園に植栽されたスダジイ。2022/11/30

市域は暖温帯に含まれ、スダジイなどの分布域に。
(本種は県下で年平均気温13-14℃、1月の平均気温1-2℃超の範囲で生育)

出典: 五十嵐典夫ほか『益子の歴史』益子町、1983年/栃木の自然 編集委員会編『栃木の自然をたずねて』築地書館、1997年(廣瀬改変2016)、『小山市史 通史編』38-67頁も合わせて参照

図9 市域の気候と植生の関係を見る。栃木県域にはさらに、移行帯、冷温帯が分布する。

出典 | 五十嵐典夫ほか『益子の歴史』益子町、1983年/栃木の自然 編集委員会編『栃木の自然をたずねて』築地書館、1997年(廣瀬改変 2016)

3 地域の自然への人の働きかけについて

地域の自然への人の働きかけについて

「小山は『和名抄』にも記載されているとおり、
当地方では最古の地名になる」。

「西側の思川低地からすれば、見上げるような
崖高は確かに小高い地形となる」。

出典：菅間久男『小山市の地名由来と歴史』随想舎、2006年

図10 小山の地名の由来についての一説を参考に、地区の地形を細かく見る。

出典 | 菅間久男『小山市の地名由来と歴史』随想舎、2006年

かつての小山宿、
稲葉郷、
神鳥谷村から成る
現小山地区の範囲。

出典：国土地理院 | 地理院地図
<http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改定 2022)



図11 現在の小山地区の範囲（図中の太い点線）と大字や町名等。

II 踏査および文献調査による報告

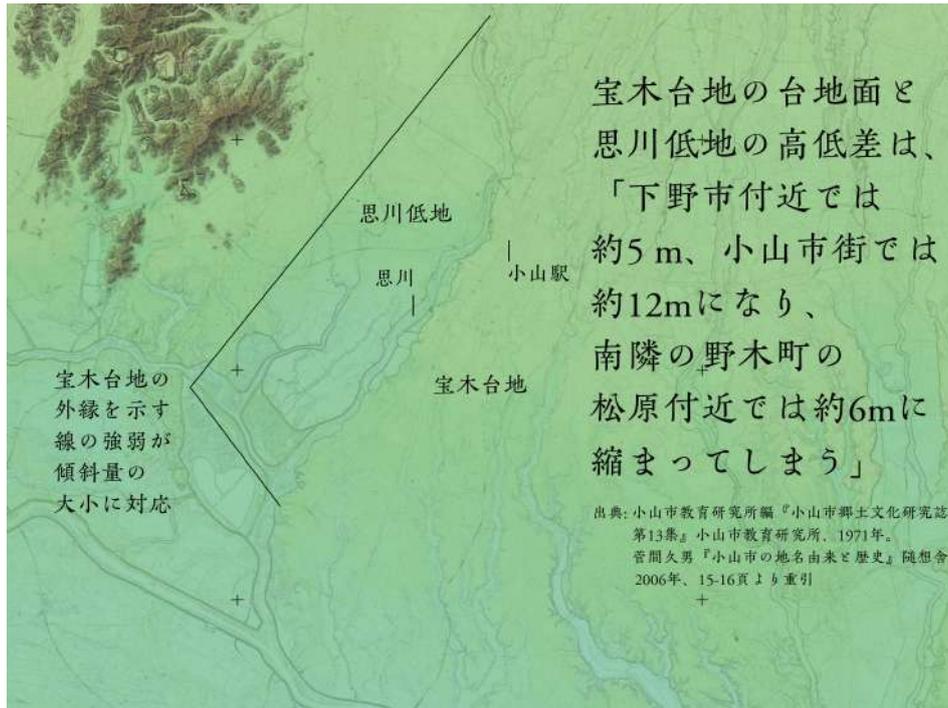
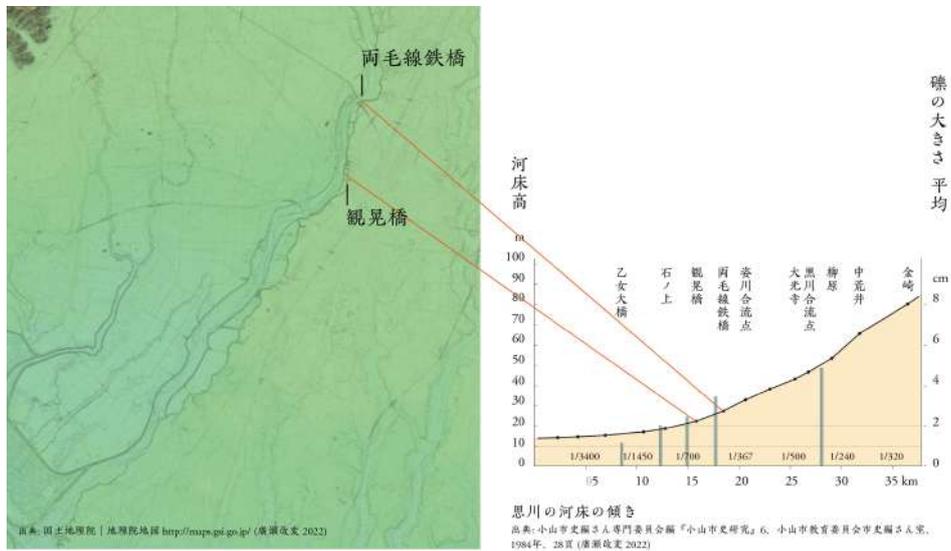


図 12 宝木台地と思川低地の高低差の変化を確かめる。

祇園城は、宝木台地と思川低地の高低差が最も開く位置に築かれた。



宝木台地の台地面と思川低地の高低差の変化

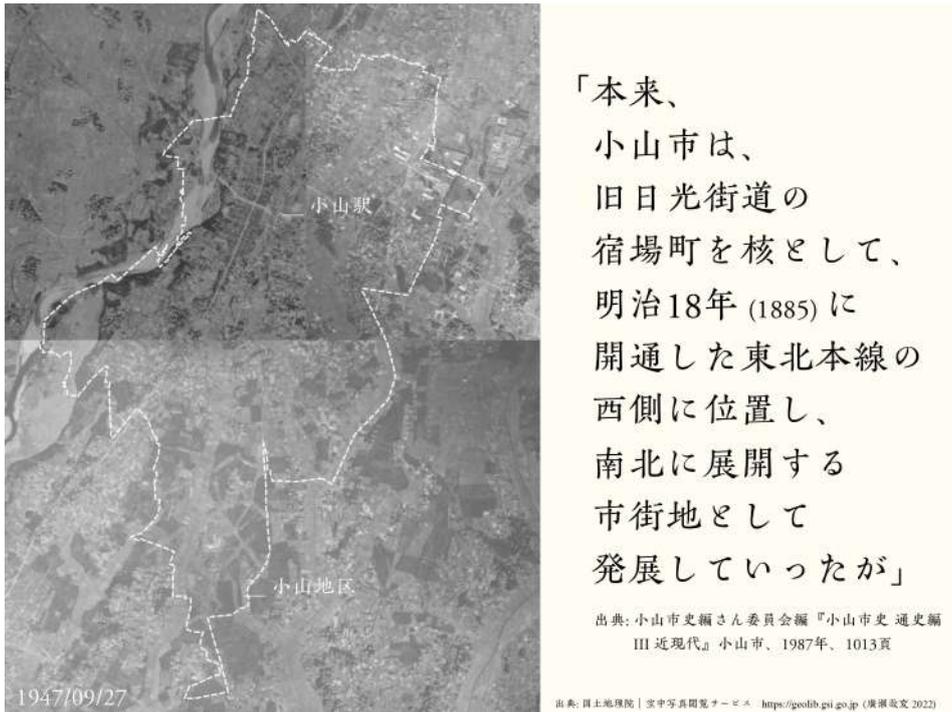
台地と低地とも北から南へ低くなるものの、低地の傾きは両毛線鉄橋上流側で急になり高低差が縮小。

出典: 小山市史編さん専門委員会編『小山市史 通史編Ⅰ自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、14-19頁

図 13 台地と低地の高低差には、低地の傾きの変化も関係している。

出典 | 小山市史編さん専門委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、14-19頁

II 踏査および文献調査による報告



「本来、
 小山市は、
 旧日光街道の
 宿場町を核として、
 明治18年(1885)に
 開通した東北本線の
 西側に位置し、
 南北に展開する
 市街地として
 発展していったが」

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、1013頁

図 16 小山地区の市街化の変遷を確かめる 1 (1947年撮影の空中写真を見る)

 出典 | 小山市史編さん専門委員会編『小山市史通史編 III 近現代』小山市、1987年、1013頁



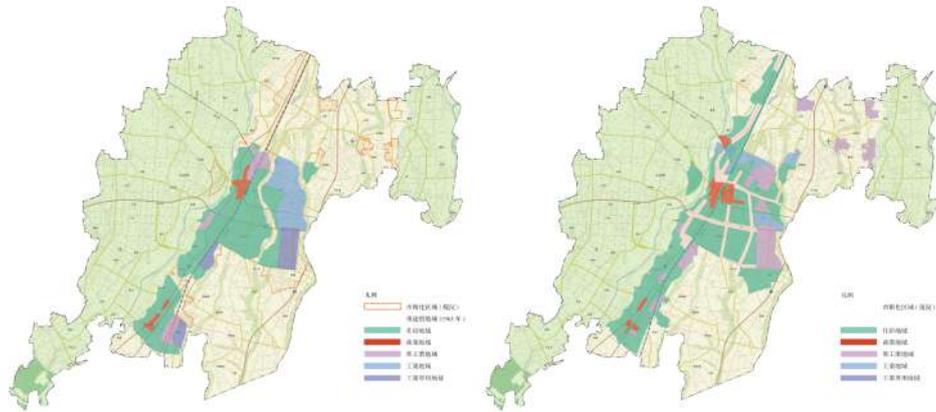
昭和39年からの
 小山駅東口の
 土地区画整理事業を
 始まりとして、
 「小山駅の東口は、
 都市計画事業によって
 農村部から都市へと
 その景観を一変した」

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、1013頁

図 17 小山地区の市街化の変遷を確かめる 2 (2021年撮影の空中写真を見る)

 出典 | 小山市史編さん専門委員会編『小山市史通史編 III 近現代』小山市、1987年、1013頁

II 踏査および文献調査による報告



昭和38年(1963)策定の小山市街地開発整備計画における整備区域 現在指定される市街化区域

ただし、1963年の市街地開発整備計画から市街化区域は大きく拡張されず、市域の約19%にとどまります(市街化調整区域は約81%)。

出典:小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、1011-1013頁、国土地理院 | 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改定 2022)

図 18 昭和 38 年 (1963) 指定の市街地開発整備区域 (左) と現在の市街化区域 (右)

出典 | 小山市史編さん専門委員会編『小山市史通史編 III 近現代』小山市、1987 年、1011-1013 頁

現在の地形図に、明治13年(1880)から19年(1886)にかけて制作された低湿地の分布と土地利用がわかる図を重ねます。

出典: 国土地理院 | 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改定 2022)

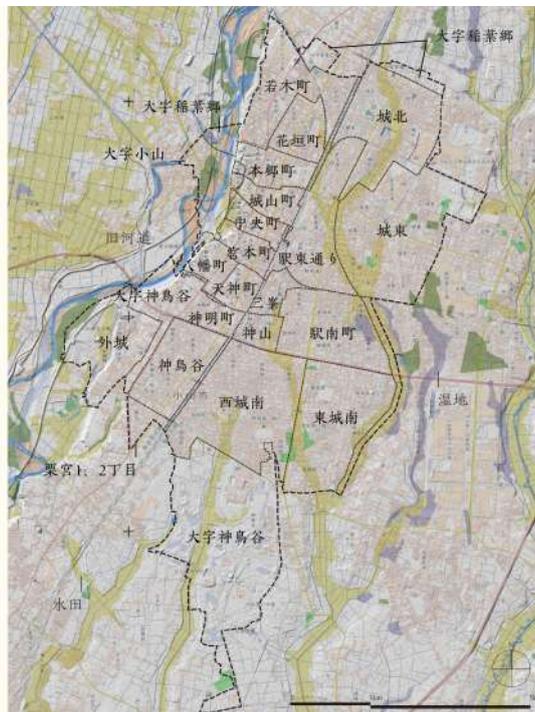


図 19 低湿地は台地の上の谷にでき、ほぼ水田(図の黄土色)とされた(紫色は未利用)。

地区南東部の境が谷の中心とされ、駅前通りと城東の境もこの谷の上流側であることなどに注目する。

II 踏査および文献調査による報告



図 20 「祇園城復原図」を現在の地形図と明治期の低湿地図に重ねる。

出典 | 小山市史編さん専門委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、694-717頁

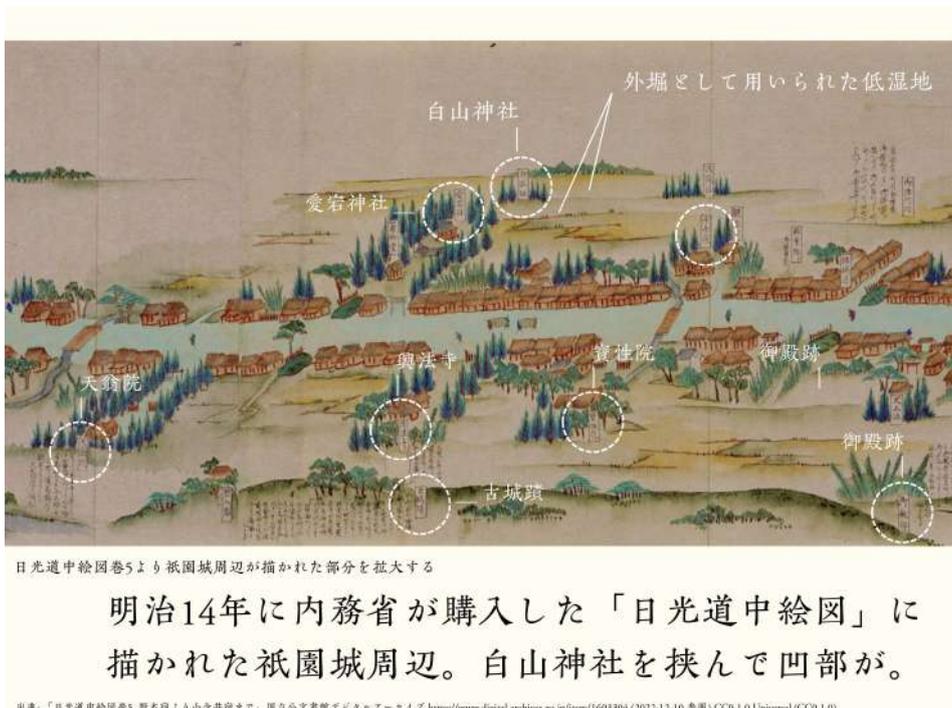


図 21 日光道中絵図巻 5 より祇園城周辺が描かれた部分を拡大する。

出典 | 「日光道中絵図巻 5_野木宿より小金井宿まで」国立公文書館デジタルアーカイブ <https://www.digital.archives.go.jp/item/1603304> (2022-12-10 参照) CC0 1.0 Universal (CC0 1.0)

II 踏査および文献調査による報告



図 22 栃木県道・茨城県道 264 号小山結城線跨線橋から北側を見る。2022/11/30

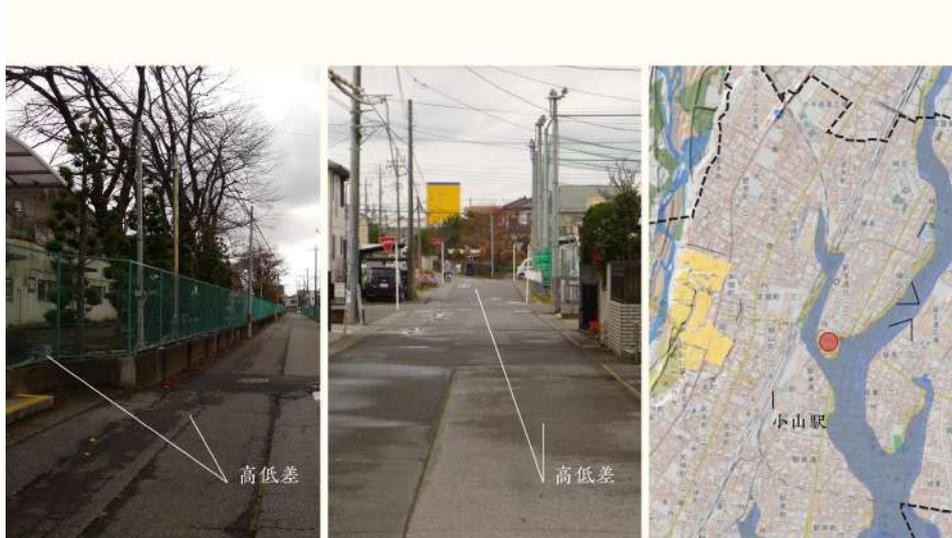
写真左手の水路の高さが、かつて祇園城の外堀とされた低湿地の原地盤に近いと考えられる。



図 23 城北公園通りから小山市立城北小学校南側の調整地を見る。2022/11/30

開発に伴い雨水を一時貯留するために設けられた調整地の位置が、一部かつての低湿地に重なる。

II 踏査および文献調査による報告



城北。2022/11/30

地盤改良は行われつつ地形の高低差は各所に残り、
降水が集まる範囲も市街化以前から余り変化せず。

図 24 城北で、かつての低湿地の東側の縁に当たる道を歩き、地形の高低差を確認する。

市街化の中で高低差が縮められても、谷の跡が周囲より低ければ雨水の集まり方の基本は変わらない。



市街地内に残る農地。神鳥谷。2022/10/30

「市域農村においても、日光街道の小山・間々田
両宿(中略)の需要に応じて種々の作物が栽培された」

田嶋・小山市史編さん専門委員会編『小山市史 通史編 目 近世』小山市、1986年、446頁

図 25 市街地内に残る農地。神鳥谷。2022/10/30

街道沿いの宿場と城下町を除き、地区の土地は谷が田とされた他には畑地と平地林として用いられた。

II 踏査および文献調査による報告

	田		畑		宅地		平地林		原野		合計	
	反	%	反	%	反	%	反	%	反	%	反	%
豊田村	10,034	57.6	03,804	21.8	01,055	06.1	02,093	12.0	00,444	02.5	17,430	
穂積村	05,911	55.2	02,772	25.9	00,619	05.8	00,853	07.9	00,554	05.2	10,709	鬼怒川低地
中 村	04,951	66.0	01,533	20.4	00,650	08.7	00,312	04.2	00,055	00.7	07,501	
寒川村	03,642	64.7	01,466	26.0	00,424	07.5	00,080	01.4	00,019	00.3	05,631	
生井村	03,279	30.7	04,464	41.8	00,534	05.0	00,384	03.6	02,021	18.9	10,682	
桑 村	03,510	14.2	04,646	18.7	00,811	03.3	13,242	53.5	02,557	10.3	24,766	立木台地
小山町	01,237	11.0	04,240	37.7	00,470	04.2	05,013	44.6	00,276	02.5	11,236	
大谷村	03,306	12.1	05,756	21.1	01,004	03.7	14,554	53.3	02,692	09.8	27,312	
間々田村	02,378	14.0	05,560	32.8	00,717	04.2	07,777	45.9	00,514	03.0	16,916	
絹村	03,653	25.3	05,958	41.3	01,035	07.2	02,279	15.8	01,489	10.3	14,414	鬼怒川低地

明治27年(1894)における小山市域各町村の土地構成 出典:『下都賀郡統計書』、小山市史編さん委員会編『小山市史通史編 III 近現代』小山市、1987年、153頁

明治中期、小山町の宅地面積は寒川村の次に少なく、田は最少、畑と平地林は中位でした。

図 26 明治 27 年 (1894) には、小山地区の面積の 37.7%が畑、44.6%が平地林であった。

出典 | 小山市史編さん専門委員会編『小山市史通史編 III 近現代』小山市、1987 年、153 頁

地域の自然への人の働きかけについて

「一般的には都市はみずから
 主要食料の生産は行わないで、
 その後背地に食料品の供給を仰ぐ
 幾多の集落を控えており、
 食料品その他の生活必需品の加工および製造、
 各種物資の交易集散を行うものである」。

奥田教朝・吉岡昭雄『都市計画通論(第2版)』オーム社、1973年

図 27 一般的な都市と近隣の農村集落との関係を確認する。

出典 | 奥田教朝・吉岡昭雄『都市計画通論(第2版)』オーム社、1973年

地域の自然への人の働きかけについて

「都市の (中略) 規模は集落とは異なり、(中略) 技術の進歩発達とともにしだいに大きくなり」。

奥田教朝・吉岡昭雄『都市計画通論(第2版)』オーム社、1973年

ただし、「農業・漁業などを生活の根拠において、主要食料の自給自足を行っている集落」と同様に、本来は都市でも「生活の根拠」を重視すべきでは?

図 28 都市と集落の違い、「生活の根拠」ひいては生存条件について考える。

市域の約 19%を占める市街化区域を主とする小山地区での、都市部と農村部の連携の模索は重要。

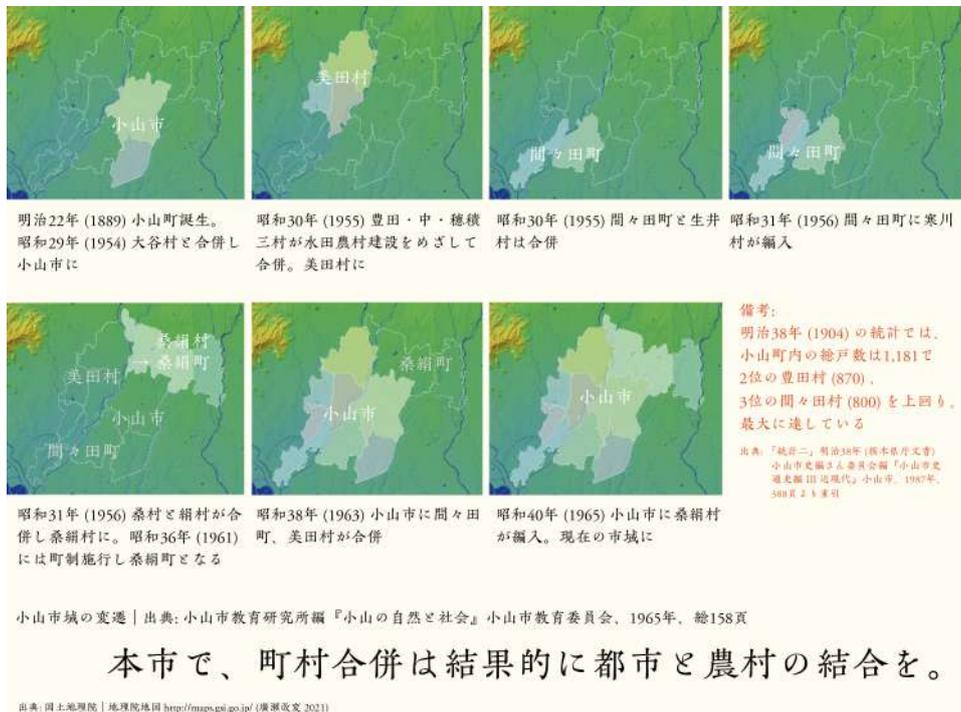
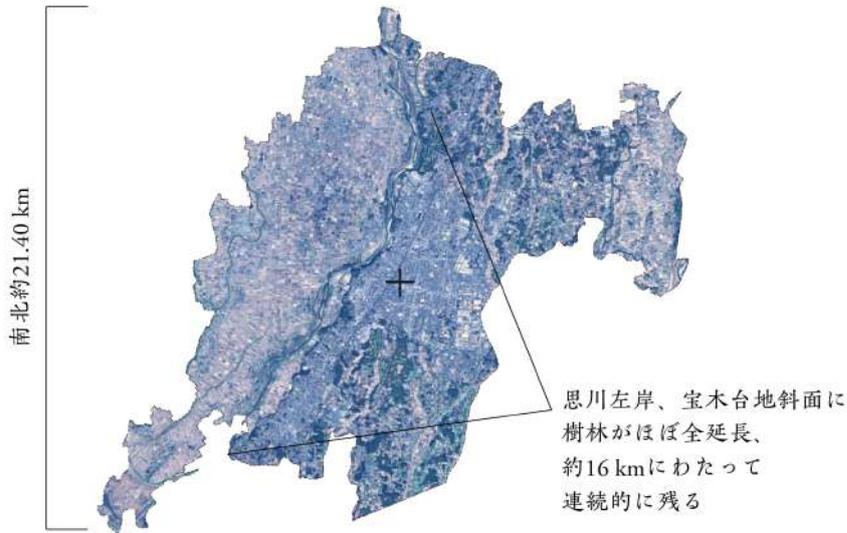


図 29 小山市域の変遷からも都市部と農村部の連携模索の歴史が窺える。

出典 | 小山市教育研究所編『小山の自然と社会』小山市教育委員会、1965年

II 踏査および文献調査による報告



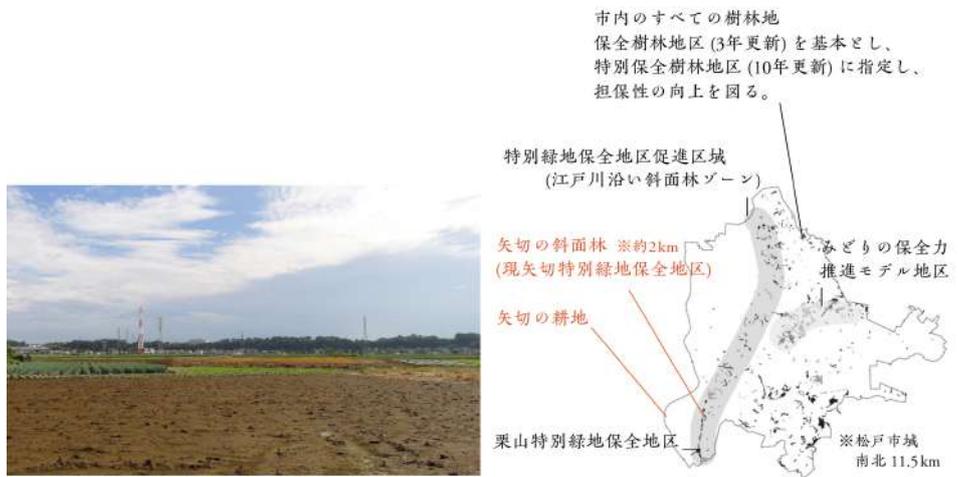
小山市域の空中写真。出典: 国土地理院 | 地理院地図 (標準地図+陰影起伏図) <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2022)

武蔵野台地の国分寺崖線は延長約30km。約35%、約10.5km残る斜面緑地を都が保全。小山市では...

出典: 東京環境局 | 保全地域の指定状況 | 28. 立川崖線 29. 国分寺崖線 https://www.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/nature/natural_environment/tokyo/area/28_gaisen.html (2022-12-08 参照)

図 30 小山市域の空中写真を見る。宝木台地西縁の斜面林が約 16km にわたって残される。

著名な武蔵野台地、国分寺崖線の斜面緑地は長さ約 10.5km。小山市の斜面林の長さはそれを上回る。



耕地より斜面林を望む。2019/10/04

出典: 樹林地保全制度適用方針図 「松戸市緑の基本計画 改訂版」松戸市、2009年

松戸市は「都市緑地法による『特別緑地保全地区』、松戸市緑の条例による『保全樹林地地区』『特別保全樹林地地区』を指定し保全に努めている」

出典: 伊 毅智・柳井重人「松戸市緑の条例の保全樹林地指定を受けた土地所有者の樹林地公開に対する認識」『ランドスケープ研究』78 (5)、2015年、609-614頁

図 31 千葉県松戸市「矢切の斜面林」(長さ約 2km) では平成 30 年 (2018) に鳥類 64 種が確認。

小規模ながら河川、耕地、斜面林、台地上の市街地からなる環境の構成が小山地区に似る事例。

II 踏査および文献調査による報告



図 32 観覧橋から思川下流側を見る。2020/09/22

東京から約 60km、県下第二の人口約 16 万 6500 人を擁する都市の中心部にこうした環境、景観が残る。



図 33 思川低地上の下国府塚から東側、小山地区中心部を望む。2021/10/06

最も都市化した日光街道沿線の市街地が、比較的自然度の高い斜面林と思川を挟んで田園部に面する。

II 踏査および文献調査による報告



図 34 小山思いの森公園と新小山市民病院。神鳥谷。2021/11/12

平地林については、人間の活動に伴う開発と環境保全の調和を図ることが求められる。



図 35 地域の自然を基盤として人間の活動基盤がかたちづくられてきたことを示す。

ここまで見てきたように都市の歴史と自然の関係を確かめることが持続する地区の構想に必要となる。

II 踏査および文献調査による報告



旧日光街道から西側を見る。左より天神町(小山市立第二中学校南側)、宮本町(須賀神社参道)、同(常光寺参道-清水坂)。2022/10/30

旧日光街道から西側へ抜ける通りの先を見ると、
思川との境の斜面林が街並の背景を成しています。

図 36 旧日光街道から西側を見る。左より天神町、宮本町(須賀神社参道と清水坂)

4 地域と人々の心身の結びつき



祇園山天翁院萬年禅寺。2022/10/26

徳王山妙楽院興宝寺。2022/11/28

愛宕神社。2022/11/28



遍照山摂取院常光寺。2022/10/30

秀郷山称名院現聲寺。2022/10/30

須賀神社。2021/12/24

祇園城の南北の寺社群は、信仰の場として、また
歴史を伝える場として地域と人々の心を結びます。

図 37 祇園城南北に残る寺社町の寺院、神社の一部を写す。

地域と人々の心身の結びつき

「明治元年から同10年にいたる間(中略)
幕末に155寺を数えた市域寺院のうちで
約60%に当たる91寺が廃寺となり(後略)」

出典:小山市史編さん委員会編『小山市史通史編 III 近現代』小山市、1987年、125-148頁

- ・ 明治政府の神仏分離政策による廃寺処分、
神社の社格決定への民衆の抵抗も*。
- ・ 小山町では20寺中10寺が廃寺に**。

* 神仏分離の創出政策により村社の社格を廃するとして神社を撤する地区で、村落祭祀が守れなくなるとして社格の訂正を求める運動が展開され、戦木(生丹地区)の水神社などが村社に加列

** 小山町の範囲には種彦寺、小山館、神島谷村が含まれたが、種彦寺3寺と神島谷村2寺に廃寺はなく、小山館の15寺中10寺が廃寺に廃された

図 38 明治政府の神仏分離政策が小山地区の寺社にもたらした影響を確かめる。

出典 | 小山市史編さん専門委員会編『小山市史通史編 III 近現代』小山市、1987年、125-148頁ほか



アユ (川原慶賀 1823-1829)。出典: Naturalis Biodiversity Center/Wikimedia Commons

大正期、有志が毎夏観晃橋脇に水泳場を開いた他、
「思川をめぐる風物詩として市域内外の人々に
親しまれたのが『鮎狩り』であった」。

出典:小山市史編さん専門委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、691-692頁。「鮎狩り」は「古くから思川の周辺でおこなわれていた鮎漁と船遊びを組み合わせたもの」。

図 39 行楽の面から地域と人々の心身の結びつきを考える。(市史通史編 III、691-692 頁より)

鮎狩りは「古くから思川の周辺でおこなわれていた鮎漁と船遊びを組み合わせたもの」。(同上)

5 景観から読みとれるその他のこと

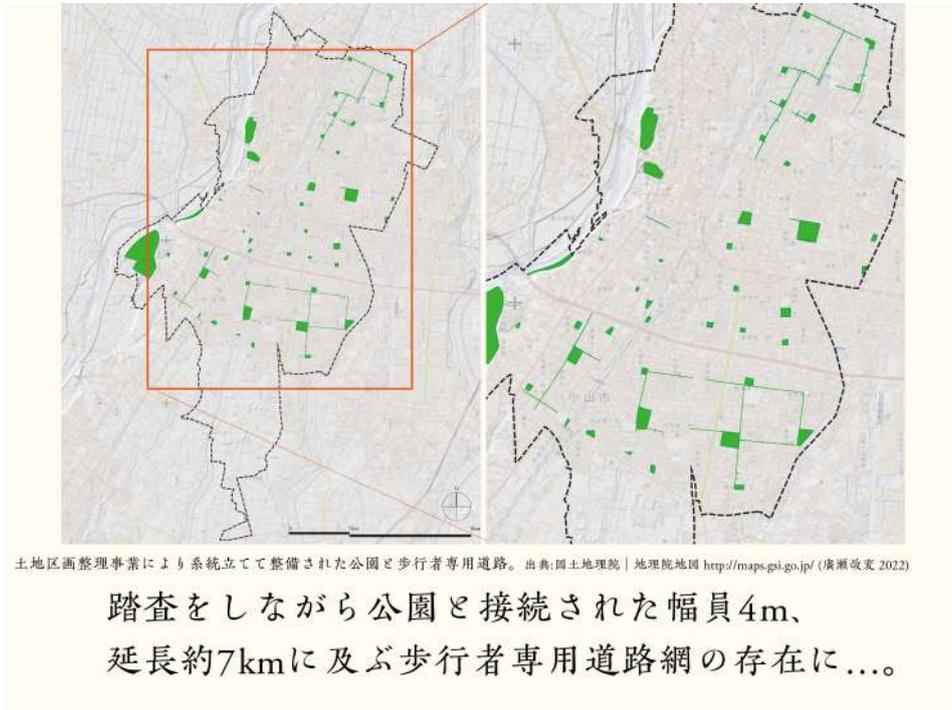


図 40 土地区画整理事業により系統立てて整備された公園と歩行者専用道路。

都市の緑地のあり方の検討用に、緑色の線と面でこれらを示す共に小山総合公園も同色で示した。



図 41 神久保公園西縁と一ノ久保通り。神鳥谷。2022/10/30

II 踏査および文献調査による報告



図 42 白仲公園東縁と白仲通り。駅東通り。2022/11/30

歩行者専用道路は公園だけでなく保育所や児童センターといった公共施設にも接する。



図 43 白仲通りと連続する城北公園通り。城北。2022/11/30

歩行者専用道路の植物群がつくる環境が、周囲の庭や農地の生態環境としての質を補う区間もある。

II 踏査および文献調査による報告



城北公園通り。城北。2022/11/30

歩行者専用道路に植栽された低木の種類と量感に合わせて生垣を仕立てた沿道の家屋の例。

図 43 城北公園通り。城北・2022/11/30

歩行者専用道路の景観と呼応した庭により私空間の趣が加味されて、道路は地域共同の生活空間的に。



城北公園通りから喜沢向原通りへ。城北。2022/11/30

高木が比較的高く育てられた区間。
沿道の家屋にはこの空間に合わせたテラスなども。

図 44 城北公園通りから喜沢向原通りへ。城北・2022/11/30

歩行者専用道路の高木を目隠しにして庭を開放的に使う生活者も、地域共同の生活空間形成に貢献。

II 踏査および文献調査による報告



祇園城通り (都市のオープンスペース利用に関する社会実験の様子)。街路樹はオモイガワ (思川桜)*。中央町-城山町。2020/09/22

社会実験の名称は、河成段丘 (river terrace) である宝木台地ならではのもの。小山駅周辺では、市民と市の最新の協働が進められます。

*オモイガワはマメヅクラとエドヒガシの交雑種。マメヅクラおよびエドヒガシ、オオヤマザクラの交雑種ツメヨシノが自然交配された栽培品種と推定 (国立研究開発法人森林総合研究所)

図 45 祇園城通り。街路樹はオモイガワ (思川桜)。中央町-城山町。2020/09/22

都市のオープンスペース (屋外空間) 利用に関する社会実験より。住宅地を主に、商業地と工業地が含まれた小山地区は、ほぼ市街化区域に指定され、小山市の文字通りの中心市街地といえる。そうした小山地区の中心部に当たる小山駅周辺は、思川に面した都市的な露壇 (テラス) に見立てられる。都市性の高い市街地と思川、斜面林が対比した景観は、特徴的である。



愛宕神社塚古墳。城東。2016/10/31

愛宕塚古墳 (6世紀の築造と想定) も、人の手による地区最古の遺物として、地区の歴史を振り返る参考に。また、参道は地区の歩行者専用道路の原形のようにも思われます。

撮影: 熊本県総合観光センター。資料: 国土文化財 | 愛宕塚古墳 <https://www.mwdhpj.oda.ed.jp/contents/kyuzaki/2541016.htm> (2023-01-11 閲覧)

図 46 愛宕塚古墳。城東。2016/10/31

追記: 愛宕塚古墳もまた、今後の調査次第では地区の風土の変遷を知る上で重要な手がかりとなろう。

Ⅲ 簡易社会調査による報告

1 目的と実施概要

1-1 目的について

小山地区で暮らす人々の生活や意識をできる限り実情に近いところで把握すること。

特に、過去と現在の生業や生活の様子、地域をどのように認識しているか、小山地区で暮らしながら、大切に守っていききたい地域の宝や、逆に解消したい困りごとなどについて、どのような考えを抱いているかなどについての把握を試みる。また、それらの関係性を読み解くことで、小山地区および小山市域全体での田園環境都市ビジョンの手がかりを得ることを目的とする。

1-2 実施概要について

令和4年9月から12月にかけて、下記の2種類の簡易社会調査を行った。

①座談会形式のグループインタビューおよび個別の聞き取り調査

②無作為抽出・郵送によるアンケート調査

小山地区で風土性調査を行うにあたり、まず8月5日の自治会連合会小山支部の会議にて総合政策課より自治会長の皆様へ「田園環境都市のまちづくり」に関する説明を行った。8月24日の小山市部の役員会では風景社より風土性調査についての説明を行った。

1-3 座談会形式のグループインタビューおよび個別聞き取り調査について

(1) 特に考慮したこと

これまでに調査を行った生井地区、豊田地区と比べ、人口規模が大きな小山地区では、これまでのような3グループないし4グループ

の聞き取りでは、その全体像を把握するのは難しいと考え、8月末から12月にかけて、6つの属性での聞き取りを全8回行った。

また、アンケート調査では、本調査で立てた目的達成のためには、設問や提示する選択肢が、住民が「日頃考えていること」「伝えたいこと」「語りたくないこと」に沿っているかどうかが重要になる。そこで、9月に実施した聞き取りで語られたことをもとに、アンケートの質問における選択肢を設定した。

(2) 実施時期と対象者について

第1回：9月2日 13時半～15時

自治会連合会小山市部 男性4名・70代

第2回：10月5日 18時～19時半

駅周辺マンション居住者4名(西2名・東2名)
男性4名・30代～70代

第3回：10月20日 18時～19時半

商工会議所青年部5名 不動産・飲食等自営業
男性4名女性1名 30代40代

第4回：11月1日 10時～11時半

子育て世代・女性 個別聞き取り

第5回：11月21日 15時～16時半

駅東地区の変遷を知る方2名 70代

第6回：11月28日

子育て世代・男性 個別聞き取り

第7回：12月23日 13時半～15時

駅西地区の変遷を知る方・男性 70代

第8回 12月23日 15時半～17時

小山地区の変遷を知る方・男性 70代

(3) 全ての聞き取りにおいて、共通の質問内容

①自己紹介として～小山地区とのご縁、仕事や地域での活動など、仕事や余暇時間での、ご自身と

ご家族それぞれの生活圏について

- ②地区の昔と今。変わったこと変わらないこと
- ③地区で暮らすなかで感じる、解消したい困り事
- ④地区の有形無形のもので、大切に守り、未来につなぎたいもの
- ⑤都市部（小山地区や大谷北部）と田園部（豊田地区や生井地区）は、これからどんな関係を築いていくと良いか等、これからの小山市のまちづくりへの意見

以上に加えて、それぞれのグループの特性に即した質問（子どもたちの帰宅後や休日の過ごし方、農業の今と昔、など）を加えて聞き取りを行った。

1-4 アンケート調査について

(1) アンケート調査（紙の調査票）

無作為抽出による 2,500 世帯へ、依頼状および返信用封筒（受取人払い）とともに調査票を送付した。10月1日に発送し、10月31日締め切りとした。

(2) アンケート調査（インターネット回答）

紙の調査票でのアンケートと並行して、グループフォームを利用したインターネットでの調査も行った。

告知については、小山地区在住者のみの回答とするために、ウェブや SNS などで不特定多数に向けた案内はせず、自治会の回覧及び、調査票とともに封入する依頼書に QR コードとともに「2人目以降からの回答について各世帯におきまして、紙のアンケートにご回答された方以外にもご協力いただける方は、右のQRコードよりスマートフォンやパソコンからもご回答いただけます」と記載した。

(3) 回答数/回答率について

- 回答数：655名（郵送：607 ネット回答：48）
うち集計締め切り後に届いた2通は無効とし、653件の回答で集計を行った。
- 郵送での回収率 24.6%

対象 2,500 について、発送前に転出が分かり未発送とした 21 通および宛先不明での戻り 15 通の計 36 通を除いた 2,464 を母数とした。

合計 653 名の回答の集計結果を、「小山市小山地区アンケート調査 集計結果報告書(2022年12月18日改訂版) にまとめ、別添資料とした。

2 結果整理の手法について

グループインタビューにおいては、下記の3種の記録を作成し、③を本報告書に掲載している。

- ①書き起こしデータの作成
- ②個人情報を残した形で、座談会の時系列に発言内容をまとめたもの
- ③個人情報を抜き、発言内容を、時系列ではなく、いくつかのテーマやトピックごとに編集した記録。発言内容に関連した史実や、少し曖昧な記憶に基づく参加者の話を裏付ける記録などを、脚註の形で、各種文献から転載し補足する。

アンケート調査については、単純集計と、主要な質問において属性との相関をみるクロス集計を行った。概要版を次章の調査結果に掲載し、全データは、別添資料(アンケート集計結果報告書)に掲載する。

グループインタビューと、アンケートの結果については、個々の検証に加えて、得られた情報の関連性などを読み解き、「4 調査結果の整理」に記載する。

3 各調査の結果報告

3-1 グループインタビューおよび個別聞き取りの記録

この章ではグループインタビューと個別インタビューで行った聞き取りの成果を掲載する。初めに、語られたことを概観するために各回記録の見出し一覧を掲載し、次に各調査で語られた内容を掲載する。

1 | 自治会リーダーの方々

- 1 : 小山地区との関わり
- 2 : この数十年の小山地区の変化
- 3 : 地域活動への参加
- 4 : 人口や子どもの数の増減
- 5 : 小山地区での利便性と高齢者の困りごと
- 6 : 大切なもの～思川沿いのエリア
- 7 : 解消したい困りごと
 - 7-1 ゴミ問題
 - 7-2 消防団の担い手不足
 - 7-3 水害
- 8 : 田園環境都市おやまのまちづくりについて

2 | JR 小山駅周辺マンション居住者の方々

- 1 : 小山地区との関わり
- 2 : 他市と比べての小山市の特徴
- 3 : 地区の歴史的な資源と、認知度や関心度
- 4 : まちなみや景観、公園、街路樹
- 5 : 解消したい困りごと
 - 5-1 東西の往来の不便さ
 - 5-2 治安の悪さ
- 6 : マンション内のコミュニティ、地域との繋がり

- 7 : 地域のイベント
- 8 : 田園環境都市おやまのまちづくりについて

3 | 若手商工業者の方々

- 1 : 小山地区との関わり
- 2 : 生活圏～自然と触れ合いたいとき
- 3 : 本職以外での地域活動
- 4 : 小山駅周辺の変化
- 5 : 駅周辺エリアの現状での課題
- 6 : 駅周辺エリアの賑わい創出
～小山らしい「あか抜けた」まちづくりとは
- 7 : 田園環境都市おやまのまちづくりについて

4 | 子育て世代の方（1）

- 1 : 小山地区との関わり～小山市の住みやすさ
- 2 : ふだんの生活範囲など
- 3 : この10年での周囲の変化
- 4 : 地域資源と情報発信/収集
- 5 : 小山地区での子育て
 - 5-1 都市部小学生の渡良瀬遊水地での体験
 - 5-2 都市部の子どもを取り巻く環境について
- 6 : 地域のコミュニティ
- 7 : 田園環境都市おやまのまちづくりについて

5 | 子育て世代の方（2）

- 1 : 小山地区との関わり
- 2 : 小山地区の住みやすさと、地域での子育てや活動
- 3 : 田園環境都市おやまのまちづくりについて

6 | 駅東地区の歴史を知るの方々

- 1 : 小山地区との関わり
- 2 : 農業の昔と今
- 3 : 区画整理と、その後の変化

3-1 区画整理と道路

3-2 国道 50 号線

3-3 農地から宅地へ

3-4 子どもの数の変化

3-5 移り住んできた方たち

3-6 小売店や生活圏の変化

4：地域コミュニティ

4-1 旧旭町自治会からのつながり

4-2 神社の祭りや自治会のイベント

5：田園環境都市おやまのまちづくりについて

7 | 駅西地区の変遷を知る方

1：小山地区との関わり

2：50～60 年前の駅周辺の様子

3：子どもの頃の遊び

4：西口の商業施設

5：駅西と駅東について

6：田園環境都市おやまのまちづくりについて

8 | 小山地区の変遷を知る方

1：昭和期の工場の進出

2：昭和期の商圈

1 | 自治会リーダーの方々

対象者：70 代の男性 4 名。駅西・駅東から 2 名ずつ。

全員が県外の出身の方で、小山市での就職や、転勤を経て小山勤務時代に小山市で家を持った方など。

実施：2022 年 9 月 2 日 13時半～15時 小山市役所会議室

1：小山地区との関わり

◎出身は茨城県で、小山地区に住んで 35 年がたつ。子育て中は育成会役員も経験し、その後、自治会役員をやっている。

◎関西出身の転勤族で、北は宮城県から南は兵庫県まで 7 箇所くらい転勤をして、38 年前に小山へ引っ越してきた。小山にきてからは新幹線通勤で東京勤務も経験。退職後に自治会で役員をやるようになった。

◎青森県出身で小山市に工場がある会社に入社した。東京本社の採用になって、その後、地元の青森県の工場へ異動。30 年前にまた東京本社へ異動になったが、会社の社宅が小山市にあり、小山から新幹線通勤で通っていた。子どもが小学生の頃に育成会に入り、それを機に、それまでほとんど知らなかった小山についていろいろ勉強した。地元の育成会に入りまして、そこで子どもと一緒に小山についていろいろ勉強して、その後、自治会の役員をやるようになった。

◎県外の出身で、集合住宅の小さな自治会で会長をやっていますが、風呂や排水、鍵を会社に忘れて家に入れないなどのトラブルにも対応している。

◎駅東地区の自治会も圧倒的に地元の人よりは県外出身の人で、東京方面に通勤している人が多い。

◎出身地の青森と比べたら、小山は物価も安いし自然があるので、散歩しながらでも楽しい

し、住んでいて環境もいいと思う。

◎小山に転勤で来たときは借家だったが、住んでみて自然災害がほとんどないことがわかった。ここは割合いいところだなとわかったことと、たまたま近所と仲良くなれたこともあって、借家から500メートルぐらいのところの土地を買って家を建てて住んでいる。

2：この数十年の小山地区の変化

◎新幹線ができる前は畑が圧倒的に多かった。新幹線が通るようになってから、宅地で購入する方が多くなって、今はもう畑はほとんどない。全部住宅になっているので。

◎ただ、この数年では空き家が増えたのと、あと子どもが少なくなった。本当に子どもが少ない。だから、コロナが収束しても祭りで子ども神輿が出せないのではないかと心配している。

◎うちもこの10年で子どもの数が減った。小中学生が100人を超えていたのが今は70人だから25%も減ったことになる。

◎うちのほうは15、6人しかしない。小学生は10人ちょっと。

◎総合公園近辺は、昔は田んぼで、せいぜいお正月に数人の子どもが凧揚げをするくらいだったのが、今、総合公園がきれいになって住みやすい環境になった。

◎大昔は外城というのは、小学校に行くのに思川を渡って穂積地区に行っていたらしい。昭和23、4年ぐらいまではそんな感じだったのではないか。もう少し後の25、6年までかもしれない。今、75歳だが同じ歳の人が小学校2年まで穂積地区に船で通っていて、雨で水が増えたら学校が休みになったと聞いている。

◎外城地区はその当時は駅前に出るとKDDのほうに行く細い道しかなくて、小山のほうには出てくる道がなかったと聞いている。

3：地域活動への参加

◎いろいろな行事をやっても参加者が少なくなってきた。自治会でも育成会でも「役員になっているから参加しているよ」という人が多い。役も何もないのに進んで参加する人はだんだん少なくなってきた。

◎駅東のエリアでは、ある程度は年齢的にも若い方が結構住んでいるので子どもの数も極端に減っていない。育成会は、それなりに活発に毎月定例会をやり、自治会の行事にも積極的に参加してくれている。夏祭りも今のところ、子どもの神輿と大人の神輿を出している。

◎駅東の大人の活動に関しては高齢になってきたので、最近は若い人の参加がないと活動が大変なことも多い。東口の白鷗大学キャンパスの学生さんにも参加をお願いすることや、外国籍の方にも参加してもらおう方向で考えている。お神輿を担ぎたいという外国籍の方は結構多いので。何とか地域の中で活性化してくるようなことを進めている。

◎高齢者対象でいえば、小山市のいきいきふれあい事業でのゲートボールだとかカラオケだとかの催し。あとは、コミュニティ活動の中では、今、小山市で、コミュニティの交流センターというのを作っていただいている、そこでのいろいろな一般教養の講座とか、あとは共通の趣味を持つ人たちが集まってサークルを開いて活動するとか、そういうことが割合進んでいる地域。利用者、参加者は増えていると思う。

◎うちは、自治会でやっているのが、グランドゴルフで週2回。健康マージャンを毎週やっていたが、今はコロナでできていない。先程の話題に出たふれあいセンターとは別に、健康教室もやっていたが、今はコロナでやってない。あとは自治会として希望者でゴルフを2ヶ月に1回やっている。

◎ただ、小山市全体対象のことだが、社会福祉

協議会のシニアライフアップ講座（高齢者生きがい講座）では、いろんな講座があったが、補助金が減ってきて講師が呼べなくなり、今は少なくなってしまった。

4：人口や子どもの数の増減

◎駅西では、35年ぐらい前まで、鷲城・鷲神社の児童公園のところで、町内で5班ぐらいに分かれて毎年、運動会をやっていた。参加の商品もお茶とか醤油とかを用意して。相当な人数が集まって、わいわいがやがやとやっていたが、今はそれがなくなった。

◎その児童公園跡も草ぼうぼうになって手入れがなくなってきたので、今年（R4）近隣の自治会とも相談をして、自治会として申請して公園の廃止の作業をしてもらっている。子どもも減ってきているし、神社の参道の中にあるので普通は人が行かない。過去にも公園の中に廃車のマイクロバスを捨てられていたり、浮浪者が住み着いたり、参道の水道が出しっぱなしになっていることなど問題があった。

◎自治会によって、子どもの増減は違いがある。うちの自治会は加入者が900名弱で、そのうち75歳以上が150名くらい。子どもは70数名。自治会の班の中で、小中学生が全くいない班もある。

◎うちは子どもがいない学年もある。340世帯くらいで75歳以上が250人くらい。

◎子どもが減っていないのは駅東の城南地区等。住宅ができてどんどん増えている。

◎西側のまちの中は確実に子どもの数は減っている。

◎駅前の高層マンションでも子どもの数は増えている。県内の他の市や県外から小山に入ってきている。市のほうで人口を増やす対策をしてくれていた結果だと思う。

5：小山地区での利便性と高齢者の困りごと

◎小山地区と一口に行っても、場所による。うちは車がないとちょっと生活できないかな。

◎駅前地区に住んでいるので、スーパーも4、5軒あり、自転車でもほとんど生活できて、あまり車を運転することはない。環境的にはいい場所に住んでいて、あまり車に頼る必要はないので、75歳ぐらいになったら免許返納しようと考えている。

◎駅まで徒歩で20分くらいでバスも通るところだと、日常生活にそれほど困ることはない。

◎同じ小山地区でも鷲神社の周りはスーパーが遠くて、自力で行くのは高齢者には無理。3年ほど前から自治会で独自に社協と共同で買い物支援事業を始めた。今は月に2回だけだが高齢者をスーパーまで車に乗せていく。まだ利用者は少ないが、利用した人はとても喜んでくれている。それぞれの地区の状況にあわせてやり方を工夫すれば良い。

◎確かに、今後、高齢者や独居老人が増えてくると、買い物をするためのシャトルバス的なことなどいろいろ工夫していかないといけない。市からの助成も必要ではないか。そういう話は、他の地区でも聞く。地元にあったスーパーが倒産してしまったから、買い物へ行くのも高齢者が多いところは大変だということで、買い物をするためのバスを自治会で考えてくれないかという相談がきていると聞いた。

◎うちの自治会の買い物送迎の支援事業を利用されている方々は、自力で「おーバス」に乗れないこともないけど、ちょっとしんどい。一応、体が動いて、そうかといっておーバスを利用するのは厳しいというような高齢の方たちへの支援になっている。

◎おーバスは、市民病院方面へ行くのはとても混んでいる。朝夕の通勤時間などを除けば、利用者は少ない。せっかく走らせているのに人が

乗っていない。もっと日中の活用の仕方を、買い物支援などにも広げて考えたほうがいいのかもしれない。この近隣で言えば、古河の先の茨城県道の境町。高齢者の支援の意味もあって、無人バスを走らせている。よその地区もいろいろなことを工夫している。

◎欲を言ってもきりがないが、おーバスももう少し回数頻度があれば利用しやすい。2時間に1本だとか3時間に1本ということになると・・・。おーバスが満員になっているというのは、私は見たことがない。

◎満員は市民病院行きぐらいしかない。

◎せっかくいいバスを走らせているけど、行き先や路線によっては、ほとんど人が乗っていない場合も。本当に走っているのかと、そのときは感じてしまう。

◎いろんな人が利用しやすいように方々の行き先へやたらジグザグと回っていく。だから利用目的によってはとても時間がかかってしまう。

◎ホノルルの巡回バスも参考になると思う。

6：大切なもの～思川沿いのエリア

◎あれだけの広さがある総合公園も、イベントだけではなくもっと活用を考えていきたい。

◎緑地公園（思川緑地）があるが河原が草ぼうぼう。これは県の管轄になるが。要するに大水で土砂が堆積して、全部そのままどどん川底が上がっていく。それで草ぼうぼうになっている。草も歩道のほうへだんだん出てくる。

◎昔は屋形船があって、そういうのが復活できたら面白い。鮎釣りもしているから、うまく結び付けて。

7：解消したい困りごと

7-1 ゴミ問題

◎自治会長の立場から言えば、やっぱりごみ問

題には困っている。

◎決まった場所に分別とゴミを出す日というルールを守って出してもらえたら問題はないが。

◎回収が終わった後に、その日には回収してくれないゴミが残されて散乱している、それをカラスがつついて、さらにひどい状況になる。まちの景観をものすごく壊す。歩道にごみ用のネットがぽんと置いてあるのも、ああいうのはやはり景観的にも何かできれば良いと思う。

◎アパートの学生さんがそれを守らないケースが多い、これが一番問題。

◎集合住宅やアパートには、外国の方が増えている。中国、ブラジル、ペルー、ボリビア、フィリピン、タイ、カンボジア、インド、ネパール、スリランカ、パキスタン、ナイジェリア、マレーシアなど。自分の国での習慣や言葉の問題からか、ゴミの出し方や分別が徹底できないので自治会役員は、その対応作業で大変苦労している。

◎夜遅くまでやっている飲食店の人たちは、お店が終わってから、回収の日かどうかにかかわらず、ゴミ回収場に、ゴミ袋をぽんと投げていく。その片付けにも苦労していて、市の担当課と、よく話し合いながらやっている。もう少しで状況も改善されてくると思う。

◎自治会に入っていない人は、自治会が管理するゴミステーションではなく、自分で総合ゴミステーションや焼却場に持ち込むのが本来の姿。だがなかなかそこまでできないということで、夜中などにこそっと置いていくこともあるようで、収集日ではないときにゴミが放置され散乱することもある。

◎なかなか難しい。自治会で管理しているから加入していない人は出さないでくれとも言いにくいのが現状だ。

◎罰則規定を考えたりしている自治体もあると聞く。小山地区でも、小山市の担当課と色々話し合いをして解決策、改善策を探っている。ゴ

ミカレンダーなどの周知徹底も課題だ。

7-2 消防団の担い手不足

◎最近気にしているのが、地域を守ってくれる消防団のなり手がいないこと。自分のところで依頼している分団から、自治会の方から1人でも2人でも消防団員になる人を推薦してもらえないだろうかという依頼がくる。東京方面に通勤している人は平日の夜の活動に参加しづらく地元の企業に勤めている人ぐらしか頼めない。が、地元の企業でもその企業が消防活動に理解を示している企業でない限りは無理。今のままですと消防団は持続できるのかどうか心配だ。

◎消防団は手当が低い。準公務員として法律で決まっているはずで、だいたい年間10万円ぐらいだったと思う。それを補填する意味で各自治会から分担金という格好で1戸当たり150円だとかを分団ごとに決めて・・・昔からの風習。ところが、準公務員に対してということで、法律違反、賄賂になってしまう。

◎以前は、活動の後に、訓練後の楽しみや親睦で、みんなで飲んでというのも多かったようだが、今は備品を買ったりもしているようだ。

7-3 水害

◎小山地区でも、思川沿いは、水害の不安がある。うちのほうは東北・関東豪雨と台風19号で2回の被害にあっているのだから、治水対策が一番の問題です。自治会ではどうにもできない。行政頼みで、ようやく話がまとまって、今年から具体的な工事に入った。

◎昔と違って、今は通常の河川でも線状降水帯がそれこそ半日ぐらいかかっていたら、あっという間に氾濫してしまう。自然環境も気候も昔とはだいぶ変わっているのだから、そういう河川のそばにいと不安は尽きない。

◎地価も下がっている。売りが出ても取引が少

なくなってきた。水害の心配がある時は買う人が少なくなってきたというのが現状。

◎台風が来るたびに、トラウマになっている。

◎地震の被害はほとんどない。関東近辺で地震があっても、ニュースに出る小山の震度は、近隣より全部一つ低い。

◎今のKDDIは、昔、海外との無線の通信所があって、軍が、小山は岩盤があって地震が少ないという情報を持っていて、それで小山にできたという話を聞いている。

8：田園環境都市おやまのまちづくりについて

◎30年近く小山地区に住んでいるが、昔と比べて変わったのは、駅前の高層マンションの数が増えたこと。いろいろな地域から来る人たちが集まってきている。そういう人たちに、小山の魅力は何だろうかということを理解させるのはこれからの課題にもなる。

◎田園環境都市のまちづくりを進めるのは良いと思うが、こういう意識を高層マンションなどの都市部にも田園地帯にも、両方に住んでいる方に広めていかないと、絵に描いた餅になる。

◎町中はそういうふうだが、田園地帯、郊外も人口が減っているところばかりではなくて、住宅開発で子どもも増えているところもある。まちの中がドーナツ化も進んでいるのではないかな。

◎転入してきて家を持つ時の助成金の申請^{註1}でも、自治会に入会することが条件になっているようだ。今回新築された方がいて、自治会加入の証明で自治会長のハンコをもらいたいと来た方がいた。良い施策だと思う。

—

註1：小山市転入勤労者等住宅取得支援補助金

◎以前、市民フォーラムに参加した。小山駅を中心に東口、西口から人が集まって、どうい

ことをしていけば活性化できて観光的なことがもっと進むのかというような意見交換をした。小山市以外から転入してきた方が、いろいろな街でのいろんな経験を持っていて、そういう話がディスカッションの中でも結構出てきていた。そういう意見から、市にはいろいろ考えてもらうことも必要ではないかと思う。

◎田園環境都市小山ということで都市部と農村部のことをうまくマッチングしていくためには、まずとにかく観光客を呼ぶとか住む人を呼ぶとか、そういうことが最重要の話ではないかと思う。それで人口が増えることになっていくだろうし。人を呼び込む魅力があるのを考えることは永遠の課題だと思うが、大切なこと。

◎最近、東京あたりに住んでいる人もリモートワークになっている人も増えて、別に東京に住んでいなくてもいい。働き方もだいぶ変わってくるのだろう。だから、今は地方都市も大きなチャンスが来ている。小山市も活発に素早く行動をしていただきたい。

◎人口を増やすには、工業団地をたくさん引っ張ってくることも必要。現実的に我々の自治会でもたぶん半分以上が地元の人ではない。

◎白鷗大学のキャンパスが駅の東口にできたことも大きい。学生数がすごく増えた。電車を使って県外からの通学者も多いと聞く。大学は、あと一つ二つ増えると、面白いと思う。

◎鷲城、祇園城、史跡もあるが観光資源としての活用が中途半端。惜しいと思っている。

◎交通量が多くなったから旧4号線などでも進まない時間帯がある。人口を増やすことを考えるなら、そういうインフラをもう少しうまく考えていかないと人が定住しない。

◎道路に関しては交通渋滞緩和を優先して進める必要があるのではないかと。50号から城南のほうに入って、あのあたりは週末を中心に渋滞していたが、今は一部2車線にする工事が進んだ

りして渋滞が解消されてきた。通勤で朝夕混んでいる道路も結構あるので何か対策がないと・・・。新しく小山に移り住もうと考える人は、道路渋滞や通勤時間のことも気にする人が多いのではないかと。

◎前から小山は交通の要所ということが言われているが、高速道路へのアクセスが悪いので、その看板は下ろした方が良く思う。

◎新幹線がとまる駅があって、これで高速インターが近かったら、住んでいる人にも、移住を考える人にも大変魅力があるまちになったのではないのかなと思う。

◎田園環境都市小山に対しての話というよりは、もう少し魅力あるまちにしていくには、小山市以外からの転入がもっと進んでくるのではないのかなと思います。もっと魅力を伝えていくことが大切では。例えば生井地区はコウノトリ、豊田地区はまた別な魅力、酒造などがあって、そういう田園の魅力をつなげるには田園だけではなく、市の中心部にまず人を呼んで、そこからシャトルバス的なもので繋いでいくようにしたら、もう少し観光客も増えるのかな。

◎観光ということで、例えば寺野東遺跡とか琵琶塚古墳（絹地区）などは予算もついて整備されているが年間で何人が訪れているのか、という意見も多い。観光で人を外から集めるのに、もっと目玉になるものをクローズアップしては。鷲城や祇園城は可能性があると思うが。

◎須賀神社の祇園祭も、お神輿を担ぐお祭りは、地元の行事としては一つの大きな目玉であるし、観光的な視点でのポスターなどでの周辺地域への広報もして良いのではないかと。

西口祭りも市民には浸透してきているが。小山の花火大会のように人が集まる行事はあるわけなので。

◎小山の花火も2万発で、北関東ではすごいイ

ベント。ところがこの企画がぼつんと単発で、何かもう一つまとまりがないような感じがする。無理やりこじつけることはないかもしれないが、祇園祭と花火大会を重ねて企画するなど、宣伝するなど、もう少し考えても良い。
 ◎まずは市の中心部で集客力をアップするためのPRの仕方を考えて、そういうのが増えてくればおのずと生井地区にいるコウノトリヘシャトルバスで繋ぐとか、色々策は出てくると思う。

 2 | JR 小山駅周辺マンション居住者の方々

対象者：男性4名（駅西側2名、東側2名。40代、70代）
 栃木県生まれの方1名、他は市外からの転入者の方々
 実施：10月5日 18時～19時半 小山市役所会議室

1：小山地区との関わり

◎西口のマンション居住。40代。母の実家は下生井。自営業で活動は基本小山市内だが、国内外でのボランティアの体験もある。

◎東口のマンション居住。60代。実家は東京都内。昭和32年生まれて国家公務員として全国を転々としていたが、最終的に実家もあった八王子に住んでいた。その後、農家の長女であった妻の実家がある栃木市に移り住み、その後、小山の東口のマンションに移った。妻の栃木市の実家には現在、親が1人で住んでいる。

◎東口のマンション居住。40代。埼玉県生まれで幼少期に栃木市に引っ越し。実家は大平町、妻の実家が小山市。結婚する前に小山市小山地区に引っ越しし、今のマンションができて引っ越して2年。都内の会社に通勤している。栃木市にいた頃より通勤は楽になった。在来線の定期を使っているが、子どもが生まれてからは、

時間が大切になり片道1200円の自腹でほぼ新幹線通勤をしている。

◎2021年夏、70歳になる目前で生まれ育った横浜市から小山市に転入し、西口のマンションに住んでいる。70代。小山市との縁は、娘が住んでいること。娘の夫が転勤族だが小山市にもう6年ぐらい住んでいる。娘家族を訪ねて、たまに小山に来ていた。たまたま現在住んでいるマンションの販売のチラシをみて、こちらに来ようかと半分思いつきのよう感じで決めた。ちょうど母親が亡くなって死後の整理等も全部済んだ後で、区切りをつけるにはいい時期でもあった。

2：他市と比べての小山市の特徴

◎横浜市と比べると、地形的に横浜は少し行くにも坂を下ってまた上ってという地形が随所に見られ移動が大変。小山は非常に平坦なところで移動がしやすい。道路も比較的広くて渋滞もない。どこかへ行くにしても、思ったとおりに時間の予定が組める。

◎駅の西側は、昔のまだ畑が多かった時代に耕地整理をきちんとされていたのか？道路の区画が非常に整然として、区画が美しい。駅から市役所に来るまでの間は、電線等の地下化も完璧にされており、すっきりした景観が良い。

◎3歳くらいの子どものいる家族で、休日も含めて、車には週に1回乗るか乗らないかという生活をしているというと驚かれるかもしれない。徒歩圏でなんでも済んでしまうし、電車に乗ればすぐ大宮や宇都宮に行けるので、そういう意味ではすぐ車を使わないエコな暮らしができる。おーバスも走っているのでイオンとかハーヴェストなどのショッピングモールへもバスで行く。

◎栃木市は、昔は県庁があって歴史の街でもありプライドがある。小山の人から見ると栃木の

人は閉鎖的に見えてしまうかも。逆に小山は工業団地があり、いろいろな会社の支店もあって商売をやっている地元の人も多いから、よそ者も受け入れる土壌がある反面、プライドは持ちにくいかも。栃木市は、市民活動がとても活発で、小山はどちらかというと商店主さんとか企業家の方の動きが活発という印象。

◎八王子市、栃木市を経て小山駅の近くに移り住み、概ね満足している。

3：地区の歴史的な資源と、認知度や関心度

◎お寺や神社が多いと思う。小山評定をテーマにした子どもの演劇のお手伝いをしたことがあり、他の人より地区の歴史を知る機会が多いと思う。小山地区は特に、外からの転入者の方が多いが、地区の歴史の話をしていても関心が薄いとを感じる時がある。

◎学生と一般が混じって受講する白鷗大の公開講座で歴史学を学んでいて、かなり面白い。都内でも大学の公開講座は受けたことがあったが、そちらは、一般は一般だけで学生は入らない。学生と一緒にだと、若い人はこう考えるんだということも知ることができて刺激になる。

◎地区の歴史に関心がない転入者も少なくはないと思うが、逆に関心を持っていても、それを知るすべがなかなかないなという気がする。例えばの意見として、小山評定が行われたということで、その現場に、教育委員会の方々にご尽力いただいて、昔のいきさつのようなものの、詳しい説明書きの看板を付けていただくとか、あるのかどうか分からないですが、そういうのも一つの方法ではないかと思う。

◎明治天皇の行在所（あんざいしょ）も小山地区にある。明治天皇がまだ即位してから若いころに、全国あちこちを視察したときに泊まった建物。唐破風（からはふ）の独特な建築物。個人所有なので中には入れない。敷地内に石碑は

立っているが、やはりそれだけではわからない。所有者の方との調整が必要になると思うが、もう少し周辺整備も必要ではないか。

◎歴史で言えば、戦国時代や古代史だけが歴史ではない。近現代史から見て小山地区は非常に重要な場所ではないかと思う。

◎今年1月に寺社巡りをしたときに気づいた。宮本町の時宗・現聲寺（げんしょうじ）というお寺の本堂は足利出身の小川三夫^{註2}さんが手掛けていた。小川さんは、最後の宮大工といわれた西岡常一さんのお弟子さん。寺社建築上は非常に貴重な建物で、おそらく今後あと100年、200年たてば、いっそう宝物になっていく。そういう建物を皆さんに知っていただくのも非常に大事なことだと思う。私も広報か何かで見て、小山市かどこかが主催した寺社巡りのツアーのようなものがあり、散歩がてら行ってみて巡り合った。

—

註2：おがわみつおさん。1947年栃木県矢板市生まれ。著書に『棟梁～技を伝え、人を育てる』（文春文庫）：聞き取り対象者の方からの提供情報による。

◎小山地区ではなく、絹地区になるが、高椅（たかはし）神社も食の神様として知られていて平日も県外から来ている方も。小山地区では、老朽化で本堂を建て替えている妙建寺もある。歴史が好きな方向けの情報ももっとあると良い。

◎小山地区では、やはり須賀神社。初詣や子どものお宮参りに行く。地区の人は、ほとんど行ったことがあるのではないか。

4：まちなみや景観、公園、街路樹

◎建物で言えば、思季彩館や塚本耳鼻科さんなど、けっこう昔からある建物で、よく見ると意外と良い建物が残っている。宿場町だったとい

う背景もきっとあるのだろう。駅の西側のみつわ通りも、今はシャッターがしまっているところも多いが、よく見るとけっこう味があるような商店だったのだろうと推測される建築が残っている。

◎他の地区に比べて公園の数は多いと思うが、お子さんを遊ばせるにはきちんと整理されていないところが多いという声を聞く。新しく整備した方が良いのか、あるものを生かしていく方が良いのかはわからないが。

◎バス停にベンチがなく、夏の強い日差しを遮る日陰もない。バス停の標識の下のコンクリートの丸い部分に、おばあちゃんが座っているのを見かける。また、暑い日差しを遮るものが何も無い。小山市のおーバスのバス停が、ネーミングライツと言って名前の所有権のようなものを買える制度のようなものがあるので私の事業所の前のバス停は、ちょうど通りを挟んで反対側のうちの土地と両方を買わせていただき、ベンチを置いたり、自転車置き場の屋根のようなものを設置している。都心だけではなく田園地帯でもそのような環境が整えられていない。車に乗れる人はいいと思うが、乗れない方たちにしたら、バス停でバスを待つのに、日陰もなく座る場所もないというのは、本当に大変なことだと思う。

5：解消したい困りごと

5-1 東西の往来の不便さ

◎駅から市役所に向かう道路の歩道で、特に駅から市役所に向かって左側の歩道は、意外と凹凸があって歩きにくい。たぶんあれは雪がもし降ったような場合は滑りやすいのかなど。高齢者の部類に入るので、普通に歩いていると結構細かな凹凸が気になる。

◎住んですぐ感じたことだが、駅の西側と東側をつなぐ道路がまともなのが1本ぐらいしかな

い。駅に近いところで東西を結ぶが通れる道が必要。

◎東西を繋ぐ道のことを歴史的な経緯で言うと、西側は貨物ヤードがあり、東の白鷗大学とかロータリーがあるところは、ニップンの工場などがあり全部が埋まっていて、南側は機関庫があり、鉄道系の施設にブロックされている形で、道を通せなかったと聞いている。今後は、東西で抜けられる道が増えてほしい。

◎東側に住んでいて西側に用事があると、車では時間がかかり、歩いた方が断然早い。

5-2 治安の悪さ

◎夜の駅付近は、女性スタッフが1人で歩いて帰っているときに、声をかけてくる男性がいて怖いという話を聞く。

◎西口より東口のほうが治安が悪い。

◎夜中になるとコンビニの前にたむろする若者が増えてくる。金曜の夜になると、大音量でカーステを鳴らして車が集まる。暴走族も結構いて、前時代的な印象もある。夜中の騒音があまりにひどいときは警察に電話をしている。

◎以前住んでいた神奈川にも、暴走族や違法改造車で走る人もいた。どこにでもあることかもしれない。

◎毎週末コンビニに集まってくるところは、北関東っぽいかもしれない。彼らは居場所がないのだろう。居場所がないから小山駅近くのおそこへ行けば、仲間に会えるという感じ。この辺に住んでいる若者ばかりではないようだ。つくばナンバーもいる。

◎夜になると、南口の自由通路でスケボーをやっている。仕事帰りに、そこを通る者にとっては迷惑なのだがスケボーができる公園がないことも一因。見方によっては、彼らもかわいそう。遊び場がない。スケボーができる公園のようなものがないとか。あれも見方によってはかわいそうなんです。通るほうは迷惑だけど。

◎いろんな見方をしないといけないですね。うちがバス停に設置しているベンチも、たぶん夜にそのベンチで飲み食いしているのか、そのままゴミを置いていく方もいる。ゴミ箱を設置すると、家庭ごみを入れていく人もいる。よかれと思ってやっけていても、違う使い方をされてしまうこともあったりして、なかなか難しい。

6：マンション内のコミュニティ、 地域との繋がり

◎近隣のコミュニティとしては、マンションの総会とかもここ2年、コロナで開催されていないので、正直、同じ階でも横に誰がいるのかも分からない。マンション自体に、どんな年齢層でどんなバランスで入っていらっしゃるのかもわからない。

◎たまたま自治会に入ってくれという依頼があり加入したが、もともといた方たちがボランティア的にやってくれているところが多いと思うので、若い人たちが自治会に入ったとしても、仕事や子育てに忙しく、自治会活動に全面的には協力できず、余計どういった人たちが近隣にいるのかは分からない状況なのだと思う。

◎うちのマンションも、ちょうどコロナ感染が広まってから引っ越してきたということもあり、なかなか顔を合わせる機会がない。私は仕事をやっているのですが、理事会の中で顔見知りになった人くらいの繋がり。一度だけ地震の時に停電になって、理事たちみんな懐中電灯を持って見回りをした。少しずつ知り合いやコミュニケーションが増えていけば・・・。

◎マンションの下には保育園があり、そこに通わせている親同士はお互いに少しずつわかってくる。後は、幼稚園などでも同じマンションだとわかれば親しくなれるのでは。

◎ただ、マンションの外とのつながりはほとん

どない状況だと思う。中でもまだまだなのに、外とのつながりは難しい。自治会の役員の方も理事会に来てくださって入ってくださいと言われるが、内部でのコミュニティが正直できていないから、まずはそこを作らなければいけないと思う。

◎大きなマンションの場合は、自治会についても、周辺部の自治会の考え方とは変えたほうがいいのかもしれない。マンションの理事長と話しているのだが、マンションの場合は理事会イコール自治会のようにして、そのマンションの中のコミュニティとして自治会をきちんとやっていったほうがいいのではないかなと思う。それができた上で地域とのつながりができるのではないだろうか。防災や災害時の取り組みなど、周辺地域との連携は必要だと思う。

◎今のマンションに引っ越してきたときに、隣やその隣の方にご挨拶に行った。しかし、チャイムを押しても不在のことが多い。エレベーターの中でお会いする人には、最初は「このマンションにいらっしゃる前はどこにお住まいだったのですか？」など声かけをして、そういう日常会話のきっかけをつけるつもりでいた。が、家族に「変な人だと思われるからやめた方がいい」と言われ、あまり話をしないようにした。だが、あの個室の中で乗り合わせて、無言でいるのは何か私は非常に不自然な感じもする。かといって、いつも、当たり障りの無いお天気の話ばかりしているのもおかしい気がする。接触を好まない人もいると思うので、難しいところだが、実際のところ、あえて自分から挨拶などの働きかけをして、そこから知り合いになり、妻は、一緒にお茶を飲みましょうという関係に発展したりしたこともある。

◎災害や何かあったときに、マンションの中に助けが必要な方がきつといらっしゃると思う。一人暮らしや、二人暮らしだけど、お一人が仕事に出ている1人残されている方など。やは

り、近所付き合いをやっておかないと、そういう情報がわからない。市で、そういう面倒を全て見ることができるかという現実的ではなく、マンションの課題としては、自分たちである程度は、共助の仕組みを作っていくことではないかと思う。

7：地域のイベント

◎マルシェにはよく行っている。情報源はSNSや「おやナビ」が多い。ネット上に情報が取り上げられると、今週これがあると気がつく。

◎若い世代が集まる場所としてはロブレがあると思うが、まだまだ活用や改善の余地がある。どちらかというと、人が集まりにくく、使いづらいので、その改善を目指して飲食店を出したりしている。勉強をしている高校生、中学生が結構多くて机が足りないという問題も実はある。平日は、ロブレのお客さんもうがらがないので学生さんたちにも勉強の場所の提供することなどを今後考えたい。

◎イベントに関する情報発信は、活発であれば良いと思うが、自分の関心に合う情報があるかどうか、自分が関心があるかどうか肝心なので、情報が多い方が良いとは一概には言えない。

8：田園環境都市おやまのまちづくりについて

◎今の小山市は、そのバランス的にはいいと思う。人口は16万6000ぐらいでしたか。その規模の年で、この田園環境と都市環境のバランスがどのように形成されたか、そこを検証することが必要。たまたま新幹線など交通網の発達にともなって人口が多くなって、その結果としてそういった都市部と田園風景が広がる部分が形成されてバランスが良くなったのか。たまたま、このようになっているのか。それとも何ら

かの努力があったとしたら、どのような努力が介在したかは、検証していく必要があると思う。私たちの子ども、孫、ひ孫の世代にも残していくとすれば、今までどういう努力があってこういう今の状態が作られたかをもう一度検証して、そういった手法も少し研究する必要があるかもしれない。

◎小山に引越す前、横浜では、退職後に農業をやっていた。横浜市は都市農業の推進を進める都市農業課という部署があり、都市化が進み過ぎていっているので農地を残していこうという働きかけをしている。東京の練馬区や世田谷区でも同じような取り組みをしている。やはり緑の環境を保全してなんとかしていかなければならないという、策的には非常に立派なことで誰も反対する人はいない。ただやはり、農家の方々に相続が発生したりすると、相続税とか国が直接絡む税制とかで問題に直面する。市役所として相続の悩みにどのように応えられるか、限界はあると思うが、そういったことも同時に考えていかなければいけない。小山市の場合、急激に都市化が進んで、田畑がなくなってしまうことはないと思うが、今後はそういった取り組みも必要になってくると思う。

◎小山の農産物が手に入る場所も、もっと増えると良い。思川の道の駅まで行くと地元産の新鮮な野菜が買えるが、スーパーマーケットには、地元産の野菜が少ないのではないかと感じた。独自の流通経路や仕入れの経路を持っているから、周りに畑がいっぱいあっても、その野菜をとというわけにいかないと思うが、小山市の農家にとっても消費者にとっても新鮮なとれたての野菜を消費できるメリットは当然あるわけなので、検討に値すると思う。

◎道の駅や直売所などでは、通常は商品にならないような、例えばナスとかキュウリなどで形が曲がったものも地元産の野菜は売っている。

そういう点が非常にいいと思う。

◎渡良瀬遊水地は、栃木市の子どもたちは小学校の遠足で行っていた。電車に乗って藤岡まで。今も多分そうだと思う。今、親が住んでいるのが大平なので、小山地区から大平まで美田地区を抜けていく。田植えをする前の麦の季節や、夏に収穫を迎えるあの麦秋と呼ばれるあの季節、稲と麦との二毛作をやっている、この地帯独特の風景で、とても素晴らしい。また平地なので、ちょうど真正面に太平山がきれいに見える。地元の人たちは、毎日見る風景で、その良さに気づかないかもしれないが、小山の田園地帯は、いいところが多いと思う

◎田園部も都市部も、いろいろ考えていかなければいけないことが多いと思う。母親の実家がある田園地帯も、地区に小学生が少なくて、すぐにいなくなるだろう。そういう地域で何か新しいことを始めようとする若者は出てこないと思う。都市部の駅周辺も、駅ビルは、立地もそうだし、電車で通勤する共働きの人も増えていることを考えると、大きく活用していかないといけないところだと思うが・・・最初はテナントを入れるときに行政の補助があったと聞いているが、今は全くないので、テナントがガラガラ。厳しい環境ではチャレンジする人がいないのでは。行政としてのフォローも必要だし、市民も、自分の住んでいるところをよくしたいという理想は皆さん変わらないと思うので、すぐにではなくても、少しずつ何か変えていかないと・・・田園部と都市部では、どちらも変えていかないと、差が逆に開いてしまうのではないかとこの心配もある。私もできることは限られているが、生まれそだったところなので、自分の役目を考えて携わっていこうと思っている。

◎30年後を考えると、やはりもう箱モノを作る時代ではなくて、いかにコミュニティーを作っ

ていくかに舵を切らないといけないと思う。都市と田園と、結構対比されると思うのですが、まちの在り方としたら、コンパクトシティのほうが絶対よくて。この小山駅中心とか間々田駅中心とか、そのあたりできちんと徒歩圏で全部済ませられるような都市でないと、将来的に市が税金を使って投資をするにしても、小山市全域に投資はできないはずで、切り分けは必要ではないか。そうなったときに、田園部が見捨てられるかというところではなくて、都市部に住んでいる人たちのサードプレイスが田園部になるのかなと思う。そこに定住しなくても交流できるとか、バーベキューや自然体験ができるとか、コウノトリがいるよとか、夏は泳げるよとか、都市部と田園部がうまくリンクしていくまちづくりもしていく必要があるのではないかとこの思う。

◎小山はどちらかというと、交通の便が良いので、勝手に、というか自然と人口が伸びてきている。出身地の栃木市は、栃木市が合併した時に、小山と同じぐらい16万5000ぐらいになったが、今は減り続けて15万前半ぐらい。1市5町で合併して、その後、1万人ぐらい減ってしまった。それは逆にいうと、明日の小山かもしれない。だからなおさら、都市部と田園部の繋がりがうまく維持できる、そういうまちを目指したほうがいいのではないかとこの思う。

◎ロブレの話が出ているが、私も都市部と田園部のバランスを良くしていくと考えたときに、まず駅前をきちんと、もう少しいきいきとするための再整備が大切だと思う。今は再開発構想などもあるようだが、もう少しいきいきのいい駅周辺の環境を作り上げるのは急務だと思う。そのためには、何と言ってもお金だが、市の財政だけで単独でやるのはなかなか難しく、国の補助金も必要。小山は16万の中規模の人口で、とても住み心地のいいところで、もっと住み心地が

よくなるはずだと思う。

◎田園部では、農業後継者がいないとかいろいろ問題があると思う。食料の自給率をは先進諸国の中では日本は最低のほうにランクづけられてしまう状況がある。自給率を0.1%でも高めていくためには、小山では、地元の農業は絶対低下させてはならない産業だと思う。一次産業は、フランスにしてもドイツにしても、どの先進諸国も国がかなりの対策費を投じて農業は成り立っている。日本ももっともっと政府が直接補助金を投じて、農業を盛り上げていくような方策をしてもらおうように働きかけをしたほうがいいと思う。

3 | 若手商工業者の方々

対象者：男性4名・女性1名 30代・40代

商工会議所青年部所属の方々

実施：10月20日 18時～19時半 小山市役所会議室

1：小山地区との関わり

◎小山市で生まれ育ち、大学時代だけ市外に出ている、Uターン。子どもの頃は思川などで外遊び、たまり場と言ったら城山公園が長崎屋の地下。現在は休みの時は市外、県外へ出かけることも多い。

◎生まれも育ちも中央町。城東に住んでいるが、子どもの頃、学生の頃は、さっき話が出た長崎屋の周りでずっと過ごしていた。

◎自宅は栃木市。10年前に会社で小山に来た。生活圏として、毎日、栃木市から小山地区へ車で通勤。宇都宮市にボランティアの方の事務所があるので宇都宮にも。

◎出身は姫路で親が転勤族だった。自分も13回転校して小山にはのべ3回きいている。多感な時

期は小山で過ごした。両親が50になって、同世代はみんな家を建て落ち着いているのに、まだ引越し生活を続けていたので、母親に定住したい土地を選んでもらって家を建てよう、と家族で決めた。母が選んだのは、故郷の関西ではなくて小山だった。子育て時代を過ごした小山で、その時期の友達がずっとつながっていた。今のようにネットとかがない時代に、手紙や電話でずっとその縁をつないでいて小山に愛着が湧いたようだ。父親の会社の本社も東京で通勤に便利だったこともある。自分自身も家庭を持って小山に暮らしている。

◎生まれは佐野で、自分が20代前半のときに家族で小山に引っ越してきた。親も小山で営んでいた会社を引き継いだ。顧客のほとんどが、東北、関東近県、東海などで、小山にはあまり知り合いがいなかった。商工会議所の青年部に所属して、同業者、異業種など知り合いが増え、繋がりが作れるようになった。

2：生活圏～自然と触れ合いたいとき

◎休みの日などに、田園地帯の渡良瀬遊水地まで行って何かするというのは、まちなかの人は多分ないと思う。コウノトリの話はよく聞かす。小山地区から小山市内の自然があるところへ出かけるとして、せいぜい桑の大沼ではないか。渡良瀬遊水地は、ずいぶん前にナマズ釣りに行ったことがある。

◎自然と触れ合いたいなと思って小山市内は行かない。魚を釣ってもいいときは大沼に子どもと行って、ついでに何周も散歩をしていたこともあった。魚を釣ってはいけなくなってからは行ってない。歩くには気持ちの良い場所だが、もっと遠くへ行く方がいいと思ってしまう。渡良瀬遊水地も同じで、釣りに行ったり、自転車に乗りに行ったり、あとはコウノトリの巣を見に行ったりしたことはあるが、やはり、もう一

回行こうとはならなかった。キャンプの真似事みたいなことをしようと思うときは、やはりもう少し北のほうに行って、川にそのまま遊びに行けるキャンプ場などを選んでしまう。小山に住んでいて小山の自然を満喫するというのは、春の総合公園の桜だったり、そういう季節性のあるような場所が多い。

3：本職以外での地域活動

◎本職以外の活動として、青年部活動、青年部のサークル活動、太鼓、サッカー、山登りチーム、ゴルフチームも。PTAの役員として活動している人も多い。

◎太鼓のサークル名は、小山 YEG 暴れ太鼓。発足5年。地元のお祭りに呼ばれて演奏することもある。みんな忙しいが、町の盛り上げに一役買えたらということで続けている。発足の経緯は、小山商工会議所青年部が40周年を迎える年に、30周年のときはプロの太鼓チームを呼んで演奏してもらったが、40周年は自分たちでやりたいということで、足利の黎明座という所の先生の指導を受けに行き立ち上がった。40周年の式典の中で披露するために始まって続いていて、アクティブメンバーは20名ほど。

4：小山駅周辺の変化

◎ロブレの前の三夜通り^{註3}。今はシャッター街だが、昔は歩く人の肩と肩がぶつかるくらい賑わっていた。都市開発の流れの中で、次に祇園城通りがシャッター街に。イオンなどの大手が小山にも進出してきたことが大きいと思う。

—

註3：さんやどおり。『小山市史 通史編Ⅲ近現代 (P1008)』には、終戦後の小山地域が商業の復興に進むなかで、昭和20年に駅前通りの商店主が小山町商工会を結成、昭和21年には小山地区3町7村の商人により小山商工会議所が結成されたと

ある。三夜通りについては「昭和23年に三夜通り商店街がつくられ、道路の改修、スズラン灯の設置などが進んだ。」と記載がある。通りの名前の由来については、小山市史など文献での記載を確認できていないが、小山市観光協会のホームページの常光寺のページには次の記載がある。「JR小山駅西口にほど近い、鎌倉時代創建の寺。阿弥陀如来像には、1868(慶応4)年の戊辰戦争に伴う、激戦により受けた弾痕が残っている。また、二十三夜堂は町内の氏神で、二十三夜待ち(おひまち)をしたことから、門前の通りを「三夜通り」という」

<https://oyama-kankou.info/history/jyoukouji/>

◎昔は金曜日の夜とか、小山地区、特に駅周辺は、人出もすごくて、大騒ぎが起きていたり、けんかをしていたり、警察が来たり、本当に賑わっていた。ロブレができる以前に衰退していった、ロブレができたことで人の流れが変わってしまって、駅周辺の路上や店に人手がほとんどなくなってしまったと思う。

◎駅周辺では、町の小売店などがやっていけない状況になっていたが、最近ではまた時代が変わってきて、比較的若い人たちが、いい物件があれば、お店を出そうとしている。画一的な価値観で楽しむのは郊外の大きなショッピングモールなどで、個人で個性的な店が出せるのが駅前という、そういう流れが、若い人の頑張りできてきていると思う。最近では、空き店舗でも、いいところは、借り手がついてくる。小さくて良いから飲食店やショップをやりたいという人は入りやすいかも。Café FUJINUMAの例がいい手本になっている。

◎比較的若い人たちがいろいろなイベントをやったりお祭りをやったり、とにかく人が集まるようなことをしているうちに、だんだんいろいろな人を巻き込んでいって活性化されてきていると思う。

◎小山地区の小売店は、例えば10年前などもそう多かったわけではないと思う

◎洋品店や金物屋など、開いているけれど休業

しているような状態がずっと続いていると、商店街が形成されていないことになるので、そこにわざわざ買いに来る人はいなくなる。ネットで買い物ができるようになって、今までの商売が成り立たない人たちも出てきて商売をやめる人がいた一方で、今こそ自分でも商売ができるという人が店舗を借りて参入してくるなど、そのような変化もある。

◎教育の分野では、外国の方がお客さんとして入ってきたのはこの2、3年。今の親の世代の30代40代は日本で生まれ育っていて日本語ができる。ここで仕事を持てるから収入がある。そして子どもを塾に通わせることができる、そういう余裕もあるのかもしれない。2世、3世が育ってきて、外国の方々も小山に定着してきているのかなと思う。

◎小売店は、昔から例えば学校に納めているところがある。大手では値段設定など、融通が効かないところも、地元の小売店なら、自由が比較的効くので対応できる。そのあたりで堅実にやってきたところは、小山市のような地方都市では、生き残っていくようだ。

◎地域密着型。それが生き残る手段でもあり、そういう店舗は小山には実は多い。

5：駅周辺エリアの現状での課題

◎駅の東と西に白鷗大学キャンパスがある。だから本来、学生がそこを行き来するはずなので、そういう若い世代がカフェに寄ったりするという賑わいも期待できるはずなのだが、大学のバスが無料で出ているので、学生は街を歩かない。徒歩で行き来できる距離ではあるので、もっと歩いてくれるといいのだが。

◎駅ビルでの小さな飲食の出店も、タピオカや杏仁豆腐などけっこう有名店が入ったりすると一時はパツとはやるんだよね。しかし、小山の人は飽きるのも早いように思う。

◎ロブレの中の地下は実は今まで3社が生鮮市場で入っていたが、3社とも撤退。

◎駐車場の問題があり、やはり主婦層は買い物に来ない。

◎駅前マンションに多くの人が住んでいるが、みんなどこで生鮮食料品を買っているのか。

◎結局、離れたロブレの駐車場まで買ったものを持って歩くことを考えると、少し車で走ってスーパーの方がいいということになる。

◎城南などだと、マルエツや他のスーパーの、いつも多くの人がきている。

◎だから駅前、特にその中心部は、最近ちょっとほかのエリアに負け始めている。

◎小山地区よりもう少し田舎だと、ほぼ顔が見える関係がある。商工の繋がりでも顔が見える形で情報の共有がされやすいと思うが、小山地区の場合、それなりに出入りがあったりして、自分たちも、YEGとかJCとか商連とかに入らないと人間関係を作れなかったかもしれないと思っている。商売の情報なども持っている団体に限られているという面もある。

◎サラリーマンの方などとは繋がりができていない。

◎飲食業界は、コロナからの復活も宇都宮市と小山ではスピード感が全く違う。宇都宮の人が来るたびに「小山はまだ、どこへ行っても活気を感じないですよ」という言い方をすることがある。人も歩いていないし、西口の駅前は駐車場も少ない。まちづくりとしてももう少し多角的に見て、抜本的な改善がとにかく必要なのではないか。

◎田園環境都市としては、外側は田園環境が保たれるとしても、中側がきちんと都市化しないといけないと思うが、都市化は全く進んでいないと思う。宇都宮に次ぐ第2の都市という割には宇都宮との差があり過ぎて。もう少し長期的な計画で見るのであれば、抜本的な部分からき

ちんと改善する余地がたくさんあるのではないか。分かりやすく言うと、足銀の跡地がこれから駐車場になると聞いたが、本当だとしたら、それでいいのだろうか。難しい面もあるかもしれないが、しっかりと考えていく時期にきている。

6：駅周辺エリアの賑わい創出 ～小山らしい「あか抜けた」まちづくりとは

◎駅周辺のまちづくりプランの取り組みでは、いろいろやりたいという人が集ってくる場になり、ソフト面のアイデアがだぶにぎやかになりつつある。その一方で、自分がハード面で一番感じたのは道路。道路の状況が今のままだと、先の話に出たように、抜本的に変えていこうという時に、壁にぶつかる。道路をいじれるのは市や県や国だが、30年後、50年後という長期ビジョンに立って、変えていければと良い。住民だけでは何ともできない。都市化して、ここに人を集めるということで、ソフト面での取り組みを進めて理解を得ながら、ハード面での30年後のビジョンをつくれたら良いと思う。

◎もっと通りに人を歩かせたいというビジョンを描けば、道路を変えていかないと。通行止めにして車を入らせない場所をつくるとか、ロータリーにはバスを入れないような流れにするとか、そういう話になってくる。ソフトだけでは結構限界がある。

◎小山は本来、とても可能性はあるところ。新幹線もとまるし東京にも通える距離。本当だったらもっと「あか抜け」てもいいはずの都市。ただ、何か田舎臭くて、あか抜けていないところを非常に感じている。

◎イベントの時に「無料で配る」サービスをすると、人の行列ができる。例えば、お正月に紅白まんじゅうを無料で配るとすごい列がロブレ

の向こうまでできる。次の年に100円にしてみると全然並ばない。自分はそういうところにも田舎臭さみたいなことを感じてしまう。もちろん、それは、いいところでもあるのだが。交通の利便性や、少し郊外に行けば水田が広がる田舎があって、駅の周辺には、あか抜けた街中があるという街づくりが必要なのではないか。

◎あか抜けていく方向性として、東京のようになればいいのかというと、実は少し違うふうになっている。小山は確かに交通の便がいい。東京に行こうと思えば40分で行けるので、ちょっと洒落たものが欲しいなと思ったら小山で買う発想はゼロで、大宮や恵比寿へ行く。交通の便がいいと流動性が上がる一方、都会と勝負できる部分で勝負してしまうと、必ず勝てないのではないか。逆に、少し奥まった桐生などへ行くとも独自の文化が育っている。それは、交通の便が悪いだからだと勝手に推測している。そうするとやはり、これ（田園環境都市おやまのまちづくり）にもあるような、この地域のよさは何かというのを掘り下げるしかない。もしくは無理やり演出していく。そういう「小山の良さを掘り下げていく」ことが大切だと思う。その結果、例えば祇園城通りは、人が歩くまちにしたいということになれば、今、若い人が頑張っているようなものをもっと先鋭化させて、補助金をつけてサポートして、費用は安くして、それで売り上げが立たなかったら、ご来店いただき、回転させていく。そしてここは特におしゃれで歩くと楽しいねという人たちがたくさん来てくれるようになったら、周りの地価も上がるだろうし、元々あった飲食店も賑わうだろう。

◎それが、あか抜けてるということではないか。そういう意味ではやはり小山はあか抜けていきたい。

◎小山駅の近辺で新規店舗を出そうとする際、事業者としては、とてもリスクを感じる。家賃に対して見込める売り上げがどこまでいけるの

か、という。宇都宮ではこれくらいいくが小山だとどうなのかとか・・。家賃と想定できる売り上げのギャップがあり、なかなか店を出せない。特に若者のような流行に敏感に反応して、それに合わせたタイムリーなビジネスをしようとすればするほど、当然、資金はない。だったら駅周辺に拘らないで、郊外に出すという形になっている気がする。だから、駅周辺の賑わいを本気で取り戻そうとするなら、月5万円とかそういうレベルではなくて、大々的な市の補助とかがあると、にぎわいという部分では戻ってくる可能性はあるのではないかなと思う。長期間の補助を続けるのではなく、時限的にやるのが重要だと思う。

◎さっきの話の、この地域の良さを掘り下げるといふ小山地区の魅力は、駅前のエリアで都市部なのに思川とか城山公園があることだと思う。絶対地元にはかない魅力なのかなとは思っている。そこをうまく使えないか。先ほどの道路の話の補足になるが、ハードで道路をいじるというのは、別にすごい道路をたくさん造りたいというのではなくて、川はいじれないし城山公園もいじれないし、ある程度はつくり直せるもので、ここにあるもの、それが道路で、もっと道路を生かしたいということ。

◎自分が各地の引っ越しをしながら、風土の違うところに住んできて、よかったなと思うところを挙げると、その1つが鹿児島。鹿児島は田舎で海と桜島しかないという印象があるが、結構、都会的。規模的に言うと大宮よりも大きい。駅の近くに集中して都市化していて、賑わっている。小山に来て思ったのは、車がないと楽しめない街になっているということ。鹿児島みたいに路面電車があれば、勝手にみんなぐるぐる回って、人もいろんなところに循環できる。車が使えない学生さんが1時間もバスを待つのは本当に不便だと思う。移動する公共交通の足が1時間に1本というのがどうしてもネッ

クになる。50号と4号とJRという、その三つの選択だけではなくて、その中の網目の状態のところを何か交通網で活性化できないか。お酒を飲みたくても、結局、代行を使わなくてはいけない。駐車場料金は払うし代行代もダブルでかかるから、駅前にいきたいのに渋ってしまう人もいるのではないだろうか。それに、住みやすいは住みやすいけど、盛り上がりには欠ける。盛り上がりと思った時に、駅の西と東を、繋ぐ道路もないし、分かれすぎているのが妨げになっている。もっとまるっと西も東もぐるぐるすると循環しながらまん丸くなればいいのと思う。

◎車で行きやすい、車が止めやすいという理由で、2つのショッピングモールしか選択肢がなくなってしまう街づくりには、なんだか納得がいかない。本来は、もっといろんな行動パターンがあるはず。

◎やはり1時間に1本のおーバスでは厳しい。

◎せめて10分に1本。

◎おーバスも渋滞で進まないという意味がない。

◎小山市に移り住んだ理由として、行こうと思えば東京に新幹線ですぐ行ける、その一方で自然もある、渋滞もあるがそれほどでもない。そこそこ利便性が高く住みやすいという評価があると聞いたのだが、それはある意味すべて中途半端だということかもしれない。

◎田園環境都市と言っても、まだ伝わりづらさはある。

◎ほどよいとか、ジャストサイズの街という理解でも良いかも。

◎中途半端さが売りというのは。言葉は悪いけど何かそれやっていけそうに思ってしまうところは、良いのか悪いのか。

◎田園ちよい都市、小山。

◎すごく田舎扱いされるんだけど、どこへ行ってもWi-Fiが通るとか、そういう方向にいけれ

ば良いかもしれない。

◎ポジティブに捉えたい。

◎生活するのに困らないと言えば困らない。

◎ただ、ぱっとしない。

◎それは何か逆転の発想で面白い。いまいちぱっとしないまち。

◎いや、商売する人間としてはそれでは困ってしまう。せめて金曜日と土曜日ぐらい頑張ろうよ。人出ろよ、ぱっとしようよ。

◎小山ならではの「あか抜け」る方向性は？

◎例えば、せめて通りを一本に決めて、そこに全力で集中してみたらどうだろうか。

◎思川ももっと活用したい。川の周りを京都みたい歩ける。思川を望むホテルとか旅館。棧橋もあってデートスポットにもなる。小山駅から歩いて行けて、商店街が並んでいて。駅から歩いていける思川を中心に新しいまちづくりと観光と。

◎姫路に行った時に、駅から姫路城が見えて、それで思わず、姫路城まで歩いて行ってしまった。小山だと、駅から思川は見えないし、そんな環境が近くにあることすらわかりづらい。もったいない。駅から思川まで歩いてみてほしいが駅に降り立つ人に思川の存在が伝わらない。

◎あとは屋形船^{註4}の復活も考えたい。ヤナもできると良い。

◎屋形船で花火大会もかなり盛り上がる。

◎あか抜ける要素はやはり思川にある。

◎夜中に思川にいてキツネやタヌキにも遭遇したことがある。

◎釣りをしているとテンと目が合うし、後ろにイタチがいたりする。

◎1カ所ばしっと決めて西なら西で盛り上がり、東は住むエリアとして快適に。

ら、鮎漁と船遊びを組み合わせ、釣りと食を楽しむ「鮎狩り」が、小山町の伊豆倉旅館によって始められ、大将時代には商工業の発展や人口増もあって盛んになった。市史には、当時の下野新聞記事を引いて「当時、鮎狩り用の屋形船を備えた料理屋は伊豆倉旅館と角屋旅館・鳥又料理店で・・・」とある。

7：田園環境都市おやまのまちづくりについて

◎農業については、いろいろ思うところもあるが、国の法律の問題もある。一度、農業を真剣にやってみようと思ったことがあったが、参入のための障壁が多い。そこをなくしていかないと、後継者がいないことは解決して行けないと感じる。

◎スーパーの手前のほうに、地場野菜コーナーがあるところも増えてきた。

◎ただ、小山市民の市民性というのがあって地元産の野菜があって、もう1個有名な産地の野菜があったら自分のところの野菜は選ばないこともあるかもしれない。

◎都市部、農村部・・・、確かに地区で分断されていて、なかなか交流の機会がない。

◎高校や塾で、農村部の同い年の子と一緒になくても、生まれ育った文化の違いなどからか、何を話して良いのか戸惑うこともあった。

◎小さい頃から、交流の機会がなかったから。

◎何かもっと思い切って、田植え体験会とか頻繁にやったらどうだろうか。

◎PTAの会長をやっていたときは、小山P連とか市P連などで集まる機会に、市内の他の地域の会長さんと話して地域性がこんなに違うんだなというのを痛感していた。ウェブのアサッテ広場に、豊田のPTA会長の柏崎さんのコラムがあって、豊田では、3世代で交流しながら地域活動が活発だと書かれていて、小山地区の自分のところは、ほとんどが核家族なので、随分と違いがあると感じた。小山地区は、よそから来た人が多く住んでいて、横のつながりがない

註4：屋形船については、『小山市史通史編Ⅲ近現代（P691）「思川の鮎狩りと花街」の項に登場する。明治30年ごろか

集合体なので、地域性という意味では、いちばん一体感が無いかもしれない。

◎小山地区では、それをどう繋いで盛り上げていくかが大事になってくる。

◎小山市で考えると、まさに地区というものがよく分からない。交流以前に、それが結構見えない壁になっているのかもしれない。

◎特に街場と農村という意味では。

◎なかなか同じ市のこととして考えられない。田園部の農業や農家の実情など、まちなかの自分たちは、ほとんど知らないし、いろいろ聞いても、なかなかピンとこない。逆もまたあると思う。だからやはり、その辺の交流が今後は絶対必要になる。

◎交流は必要。

◎三田地区と小山地区で、何人か対談したり、桑地区と小山地区で何かやったり。

◎行くたびにお囃子だけ用意しておいてもらって、お囃子対決もあると盛り上がる。

◎地区対抗の運動会もいいのでは？

◎それはやっていた時期がある。

◎地区対抗にしないで、少しメンバーを混ぜてやってもいいかもしれない。

◎太鼓なら太鼓対決で、太鼓カーニバルを開催したい。

◎浅草サンバカーニバルに出たことがあるが、いろいろな地域からやってきて、みんなでたたき回って、審査員が見て順位を決めるので、盛り上がる。そういうのを太鼓というツールで、小山市内のいろんな地区合同でやってみる。

◎隊列を組んで、町を練り歩く。

◎確かに田舎ならではの伝統や文化など、例えばお囃子とかをまちなかで披露する機会は、あまりない。盆踊りもそうだが、どこもその地域内だけで完結している。

◎高円寺の阿波踊りみたいな行事も参考になるかもしれない。

◎地区対抗フェスタなど、御殿広場で。

◎ついでにグルメフェスみたいのも。

◎地区ごとの何か面白い催し物をしてもらったりして。

◎会場も持ち回りが良い。1回目は御殿広場でやって、次は他の地区で。

◎第1ラウンド太鼓、第2ラウンド何かとか。

◎オール小山みたいな感じで。

◎さすがに楽しくなってきた。やりましょう。

◎フェスタ的交流と同時に、農業との連携の可能性もあると思う。

◎農業から親和性が高いのはやはり飲食店だと思うが、小山市内の飲食店から小山の農業に働きかけて連携してという流れができれば可能性を感じる。

◎農作業の人手不足にも、それに対応できるような仕組み作りもいろいろ考えられると思う。

4 | 子育て世代の方（1）

対象者：女性1名・個別聞き取り

小山市外からの転入者・小学3年生の母

実施：11月1日 10時～10時半 小山市役所会議室

1：小山地区との関わり～小山市の住みやすさ

◎仙台市出身。夫の実家が城北にあり、15年前に小山市に来た。

小山市に住み、その後、石岡市、自治医大の近くに住んで、10年前に、夫の実家の隣の敷地（父母が畑をやっている）の一部に家を建てて住んでいる。

◎生まれ育った仙台市は、街なかではなく、少し海側のエリア。田畑も多く、自然環境もあり、小山市の環境と通じるところもある。

◎以前、東京に住んでいたこともあったが、小

山はちょうどいい街。都会にもすぐ行けるし、生活も困らないし、住みやすい。

◎生活に困らない理由として、持病があるので大きな病院に行きやすいことと買い物などが便利なこと。小山市の場合は、市民病院があり、そこに希望する診療科目がない場合でも、車で15分ほど行けば、自治医科大がある。

◎夫は、中学2年で小山に引っ越してきて、最初にあまり良い思い出がなかったみたいで、昔は小山があまり好きではなかったようだ。今は、小山で開業したこともあり、いろんな繋がりが出てきて、小山のことが好きになったようだ。

2：ふだんの生活範囲など

◎コロナ禍になってから、ほとんど小山から出てないかもです。旅行は別にして、基本的に全て小山市内で事足りている。自宅がハーベストとイオンモールのちょうど真ん中に位置していて、どちらも車で5分くらい。近隣の小売店としては、3、4年くらい前にできたパン屋さんがあり、たまに買っている。とてもよくしてくれる。個人商店ならではのお付き合い。

◎週末は、小山地区で開催されるいろんなイベントに家族で出かけることが多い。出店者側の時もあるので、週末はほとんど家にいない。子ども連れで楽しめるイベントが、この数年で増えたように思う。

3：この10年での周囲の変化

◎家の近くは、住宅が増えてきているが、それほど大きな変化はない。夫の両親の畑も、家庭菜園で、自宅で食べる分だけを作っている。他には、そのような家庭用の畑も見かけない。

◎自分の行動範囲も時を重ねてやはり広くはなったと思うが、駅の周辺や城南地区など、いろ

いろなお店が増えてきた。無くなったお店もあり、入れ替わりが激しい。

◎特に、城南、神鳥谷、間々田など、住宅地も大きくできて、全国チェーン店のタピオカ屋さんとかかわらび餅屋さんとか新しいスーパーやドラッグストア、薬局も増えている。

◎最近気になるのが、喜沢や羽川など北部でも大きな道路を作っていて、平地林だったところが伐採されている。いろんなところが目まぐるしく開発されてきているが、樹々がたくさんあったところも無くなってしまった。夕方に車で近くを走ると、西日で樹々が照らされて綺麗で、好きな景色だったので、無くなってしまっ

4：地域資源と情報発信/収集

◎情報を集めて発信する仕事をしている関係で、小山地区の神社やお寺にも詳しくなった。情報を扱う仕事をしていなかったら、寺社も渡良瀬遊水地も多分よく知らないままで生活していたと思う。以前は、広報おやまが届いても、ほとんど読まなかった。ネット検索も、飲食店を探す以外はあまりしなかった。イベントにしても、祇園祭と小山の花火しか知らなかった。今は、自分からも積極的に情報をとりにくようにしているが、近所の方に「こんなイベントを知っていますか？」と聞いても知らない人がほとんど。

5：小山地区での子育て

5-1 都市部小学生の渡良瀬遊水地での体験

◎渡良瀬遊水地には、自然ガイドの知人が教えてくれるイベントやツアーに家族で参加する時、そして、イベントがなくても、気球が飛んでいるとSNSで知った時や、気分転換をしたいときなどに、ひとりで行って、桜堤に車を止め

て、少し散歩してコウノトリを探したりしている。お隣の藤岡町まで足を伸ばすことも。季節で言えば、やはり春で、菜の花と思川桜の色の組み合わせがいい。それだけを見ることを目的にドライブすることも。日常生活で息苦しくなるときなど自然を感じてリフレッシュしたいという時に行く。

◎渡瀬遊水地では、娘がキッズ対象の自然ガイドツアーに参加している。普段は、虫が嫌いで魚も絶対に触りたくないし、服が汚れるのも嫌いというタイプだった。ツアーに参加するようになって、何でスイッチが入ったのかはわからないが、今では率先して水の中に入ったりして楽しんでいるようだ。普段、街中ではなかなかできない体験で、この環境が小山市にあるからこそ。

◎小山市の小学校はどこでも3年生のときにバスで渡瀬遊水地に行くと言っている。調整池で植物や魚などの説明を受けたりする程度と言っている。今は、特にコロナ禍なので、小学校での活動も制限や休止が多くて、プールもない、バスに乗って出かけることもない、イベントもやらないという状態が続いてきた。渡瀬の自然体験は、都市部の子どもたちこそ参加できたらいいと思う。もう少し自然の中での体験の機会があるといいと思う。自然や虫が嫌いと言っている子たちも意外と面白がったりすると思う。

5-2 都市部での子どもを取り巻く環境について

◎まず、小山市は子育てがやりやすいと思う。15歳まで病院にかかってもお金がかからないのはありがたい。保険が効くものは全て助成してくれる。おけいこごとも、小山地区では、通わせられる範囲に選択肢が多い。

◎逆に、小山地区で残念に思うこともある。今のご時世もあるのかもしれないが、子どもが、放課後に自由に遊ぶことも含めて、自主的に動

ける環境が少ないと思う。児童センターが、小山地区で駅南と城北しかない。うちは近くにあるから子どもだけでも遊びに行けるのですが、児童館から遠いところに住む子どもはなかなか来ることができない。今、小学校は、学区外から一人で出てはいけないという決まりがあり、それを守ってしまうと行動範囲が狭くなってしまふ。幼稚園が一緒だった友達は、学区外にしか児童館がないので、親が車で送ってきて、また終わるころに迎えにくるということになり、やはり親の力を借りないとできないことは結構ある。

◎自分が育ってきたことを思い返すと、一人で遊びに行き、何かトラブルがあっても自分で対処するという経験ができて、それが大人になってから結構いい影響があったりした。小山に限らない風潮だと思うが・・・子どもは小3で、おけいこごとの1つが駅のすぐ前の場所なので、おーバスでひとりで行かせることもあるが、そのことに対して、周囲から「小3の子どもを1人でバスに乗せるって、大丈夫？」と、若干咎められたことがある。犯罪が怖いというのもあるし、心配もわかるが、やはり、親に連れて行ってもらうことばかりではなく、自分で移動するという体験をさせることは、大切だと考えている。例えば、災害が起きたとき、親が離れたところにいる場合、子どもが移動したいと思っても、経験がないとどうしていいかわからない。どこにどんな建物や施設があるかも自分でわかっていないことが、むしろ心配。お祭りも地域的にたぶん少ないのかと思うのですが、そういうところに友達同士で繰り出して、あーだこうだ言いながら遊んだりするのもすごくいい経験だと思うが、なかなかそんな機会が作れない。

◎実際に、初めて1人でおーバスに乗った時の子どもは、とても嬉しそうな顔をしていた。最初だけは、夫が家の近くのバス停まで送ってバ

スに乗せて、私が駅の近くの降りるバス停で待っていた。降りてくるときにとても達成感のある顔をしていた。余談になるが、おーバスの運転手さんも親切にしてくれたと子どもから聞いた。乗ってすぐ「どこで降りるの？」と聞いてくれて、子どもも「イトーヨーカドー前」とちゃんと言えたみたいで、その前のバス停を過ぎたら、運転手さんが「次じゃない？」と声をかけてくれて降りる時も「気をつけてね」と言ってくれたと聞いた。自分が子どものころは小1のときには1人で乗っていて、夫も小2の頃には1人で乗って習い事に行っていた。昔より、今は、どうしても子どもに対して必要以上に過保護にならざるをえない面もあると思うが、先のことを考えると、都市部でも、周りが見守る環境を整えながら、子どもの経験値を高めていく環境を整えられるといいと思う。

6：地域のコミュニティ

◎育成会には入っているのですが、祇園祭が開催されれば、子ども神輿が出るので子どもも参加している。本来だったら町内を神輿担いで回りますが、去年からコロナで休止になっている。それを楽しみに育成会に入った親子で、育成会を辞めてしまった家も少なくはない。

◎うちよりも若い子育て世帯には、自治会や育成会に対する不信感もあるようだ。役員の方たちも大変だと思うが、行事や集まりの連絡が遅かったりする。「必ず参加してください」という集まりの連絡が遅くて、その日は仕事で参加できない若い人が役員にさせられたという話も聞く。そういうところから不信感が生まれて、敬遠する人が増えていると、朝、登校班で子どもを送っていく時に、他の父兄から話を聞く。昔からの伝統ややり方を守りたいというのもよく分かるが、20代から40代くらいの若い世代の生活スタイルなどもよく知って欲しい。働い

ている世代にとっては、やっぱり集まりの日程の連絡が遅いというのは困る。最低1カ月ぐらい前までには教えてもらわないとシフト制の人もあるし、そのために仕事を移動するというのも難しい人もいます。例えば今、オンラインでもいろいろできるので、柔軟に考えていけばいいと思う。入りたくないわけではなくて、入ってしまうと支障が起こるから入らないというのが率直なところだと思う。

◎お祭りや、災害の時など、自治会、育成会は、横のつながりというのでは必要だと思う。特に災害のときとか、いざというときに隣の顔が見えているのは、すごく重要だと思うが、それ以外のところでの必要性やメリットを見つけられ無くなっているのかもしれない。

7：田園環境都市おやまのまちづくりについて

◎小山地区でいえば、東と西は、本当に線路を境にカラーが違う。東は東で先進的な施設や若い世代向けの店が増えて、あとは住宅地というイメージ。西は、温かみがあるというか人のつながりが濃いというイメージがある。小さいお店、古くからある店が西はすごく多いので、横のつながりや絆が深い気がする。お祭りも、街道や城下町で歴史がある西のほうが盛り上がっているように思う。東は、住宅は多いが、新しいところが多いので、横のつながりは薄いのかもしれない。

◎都会と田園の、このちょうど良さは無くさないでほしい。ちょっと行けば田園、ちょっと行けば都会、またちょっと行けば広い公園があったり古い神社があったりする環境は、貴重だと思う。

◎そんな、ちょうど良さを活かしながら、やはり子育て世代としては、子どもの経験値を上げられる街になってほしい。子どもを見守る目は大切だが、ずっと見守っていてほしいのではな

くて、子どもが一人だったり、友達同士で歩いたり移動したりしているのを、安全だね、よかったねという目で見守ってくれる街になるといいと思う。

◎地区でも、リスクマネジメントや犯罪防止の観点では皆さんいろいろやってくださっている。例えば、城北地区には、地域見守り隊の活動もある。見守り隊は、学校からのお呼びかけで登録した地域の方が、朝と夕方の散歩の時に、犬の散歩だったら、首輪のところに「見守り犬」のプレートを下げたりして、子どもたちの登下校を見守ってくださっている。とても良い仕組みだと思うし、そんな見守りもありがたいが、見守りだけの目ではなくて「伸び伸びと大きくなれよ」という目線も、地域の中で大切にしてもらえるといいと思う。子どもたちが公園で騒いでいると「うるせえ」と騒ぐ大人も少なくはない。ボール遊びが禁止のところもある。家の周りで遊んでいても静かにしろと叱られるケースはある。公園は、騒いで元気に遊ぶ場所ではないのかという気持ちもある。小山地区は公園が多いが、子どもがいっぱい集まる公園もあれば、高齢者の方たちの憩いの場になっている公園もある。そういうところでは、子どもたちも大きな声で走り回って遊びづらい。うまく共存できれば良いのだが。私は都市部でも、子どもたちの経験値が上がるような環境が作れたら良いと思う。

5 | 子育て世代の方 (2)

対象者：男性 1 名・個別聞き取り

小山市外からの転入者・小学生と就学前の 2 男児の父

実施：11 月 28 日 13 時半～14 時半 SEKEN

1：小山地区との関わり

◎福岡県出身。大学を卒業し大手企業に就職し 6 年間の福岡勤務後、転勤で小山へ。転勤してきたときは、宮崎県出身の妻と 1 歳の子どもと一緒に会社の借り上げ社宅に住む。

◎4 年後、会社を退職して、家も購入し、小山市に住み続ける決意で引っ越しをする。次第に小山市での生活が好きになり、ここで子育てしていきたいという希望が芽生えてきた。会社は大手で全国各地へ転勤がある。迷いもあったが、妻の理解もあり退職して小山市内に本社がある会社に転職した。

2：小山地区の住みやすさと

地域での子育てや活動

◎まず、人が親切で温かい。社会人になって最初に住んだ福岡市と比べてそう思えた。

借り上げ社宅がマンションで、その大家さんが、朝、玄関ホール周りを掃除しながら「いってらっしゃい」と声かけてくれる。近所の小学生も、自然な感じで挨拶してくれる。そんなところも新鮮だった。

◎転職については、大企業あるあるだと思うが、個人の考えや、これからこうしていきたいというビジョンが、なかなか上に届かない。会社としてはそれが当たり前のことかもしれないが、「外向けのありがとう」が、「内向けのありがとう」より優先される。そんな中で、これから 10 年後、20 年後の自分を考えたときに違和感もあり、チャレンジするなら 30 代の今だと考えた。地域の人で、よくしてくれる人や、挨拶をしてくれる人。そういう人にありがとうと言えるような仕事をしていきたい。

◎これは転職してから気づいたことだが、小山市には本当に素敵な地域のプレイヤーがたくさんいる。いろんな取り組みを継続している人が多い。それが本当に素晴らしいと思っている。ただ、地域の課題として、そんな人たちの横つ

ながりやネットワークのようなものが足りないのではないかとも感じるようになった。自分のやりたいことや役割が見えてきて、そんな魅力的な人をつなげていくことができたらと思うようになり、いずれはそれが仕事や事業にもつながってほしいと考えている。

◎自治会、育成会には、今のところ、あまり必要性が分からなくて、どちらも入っていない。コミュニティとしては、小学校はバラバラだが、子どもの幼稚園時代の同級生家族と今でも繋がりを持っていて、休日に情報交換などを兼ねて一緒に過ごすこともある。

◎この数年、小山地区で、歩いてでも行ける範囲で、イベントがととも増えている。イベントに自分の活動も兼ねて家族で参加したりしている。そんな時に思うのは、子どもたちに「父ちゃんは小山が一番好き」ということを肌感覚で伝えたいということ。自分も妻も地元は九州だが、子どもたちにとっての地元は小山なので、大きくなった時に、誇れる小山にしていきたい。人と繋がって、地域には、こういう人たちがいて、こういう活動を一緒にやって、そんな活動をつくる一員となって・・・という過程を、自分も楽しみながら、子どもたちにも見せていきたい。

3：田園環境都市おやまのまちづくりについて

◎都市環境と田園環境とバランスをどうとるかについては、地域ごとの役割はあるとは思いますが、小山地区も年々いろんな環境が変わっていくと思うが、その時その時で、ベストを考えていくことが大切だと思う。

◎小山の課題は、まちのいろんな課題に関心を持つ人をあまり育てられていないということだと思う。これまで関心がなかった人を、いかに巻き込めるかが大切。今までの小山は、それぞ

れが商品やサービスも持っているような市民のコアプレイヤー、トッププレイヤーの人たちだけで高速回転していて、それはそれで成り立っているのだが、そこにアウトサイドの市民たちが意見を挟む余地をつくれていないような、そんなイメージがある。そのあたりを変えていければいいと思う。

◎未来に向けては、今の子どもたちの学びの環境をもっと増やしていきたい。自分自身も関わりながら増やしていきたい。教科教育ではなくて、生きていく力を伸ばす、生き生きと自分がやりたいことを伸ばせるような環境。親世代でも、まだその必要性を感じている人は多くないかもしれないが。

◎自分が福岡で生まれ育ったところは田舎なので、子どもの頃はいつも外で遊びまわっていた。夏のラジオ体操が終わってからも、そのまま水路みたいな川に入って遊んだり、山も海も近いので、外遊びばかり。ただ、自然の中で遊ぶことが苦手な子もいるだろうし、文化的なことも必要。多くの選択肢が必要になってくると思う。

◎子どもたちの選択肢が増えることで、何が幸せかを考える機会も増やせるのではないかなと思う。転職や小山でいろんな人と知り合う中で考えてきたことだが、たくさんお金を稼げるのが幸せなのかどうか・・・。何か問題があった時に、お金で解決できること、大企業の力で解決できることもあれば、地域の助け合いで解決できることもある。地域の力で解決できることが増える方が、幸せだと思う。そんなことを子どもたちに見せたいし、特に教えなくても、学ぶ環境にもなるようにも思う。そういう意味で言えば、いろんなイベントの中にも、さりげなく、学びの機会を忍ばせていくことも大切だと考えている。

 6 | 駅東地区の歴史を知る方々

対象者：男性2名・70代

小山市小山地区で生まれ育ち地区の変遷に詳しい方

実施：11月21日 15時半～16時半 小山市役所会議室

1：小山地区との関わり

◎江戸から続く家で、本家から出て私で5代目。昔は、水戸線沿いにあったが、当時、機関車が通っていて火の粉が出るので危ないということで、今の50号線南側の東城南という、昔で言うと、うちのほうは小山新田という地区に引っ越した。新田地区なので比較的、新しい。だいたい水戸線とかその辺の人が南のほうに出てきたという地域。

◎駅南町の、昔は神社や公民館などもある比較的にぎやかなところで育った。場所的には旧小山町の東部で農村部。北から東、南という形で、田畑が広がっていて、駅東地区については日本製粉や森永製菓の工場が立地していた。そこをてくてく歩いて通りながら踏切を渡って常光寺というお寺の幼稚園へ通っていた。駅東は、比較的民家もあって農村部という感じはしなかった。駅南地区から城南地区については穀倉地帯という感じであった。

2：農業の昔と今

◎もともと農家で、はじめは、専業農家（親と嫁とできる範囲で）。そして、務めながら兼業農家、うちにいてもしょうがないので35年ぐらい勤めたが、やはり今はまた元に戻って農家をやっている。

◎小山地区は、古くは田んぼより畑のほうが多い畑作地帯、昔の作物は、カンピョウとか麦。子どもの頃は、夏になるとカンピョウを干す手伝いを

した。カンピョウの皮を剥く時に、少しクズが出るので、そのクズ干しというのをよくやらせられた。カンピョウは、剥く機械に、まっすぐに芯を通さないで回転させるとブレる。そうするとその回転で最初のうちはクズが出る。

◎地域でも、ほとんど専業農家はいなくなり、今もやっている人は兼業。旧小山町エリアでは、稲葉郷地区とか神鳥谷地区。あとは小山地区で何人かというぐらい。

◎元々「小山新田」というくらいだから、谷は田んぼだったが、ほとんど畑だった。

◎一般的に麦とかもやっていたが、あとは陸稲。水稻でなく陸稲。

◎育ちは悪い。日照りになってしまうと、もう全然だめ。

◎昔の人はみんな知っていると思うが、思川から西はシタゴ、東はウワゴと言っていた。ウワゴと言うぐらいだから土地が高くて畑が多い。それであまり採れない。生活的にもあまりよくない。シタゴの場合は米が採れて、昔は米の方が収入が良かった。だから昔の人は「東のウワゴに嫁に行くと苦労する」と言っていた。

◎米の場合は、田んぼに植えて、あとは稲刈りまで間が空く。畑作地帯は野菜とかいろいろやるから、年中動いて働かなくてはならない。

◎だから、向こうの（西の）人は6000坪の稲作をやっても、田植えと稲刈りの間は、他に勤めていてもできる。今などは機械化ができていし。兼業で十分できる。そうでないと米は安いから儲からない。実質的に赤字になる。

◎今、JAさんがやっている直売所は、間々田と野木。あとは桑。旧小山と言うか小山地区にはない。

◎東から南にかけて出荷しているところは無い。

◎需要的に小山地区で直売所をやると良いと思う。

◎今はスーパーなどでも、地元の生産者の野菜を売っている。やはり売れるのは売れる。値段が同じものであれば当然、新鮮な方を選ぶ。これも値

段が高くでは最終的には駄目なのだろうが、消費者が、新鮮だから高くてもいいという認識を持つのかどうか。でも、朝キュウリを買っていても次の日に食べるのなら、何を買ったって同じなのだが。

◎まちづくりをするのにあたって、地元でできた農産物の地産地消を進められるように、そういうのも設けていくことが必要だと思う。小山の魅力が何か、いろいろなのがあって、どれがどうなのか分からないが・・・。

3：区画整理と、その後の変化

3-1 区画整理と道路

◎区画整理については、うちのほう、50号線の南側の城南地区の区画整理は、昭和47年の駅南地区より後だった。地域的に区画整理が始まってからは、農業もそれほどできない。どんどん住宅が建ってきた。

◎駅南地区の区画整理が47年ごろ実施されました、その後、城南などが一度に開発され、全体では日本有数の規模だと思う。

◎50号の南は、一気に様変わりした地域。

◎昔の地番とか小字名を見ると土地のことがいろいろ分かる。その意味では、今は、区画整理された中で小さい公園を何ヶ所か造ってあり、中山公園とか、荻山とか、その公園の名前が小字になっているので、手掛かりになることが多い。

◎区画整理が進んでいくと、減歩率(げんぶりつ：区画整理で換地処分が行われた際の、処分前の土地面積に対する処分後の面積の割合)を高めて道路も広くして公園も増やしてという傾向はあるが、駅南地区については減歩率があまり高いと土地が削られてしまうということで、減歩率が比較的低くて、その代わりに、道路の広さや公園とかは他に比べると少ないと思う。

◎駅南より東城南のほうは道路も広いし、とても幅が広い遊歩道が通っている所もある。ただ、減

歩率はやはり高かった。

◎東城南は学校とか公園とかを遊歩道で結んだまちづくりができています。駅南地区は、小学校とあさひ公園を捻出したのがやっとなところ。

◎区画整理でかなり幅広い遊歩道ができて、木なども植えてあるが、木はどんどん大きくなって、予算などの問題もあるのか管理ができなくなってきている。遊歩道の使い方とか、根本的に変えていく考えも必要ではないかと思う。

◎遊歩道の植え込みが高くなっていて、今はいろいろな人がいるし、子どもも通るから、そこで盗撮の心配の声もあったという。今は、植え込みは低くしてあるが。

◎城南地区のそういう街区、遊歩道などは、よそからするととても羨ましい。公園や学校など拠点を全て遊歩道で結んでいるわけだから、そこを通っていけば公園や学校に行ける。駅東や駅南では望めないところ。

3-2 国道50号線

◎50号は、完成してからの印象がとても強い。

◎小学校の高学年の頃に造っていた記憶がある。50号ができてまもなく、コマツが進出してきて、ああいう大企業がきてから住宅も需要がだいぶ出た。うちの地域内にも、もう定年になった元コマツの人がいっぱいいる。

◎コマツと富士通、二大企業は大きかった。あと、昭和アルミなど。

◎古河電工は今も。昔は、駅東の、駅からすぐ降りたところの真ん前に森永と日本製粉があった。

◎駅東の2社が退いて道路も整備されていった。

◎他には、東電、タナミさんもあった、ヨーカドーのところ。

◎ニッポン飼料もあって、そこは以前、スケート場だった。

◎工場の跡が住宅地になったり、学校が建ったりスーパーが入ってきたり、変遷もある。

◎50号はできても、例えば泉崎のあたりには、よ

く自転車で田んぼ道を通って届け物をに行ったりしていたが、本当に畑道、田んぼみちだった。

3-3 農地から宅地へ

◎区画整理後、都市計画税が出てきて、固定資産税にプラスされる。税金を払うのが大変なので、農業の後継者がいない家は、畑をやめて土地を売ってアパート経営する人がだんだん多くなってきた。

◎子育て終わって延々と、朝から晩まで農家として真っ黒になって働く。でも、体が続かなくなってくるから、少しでも畑を処分して楽してみようかというところなのではないか。やるにやれなくなってきた年代でもあったと思う。

◎昭和 47、8 年ころから徐々にどんどん農地がアパートになっていった。

◎当初は一戸建てのアパートが多かった。

◎マッチ箱のような。

◎集合住宅のようなものはその後。最初は、建築費も安かったから、みんな戸建て。

◎そのころは、借りる人より大家さんのほうが偉い時代だった。

◎大家さんに盆暮れに必ず付け届けを持ってくるような風習があった。今は全然なくて、入居者のほうが威張っている。家賃 1 カ月分をサービスしろとか 敷金礼金無しとか。今は過剰供給の時代なので。

◎どんどん建てているから。どういうふうに住宅メーカーはやっているのか分からないが、いずれにしろ過剰供給で空室が結構ある。

◎建物がちょっと古くなるともうどんどん空いていく。古いアパートへ外国籍の方がどんどん入ってくる。外国人の人たちが多いところは、ごみ出し方のルールが伝わらないので大変。

◎共生社会とは言っても、考え方や文化が違うから難しい

◎市は、それではゴミは直接、処理場に持ってい

ってくださいとなるが、実質的には、収集所はみんな当番制で掃除している。ではアパートはアパートで管理してくださいと。今の新しいアパートは、だいたいアパートごとに収集所を設けている。一般の戸建て家庭とアパートのごみステーションを一緒にすると常にもめごとになってしまう。だから、昔から一緒になっているところはいまだに分離できないから大変だ。日本人の数少ない当番がカラスや猫と競争するような形で掃き掃除などを行っている。

◎外国の方は、派遣会社で働いている方が多く、派遣会社のバスが迎えに来たりしている。市も管理会社や住宅メーカーとかに協定を結んでどうのこうのという話はしているが、なかなか実質的には難しい。管理会社でなく勤め先の派遣会社にも、その辺を徹底してもらうようにしてもらわなければならないということで、今、話をしたりしている。

◎田園環境都市となっても、ゴミが散乱しているとどうにもならない。

3-4 子どもの数の変化

◎東城南では、児童数が、当初（区画整理時）500 人そこそこだったと思うが、今は、640、650 人くらいいるようだ。新しい小学校が 3 年前くらいにできた。雨ヶ谷地区も学区内に入っている。住宅の数も、以前ほどではないが、やはり増え続けていて、新しい小学校に通わせたいという親御さんが少なからずいて、そういう家族が住宅の購入をしているようだ。

◎駅南地区については高齢化がだいぶ進んでいまして、年配の方が増えていますね。

3-5 移り住んできた方たち

◎東城南では、班には 10 軒とか 15 軒とか世帯があって、その中で 1 年交代で班長さんをやっているみたいだが、会議に班長さんに極力出てもらうようにしていて、そうすれば何年かに 1 回は必

ず誰もが会議に出るような形にはなっているが、なかなかこれも難しい状況。

◎駅南町は高齢化が進んでいて、若い世帯もアパート住まいの子育て世帯が多い。そうすると、その人たちはきっかけがないとなかなか自治会活動に参加ができないという。それがソフトボールとかバレーボールとかが盛んであれば、それをきっかけに入ってくることはあると思うが、活動も停滞しているので声掛けもできない。どこに誰が住んでいるというのも分かりづらいような状況になっている。

◎小山地区では、完全同居の2世帯、3世帯の家はほとんどない。

◎子ども世代が結婚すると、出る人は出るが、残る人は親の家の隣や、すぐ近くに新居を建てたりしている。

◎完全同居型というのはほとんどない。核家族がほとんど。

3-6 小売店や生活圏の変化

◎昔、数えるぐらいだが小売店もあった。たばこ屋や、麴店、日用品店、駄菓子の店など。

◎ただ、スーパーは無かった。小山の町の中まで行かないと無かった。二小のところにヤオハンがあった。

◎小山駅の西へは、たまに出かけるとき「小山に行ってくる」なんて言っていた。

◎西には、酒屋とか医院や歯科医院もあった。

◎学校が西側にありましたからね。第一小学校。第二小学校。五中。

◎第一小学校と第二小学校はマンモス校で、人口の増加とともにそこから分離していろいろな学校ができていった。その流れが城南小なり旭小なりね、城東小なり城北小なり。

◎東には小学校がなかったから、こっちから第二小学校まで歩いて通った。

◎場所によるが20分、30分かけて歩いて行った。50号の南側までは、歩いて帰るのが大変。アスフ

ルトではなくて砂利道で、泥のところもあった。

4：地域コミュニティ

4-1 旧旭町自治会からのつながり

◎かつて、旧小山町では「旭町」^{註5}と呼ばれた自治会があった。駅東から駅南、それから城南高校近くまで、旧小山町の農村部の広いエリア一帯が1つの自治会だった。学校ができる自然に育成会なども分かれるので、人口が増えてきて、例えば城東小学校とか旭小学校とか、それから今は東城南小学校とか、学校ができる中で、自治会組織も3つに分かれていったという経緯がある。旧知の人も、別れた自治会にもたくさんいたが、今はだいぶ少なくなった。

◎旭町自治会を3つに分けたのは、平成9年。50号から南側は「南」、旭小学校の正門通りに接するところ南北の通り沿いで「東」と「西」と分けた。

◎その中でやはり、東城南地区の旭町南の住宅や人口がどんどん増えていってしまって、その当時は世帯数が700で今は1800近いと思う。

◎自治会を3つに分ける経緯で私が聞いているのは、旭町自治会全体で、当時で既1800くらいの世帯数があり小山で一番大きかった。防犯灯などが各自治会は5基までしか申請できないし、地区の合同運動会も参加人数が自治会ごとに決まっていた。だから自治会が3つに分かれれば、それぞれ防犯灯の申請ができるし運動会などでもたくさんの方が参加できるという理由で別れたと聞いている。いざというときには協力し合いましょうということで別れたと聞いている。

◎しばらくは子どもの野球チームとか一緒にやっていました。

◎あとは老人クラブ。他にソフトボールとか大人のスポーツなどもまだ一緒にやっているようだ。

◎夏祭りのお神輿とか、そういうのはずっと、旧・旭町自治会として一緒にやっている。

◎各地域の夏祭りは、須賀神社の祇園祭に合わせている。要は須賀神社の末社。地域にはどこでも、神社、氏神様というか、地元の神社はあると思う。昔はみんな、そこを大切にしていた。

◎そういう地元の駅南町の神社としては高築地稲荷（たかつきじいなり）神社がある。

◎祭りは、宗教の色あいを薄くして五穀豊穡を祈って、それに子ども神輿など、子どもたちの思い出作りとか、そういう目的で続いている。

◎祭りは氏子会がメインだが、実際は自治会で。実行委員会組織を作って、みんなで協力している。自治会にはいろいろな人がいるので、特定の宗教にあまり関わらない。その辺は切り分けながら。

◎自治会が別れても、繋がりを大切にしている理由として、神社の氏子は自治会に関係なく昔から一緒だから、そういうつながりの中では自治会が分かれてもなんでも氏子というところではみんな一緒に、それをベースにつながりはあるから。

◎あとは子どもたちの情操を考えてのこともあると思う。育成会などの場合は、今までは例えば、廃品回収、旅行、野球、フットベースボールなどいろいろな行事があったが、それは、共働きの家など、家庭が子どもをあまり構えなかった部分を、自治会や育成会がやってきたところもあると思う。お神輿も、みんなで守っていきこうということが続いている。お父さんもお兄ちゃんも担いだ神輿を、次の子も担がせようと。

—

註5：補足「あさひコミュニティ推進協議会」について

聞き取り対象者の方からの提供資料「あさひコミュニティ推進協議会」によると、旭町自治会などを中心として、駅東エリアの11の自治会で構成する「あさひ地区」は、1975年（昭和50年）に栃木県のモデルコミュニティ第1号に指定されている。これは、戦後の高度経済成長や近代化が進み、生活の場における地域性や共同性の喪失が問われるようになるなかで、1971年（昭和46年）に自治省が、地域の課題を住民が共同で解決していくための組織が必要であるとの考えに基づき打ち出したコミュニティ創設事業の一環だった。あさひ地区では11自治会の会長と行政で

組織づくりの準備を行い、1976年（昭和51年）に「小山市あさひ地区モデルコミュニティ推進協議会」を発足させ、以降、新しいコミュニティの祭りの創出や、親睦や学び合いの行事などを行い、2013年からは「あさひコミュニティ推進協議会」として小山城南市民交流センター（ゆめまち）の管理運営を担っている。会では、コミュニティ活動の目的を「全ての地区住民の心のふれあいを通して地域の問題を自主的に解決しながら、快適な環境と心豊かな活気に満ちた潤いある街づくりをめざすものです」としている。会のHPによると現在の構成自治会は、駅東二・駅東・駅南町・天神町・旭町東・旭町西・旭町南・稲荷町・緑町・大聖寺・城南南・城南FP・通宿東・末広町・三峯の15とある。

4-2 神社の祭りや自治会のイベント

◎高築地稲荷神社の夏祭りでは、大人の神輿と、2基の子ども神輿がある。

◎お囃子はもともとは無かったが、今、横倉新田のお囃子の会に教えてもらっている。

◎昔、子どもたちが盆踊りを居合っていたときに、太鼓たたいたりはしていたが、お囃子として大々的にはやっていなかった。

◎お囃子をなんとかつなぎたい、ちょっと盛り上げたいということであれば、かつてやったように、盆踊り大会なども自前でできるかもしれない。

◎地元の神社の、稲荷神社との付き合いは、祭りの他にもいろいろ機会がある。子どもが生まれて、宮参り、お食い初め、豆まき、夏祭りの他にも、敬老事業の一環で、のど自慢大会を氏子会中心にやっているようだ。学童野球などで今年は勝ちたいんだということで、神頼みではないですが、あそこへ正月1月4日はみんな集まって祈願するという話も聞く。

◎東城南は新しい住宅地だから神社で何かというのはないが、その代わり自治会での催事に力を入れている。自治会で運動会をやったり、親睦交流会でバーベキューをやったり。この間は防災訓練。地域の繋がりを作る行事としてはそういうことが一番大切ではないかなとは思っているが、参加する人は、今はだんだん少なくなるようなこと

がある。もう少し自治会というか地域に見えるような活動をしていこうとやっているのです。自治会もホームページを今立ち上げようと思ってやっている。今の若い人は回覧だけ見せては分からない。回覧もQRコードで見られるようにするなど工夫をしているところで、大谷地区の犬塚では既に自治会のホームページを立ち上げているので、話を聞きに行つて、いろいろ動き始めている状況だ。

◎自治会の運動会は、間々田地区とか大谷地区とかもやっていて、なかなかすごい。

◎運動会のプログラムは、ずっとやってきた内容を少し手直ししたり、新しいものを入れたりして、自治会役員で検討して企画している。

◎高齢者の方も楽しみに来てくれて、最後の抽選・くじ引きは盛り上がる。

◎このところ、コロナで開催できない状況が続いているが、やはり地域の繋がりをつくる行事をすることが大事だと思う。今はどちらかというと、地域の人とあまり話さない、挨拶もあまりしない、そういう親御さんもけっこう多い。その一方で、子どもに挨拶しろ挨拶しろとうるさくいうのはどうだろうか。

◎挨拶に関しては世相が難しく「知らない大人に声を掛けられても無視するように」という風潮もある。

◎声掛けていると、そのうち挨拶するようになる子どももいるが、本当にいろいろな人がいるから難しい。

5：田園環境都市おやまのまちづくりについて

◎田園環境都市はいいのだが、農地や水田を守るのに、今の農業をやっている方は高齢化で跡継ぎがほとんどいない人が多い状況で、小山市の田園環境が本当に持続可能かどうか？が重要なこと。関心を持つ人を増やすことや、取り込みが非常に重要で、その辺をアピールする、体験型のような

ことをいろいろな形で進めたほうがいいのではな「いか。そういう地域に来てもらったり見てももらったり、または、こちらの都市部でも、田園都市という魅力を発信する場所を設けるとか、何かそういうことを「見える化」していくことが必要。実践体験もできるような広場を設けるとか。

◎道の駅のそばに市民農園があって、あそこも結構人気だと聞いている。そっちへ行かなくても、市が入って仕組みを作ることができないか。

◎自然が豊かな公園にしても、公園にもっともっと親しんでもらうようなやり方を考えたい。例えば、育ちすぎた大きな木を切ると自然が減るのでそのまま伸ばし続けるという話も聞いたことがあるが、やはり循環させることは大事。大きく育った木は切り倒して何かに利用する。そして、切り倒した木の代わりに、子どもたちが集まって幼木、記念樹か何かを植えて、その成長をみんなで見守る。そういう循環を作り出すと親しまれる公園などができて、それを守る人たちもいて、また隣り合った公園などが行き来するような形ができるといいのかなと思う。自治会が音頭を取ったらいいか、自然愛好会などが音頭を取ったらいいか分からないが。子どもが遊ばなくなった公園や子どもの姿が見えない公園も増えている。もっと親しまれる公園になったらいいのではないかと思う。

◎思川の東は畑作地帯だから、野菜を専門にやる地域として力を入れて、そういう特別な地域を設けて、市民も含めていろいろ体験もできるし自分らでも作ってみようかなという興味が湧くようなことをやってみればいい。野菜なら野菜を、○○はここが一番だよ、○○なら、あの地域だよと、そういう地域を作って魅力を発揮していったほうがいい。

耕作放棄地も本当に困っている。どんどん増えていくような状況。耕作放棄地がだんだん増えてしまうと田園環境都市にならなくなってしまう。

◎地産地消で小山の農産物を買える場所はもっと増えると良い。道の駅はあるが、出荷している人は、売れ残ったら回収しに行かなければいけないから、それが辛い。それだから、出せない、と、道の駅から遠い田間地区の農家の人が言っていた。だから、どこか無いか探してほかに置いているという話をしていた。

◎絹地区の絹ふれあいの郷。ああいうところが小山地区にも大谷地区にもできて地域の人に親しまれていくと、農家に人もやりがいがあると思う。絹ふれあいの郷は、そば粉とか売っていたり、子どもたちを遊ばせる場もあったり、地域の交流の場になっている。大谷地区の南部とかにあれば、城南地区あたりからたくさんの人たちが行けるのではないかな。

◎人が多い都市部から近いところに、農産物も買えて、食べることもできて、レシピも教えてもらえて、体験できて、広場があって、人が集まりやすい施設があれば。

◎そういうところで、定期的に朝市が開かれると良い。小山の名物にしていく。

7 | 駅西地区の変遷を知る方

対象者：男性1名・70代

小山市小山地区で生まれ育ち地区の変遷に詳しい方

実施：12月23日 13時半～15時 小山市役所会議室

1：小山地区との関わり

◎生まれも育ちも小山市小山地区。300年続く武家の家で、小山家とも血縁関係にあった。元々の家は旧4号沿い。やがて商売をするために上町（かみちょう）に移ったと聞いている。武家屋敷が多かった。古文書も多く保管しており、1602年に書かれたものが最古のもの。父の話では、かつ

て小山駅から自宅の辺りまで引込線があった。

2：50～60年前の駅周辺の様子

◎この50年くらいで、小山駅とその周辺の変化が一番大きい。変わらないのは、地区内にいくつか残る、お寺がある風景くらいではないかな。

◎小山駅の建物は平屋だった。駅前の広場に街頭テレビが設置されて、珍しくて大勢の人が集まっていた。

◎駅周辺の商店は、今も変わらずある不動産の田中屋さん、その反対に昔は高級洋菓子の店があった。他には芸者の置屋、ロブレの場所には映画館の銀星会館があった。娯楽といえば、その程度だった。

3：子どもの頃の遊び

◎子どもの頃の遊び場も駅だった。貨物ヤード（操車場）に「荷小屋」と読んでいた小屋があり、避難のための滑り台があった。立ち入りできないようになっていたが、子どものころは、入り込んで遊んでいた。

◎他には、道路で友達とベーゴマ、竹馬、メンコ、縄跳びで遊んでいた。道路も未舗装で土だった。車の往来もほとんどなかった。思川には遊びに行ったが、外城や神鳥谷、平地林や自然が残るところに遊びに行くということもなかった。

◎思川は水量も多く、観覧橋の下流側には屋形船もたくさんあり、水浴びもできた。反対側の岸に行き、ミズヤナマリを餌にして「ぼっかん釣り」でフナが釣れた。ミズは、自宅の敷地で生ゴミを溜めていたところにたくさんいた。流して釣る際、餌は蜂の子で、ヤマベ（オイカワ）ハヤ（ウグイ）が入り食いで釣れた。

◎城山公園の下は粘土のところがあり、城山公園と天翁院の間の堀跡が沼地のようになっていて、ザリガニ釣りができた。スルメイカを縛った水系

を竹竿で吊す。お金がある家でないとスルメイカを餌に使えないので、カエルを捕まえて皮を剥ぎ餌にしていた。

4：西口の商業施設

◎商業施設では、やはり、長崎屋などデパートや百貨店のような店舗ができると、すごい！という印象があった。大型スーパーのキンカ堂^{註6}、長崎屋、その先に、いせや。長崎屋は、三夜通りから入って、B1 から5階か6階。賑わっていた。今ロブレになっているところは、路地がある飲み屋街で、夕方からあの界限には大勢人が集まっていた。みつわ通り^{註7}の方は、なかなか発展しなかった。

◎小山駅発着の、関東バス、東武バス、それぞれの車庫があった。

◎長崎屋の集客も次第に落ちていったが、自家用車も普及してどこにでも買い物に行ける人が増えたことと、駅周辺の住民では電車に乗って宇都宮や大宮に買い物に行けることもある。また、個人商店も少なくはなかったのもそれで買い物の用足しができる側面もあった。

◎ロブレができたときは、駐車場の建物から本館に行く渡り廊下のようなものもできて、池袋のデパートみたいだと感じた。都会的になったと感じていた。ただ、ずっと路地が続いていた飲み屋街がなくなっていくのは、古き良きものがなくなっていく寂しさがあった。

—

註6：小山市商業観光課作成資料「まちなか商業の推進」によると、各店の開店時期は以下の通り。

昭和47年11月 キンカ堂小山店（本郷3丁目）

昭和48年9月 長崎屋小山店（中央町3丁目）

昭和49年6月 いせや小山店（宮本町3丁目）

註7：西口から北北西方向にカーブを描いてのびるみつわ通り。

『小山市史 通史編Ⅲ 近現代』（P1008）に、前出（註3）の三

夜通りと同じ昭和23年に「みつわ通り商店街も建設されて街路灯も設けられ」とある。

5：駅西と駅東について

◎西口は、一時期、商業施設などで賑わったが、伸びようがなかったと思う。線路から思川までの狭いエリアだから。したがって、東口や駅東エリアに開発が広がっていった。

◎東側は、かつて環状線あたりにボーリング場があり、その先は田園だった。西側は、日光街道（旧4号）も天翁院（てんのういん）の先は、砂利道。

◎現在の西口の状況は、もともと住んでいた人達は、小山市郊外や市外に転居をした人が多く、昔からの住人はほとんどいなくなった。一方で、上町地区などは、商店会が頑張っており、そこを中心とした自治組織が活発。

6：田園環境都市おやまのまちづくりについて

◎個人的には、開発は東側のみとして、西側は田園調布みたいにビルもなく田舎の都市の住宅地のようにまちづくりを進めていくと良いのではないかと考えていた。実際のところ、西口はマンションも増えている。しかし人口増に対して、生活必需品が買えるところがない。これは（住人が高齢化していくこともあり）対策が必要だと思う。

◎小山市は、県第2の都市でありながら、国や県の行政施設がないが、大学も高専もあり、東口には専門学校もできている。学園都市であり、田園都市でもあるので、ウッドストック^{註8}のような野外コンサートを独自に開催するなど、「文化都市」を目指していくと良いのではないかと思う。

—

註8：正式名称は「ウッドストック・ミュージック・アンド・アート・フェスティバル」。1969年8月15日から17日までの3日間、アメリカ合衆国ニューヨーク州サリヴァン郡ベセルの酪農場で開かれた。約40万人の聴衆が集まり、ロックを中心に32

組が演奏した、史上最大規模の音楽フェスティバルの一つである 2017 年には、会場が同国の国家歴史登録財に選定された。
参照；マイケル・ラング、ホリー・ジョージ・ウォーレン『ウツドストックへの道』矢憲治訳、小学館、2012 年

8 | 小山地区の変遷を知る方

対象者：男性 1 名・70 代

小山市で生まれ育ち地区の変遷に詳しい方

実施：12 月 23 日 15 時半～17 時 小山市役所会議室

この聞き取りでは、明治 17 年から明治 19 年にかけての小山市域の迅速測図^{註 9}昭和 40 年代の国土地理院地図などご用意くださり、それらを広げて、地図上にて小山地区への工場の進出や道路、開発などの変遷について語っていただいた。

その中から、ここでは、工業と商業について記録する。

註 9：明治時代に大日本帝国陸軍参謀本部陸地測量部が作成した簡易地図で、国土地理院および国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構のホームページで公開されている。

1：昭和期の工場の進出

◎昭和初期、駅東に森永や日本製粉の工場があった。小山は麦の産地として原料立地型^{註 10}で操業を行う工場が進出していた。同様に養蚕・生糸の産地として、昭和初期には昭栄製糸^{註 11}があった。

◎昭和 15 年ごろまでには、軍事工場が疎開してきて操業していた。KDD の前身の無線電信局、古河電工^{註 12}も戦中の時期に小山で用地を取得し操業を開始。その後、最盛期には、古河電工は、広い敷地の中に戸建ての幹部社宅、長屋の社宅、体育館、映画館、プールも備えていた。

◎戦後、日本に戻ってきた満蒙開拓団が工業団地一帯の山林を切り開いた。栃木県がまとまった土

地を買い、工場の用地に。

◎戦後、昭和 35 年ごろには下館から富士通、名古屋から高岡などが進出してきた。昭和 40 年代の駅東地区は、工場と田畑だけだった。

◎工場が増えても、職員の小山駅からの通勤ルートや生産されたものの搬出ルートも整備されておらず、その後の区画整理での課題となった。

註 10：日本製粉の前身である東洋製粉は、大正 5 年（1916）に京都工場を移転し、小山駅の東側で操業。小山を選定した理由に「原料小麦の主産地である関東地方の中心にあり、製品を東北地方などにも出荷するためにも、交通至便の地であったため」とある。大正 9 年（1920）に日本製粉と対応合併した。

また、日本製粉小山工場の隣接地に、大正 13 年（1924）に東海製菓株式会社が移転し、キャラメルやビスケットの製造を開始。昭和 17 年（1942）に森永製菓と合併し、森永製菓小山工場となった。『小山市史通史編Ⅲ近現代』（P629～631）より。

註 11：昭栄製糸株式会社は、昭和 6 年（1931）に設立され、経営難に陥っていた山十組製糸小山工場を併合した。山十組は明治 18 年（1885）に長野県諏訪郡で創立された製糸業で、大正 5 年（1916）に小山町の小山製糸所を買収し、御殿町と新しく建設した稲葉郷の工場で操業していた。『小山市史通史編Ⅲ近現代』（P618～621）より。

註 12：『小山市史通史編Ⅲ近現代』（P812）には、「昭和 18 年（1943）9 月、日本でもっとも古い歴史と最大規模の電線・ケーブル生産の企業として発足した古河電工が小山市域に軍需工場として「小山工場」の設立に着手した時期も、前述したように太平洋戦争のただなかにあった。」とある。

2：昭和期の商圈

◎小山の商圈は、粟宮より北くらいで狭かった。昭和 47 年のキンカ堂（前出）の開店は、インパクトがあり顧客を引きつけ、小山の商圈に来る人が増えた。その後、長崎屋、いせやと続いた。

◎当時は、車は無理をすれば買えた時期。車での

通勤や移動も少しずつ増え始めた。

◎駅周辺では、伊勢丹を呼んで再開発をという声もあったが、伊勢丹は商圈人口固定 65 万ないと出店しないとのことだった。

◎昭和 50 年代には、ダイエーやヨーカドーも出店し、車社会への変化につれて、国道50号線沿いには、まず、全国チェーンのスキー用品店や運動具店ができ、その後、ファミリーレストランや家電製品店が増えていった。

3-2 アンケート調査結果(概要と考察)

小山地区では全8問を設定して実施したアンケートについて、ここでは、主要な設問の結果について概要と考察を掲載する。設問内容によっては、既に調査を終了した田園部の生井地区・豊田地区の結果との比較も行う。

質問票と、単純集計・クロス集計の詳細版は別添資料(アンケート集計結果報告書)「アンケート調査結果 報告書」に掲載する。

回答数/回答率について

●回答数:655名(郵送:607 ネット回答:48)

うち集計締め切り後に届いた2通は無効とし、653件の回答で集計を行った。

●郵送での回収率 24.6%

対象 2,500 について、発送前に転出が分かり未発送とした21通および宛先不明での戻り15通の計36通を除いた2,464を母数とした。

1:回答者の属性について

1-1 設問【1】の集計結果

-1 性別

男性 45% :290名	女性 52% :339名
--------------	--------------

その他9名 無回答15名

-2 年代(回答数が多い順)

60代	25%	67%	166名
50代	21%		137名
70代以上	21%		134名
40代	15%	33%	96名
30代	11%		69名
20代以下	7%		48名

無記入3名

-3 世帯人数(回答数が多い順)

2人世帯	43%	280名
1人世帯	24%	158名
3人世帯	17%	111名
4人以上	13%	85名

無記入19名

-4 職業(回答数が多い順)

無職	36%	232名
会社員	34%	220名
パート/アルバイト	13%	85名
自営業	6%	38名
公務員	4%	30名
団体職員	2%	11名
学生	1%	10名
農業(専業)	0%	0名
農業(兼業)	0%	0名

その他19名、無記入37名 無効4名

調査票での「無職」の表記は、「無職(退職者・主婦・主夫等含む)」

-5 お住まいの大字

-6 地域活動の経験

>別添資料(アンケート集計結果報告書)に掲載

-7 小山地区との関わり(回答数が多い順)

	選択肢	%	名
栃木県外で生まれ育ち、小山地区へ移り住む		58	375
県内他市町で生まれ育ち、小山地区へ移り住む		19	124
小山地区で生まれ、就職で外へ、その後戻った		8	49
小山市の他地区で生まれ育ち、小山地区へ		5	34
小山地区で生まれ進学・就職で外へ、その後戻った		4	26
小山地区で生まれ、進学で外へ、その後戻った		3	18
小山地区で生まれて一度も外で住むことなく今も		2	15

・無記入22名、その他1名 無効4名

集計結果を、生まれた県や市町でまとめ、その割合を見ると

栃木県外で生まれた		58%	77%
栃木県内の他の市町で生まれた		19%	
小山市で生まれた	小山地区	17%	22%
	他の地区	5%	

コメント欄の記述

小山地区に他所から移り住んで来た人や U ターンした人には、コメント欄にその理由を記入してもらった。(コメント回答 570 名)

主な理由を表に挙げ、コメント欄の記述から一部を紹介する。

コメント要旨	回答数
仕事に関する理由	157
結婚に関する理由	91
通勤での交通の利便性に関する理由	66
実家に近いこと	32
大学進学	10
リモートワークへの切り替えを契機に	4

仕事に関する理由

- ・転勤で小山に来て以来、環境も良く災害もなし、東京にも近いという利便性で家を建てた。
- ・夫の転勤で小山に引っ越してきて、子どもの進学が進むにつれ、小山に家を建てたため。長年住んでいます。居心地が良かったのも理由のひとつです。

*同様のコメント、他にもあり。

結婚に関する理由 (共働き世帯が多い印象)

- ・結婚し、相手と自分の職場の中間地点だった。賃貸物件の間取りと価格も宇都宮に比べて安くてよかった
- ・結婚を機に、夫の仕事(下野)と自身の仕事(東京都港区)の両立のため

実家との距離の近さを理由に挙げている回答からは「親の介護」「共働きなので、親に子どもを見てもらいたい」という 2 つの側面が見られる。リ

モートワークへの切替を契機にした理由については、コロナ感染拡大に伴いリモートワークに勤務が切り替わり自宅にいる時間が増え、それを機に、都内より安く持ち家が手に入る小山を選んだということであった。

1-2 集計結果より

主たる回答者像について

以上の結果より、主たる回答者像は、「他県や他市町から、主に転勤などをきっかけに小山に移り住んだ 50 代以上の男女の方々」と考えられる。

先行調査地域の、田園地帯である生井地区・豊田地区と、回答者の属性を比べると下のようになり、出身地や、回答者の年代のばらつきなど、小山地区では都市部としての特性が出ていると言える。

ただし、アンケートの実施方法の違いも、この際には影響している面があることも留意しておきたい。小山地区では、無作為抽出でのアンケート郵送で実施し、生井地区・豊田地区では自治会を通しての全戸配布での回覧でアンケートを配布した。3 世代同居の世帯も多い地区では、回覧物は昼間に自宅にいることも多い 60 代以上の方が対応することが多くあり、回答者の年齢層の分布に反映されていると推察する。

	生井	豊田	小山
男性	65%	62%	45%
女性	27%	33%	52%
60 代以上	75%	68%	46%
30 代以下	2%	5%	18%
地区出身者	66%	60%	17%
県外出身者	11%	10%	58%

2：生活圏について

2-1 設問【2】の集計結果

- 1 仕事や学校へ通っている地域

- 2 日常的な買い物や用事で出かける地域

-1 仕事や学校へ		-2 日常的な買い物等	
行先	回答数	行先	回答数
小山地区（駅東）	174	小山地区（駅東）	368
小山地区（駅西）	108	小山地区（駅西）	217
東京都	42	小山地区 ^{註2}	9
茨城県	40	宇都宮市	9
県内の他の市町 ^{註1}	39	県内の他の市町	9
宇都宮市	26	東京都	8
栃木市	21	埼玉県	6
小山地区 ^{註2}	15	その他	5
埼玉県	14	茨城県	4
その他	11	間々田地区	3
間々田地区	10	栃木市	3
桑地区	6		
穂積・中地区	3		
群馬県・千葉県	3		
豊田地区	2		

註1：選択肢には「宇都宮市」「栃木市」を挙げ、2市以外の市町という設定で市町名はコメント欄記入を促した。コメント欄より上位は・佐野市：30名・壬生町：5名・鹿沼市：4名・足利市・下野市：3名 註2：調査票作成時のミスで（駅西）（駅東）とは別に「小山地区」を挙げており、少数ながら選択者がいたため集計に反映させている。

2-2 集計結果より

小山地区の人々のふだんの生活圏については、通勤・通学で東京都、茨城県、宇都宮市など通う人も一定数いるものの、日常的な行動においては、80%近い人が小山地区内で完結していることが伺える。一方で、休みの日の少し特別な行動にお

- 3 休みの日に「特別な買い物」「会食」「イベント」等によく出かける地域

- 4 休みの日に「自然の中でリフレッシュ」

「アウトドアスポーツ」等に出かける地域

-3 特別な買い物や会食等		-4 自然の中で・・・	
行先	回答数	行先	回答数
小山地区（駅東）	286	県内の他の市町	213
小山地区（駅西）	214	小山地区（駅西）	134
宇都宮市	211	小山地区（駅東）	116
東京都	181	茨城県	115
県内の他の市町 ^{註3}	86	栃木市	89
埼玉県	78	宇都宮市	65
茨城県	38	群馬県・千葉県	65
栃木市	37	埼玉県	38
その他	21	東京都	36
群馬県・千葉県	11	穂積・中地区	13
小山地区 ^{註2}	9	間々田地区	11
穂積・中地区	8	小山地区 ^{註2}	11
桑地区	6	桑地区	11
豊田地区	6	生井地区	8
間々田地区	4	絹地区	3
		豊田地区	3

註3：註1と同様にコメント欄より上位は・那須町：44名・日光市：39名・鹿沼市：14名・益子町：11名・那須塩原市：9名

いては、小山市や栃木県以外の割合が上がってくる。特に「-4 自然の中で・・・」では県内の他の市町が200名を超えて最多となっている。

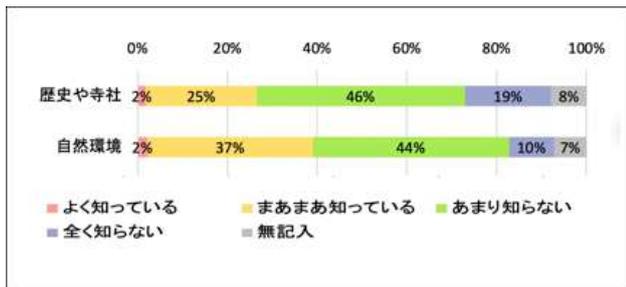
小山地区内では、駅東側の回答者が多いということもあり、生活圏として（駅東）＞（駅西）という傾向があるが、「-4 自然の中で」のみ（駅西）＞（駅東）となる。（駅西）の思川緑地や総合公園へ出かける人が少なくはないと推察できる。

3：小山地区の地域資源への認知度・関心度

3-1 設問【3】の集計結果

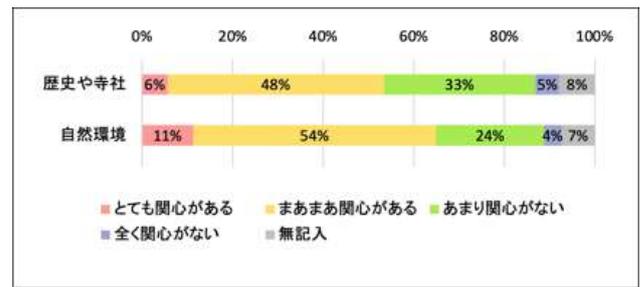
A 歴史と自然環境について認知度を把握する

- (1)小山地区のなりたちの歴史や、近隣に残る城跡や神社や寺の歴史、由緒、祭り等を知っていますか？
 (2)小山地区にある公園、街路樹、平地林などについて知っていますか？



B 関心度を把握する

- (1)小山地区のこのような歴史、祭り、伝統芸能に関心がありますか？
 (2)小山地区に残る自然環境に関心がありますか？



年代別の集計結果

(1)小山地区の歴史や寺社、城跡、祭り等について

	知っている		知らない	
	よく	まあ	あまり	全く
全世代	2%	25%	46%	19%
～20代	2%	13%	27%	56%
30代	0%	9%	38%	51%
40代	1%	21%	47%	27%
50代	1%	23%	58%	9%
60代	2%	31%	48%	8%
70代～	4%	34%	45%	9%

関心がある		関心がない	
よく	まあ	あまり	全く
6%	48%	33%	5%
6%	42%	44%	6%
0%	26%	48%	25%
8%	44%	33%	10%
3%	48%	36%	4%
8%	44%	32%	4%
6%	53%	31%	2%

(2)小山地区の公園、街路樹、平地林などについて

	知っている		知らない	
	よく	まあ	あまり	全く
全世代	2%	37%	44%	10%
～20代	0%	23%	46%	29%
30代	0%	26%	48%	25%
40代	2%	32%	49%	13%
50代	2%	35%	50%	4%
60代	1%	42%	41%	5%
70代～	5%	46%	35%	6%

関心がある		関心がない	
とても	まあ	あまり	全く
11%	54%	24%	4%
8%	35%	46%	8%
13%	54%	26%	6%
13%	49%	26%	8%
6%	58%	25%	1%
11%	53%	23%	2%
17%	60%	13%	2%

3-2 集計結果より

小山地区の歴史的な地域資源および地区に残る自然環境について、どの年代も50%~80%が「あまり/全く知らない」が、50%~80%が「とても/まあまあ関心がある」という、つまり「歴史も自

然もあまり知らないが、関心がないわけではない」という結果になっている。

年代別では、歴史的な資源について、30代の関心が他世代より低く、自然環境について、20代の関心が若干低めという傾向がある。

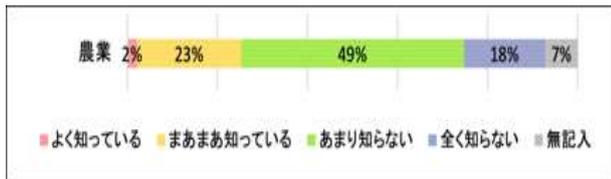
4：小山市域の農業へ認知度・関心度

これまでの調査対象地区（生井地区・豊田地区）と違い、小山地区では農業が行われていないことから、【3】とは別に、小山市域全体で行われている農業について尋ねる設問を設けた。

4-1 設問【4】の集計結果

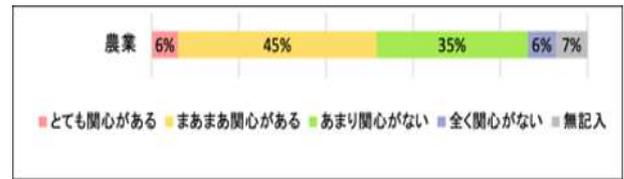
A 小山市の農業について認知度を把握する

(1)どのような地域で、どのような農業が行われているかについて知っていますか？



B 小山市の農業への関心度を把握する

(2)小山市の農業に関心がありますか？



年代別の集計結果

	知っている		知らない	
	よく	まあ	あまり	全く
全世代	2%	23%	49%	18%
~20代	4%	8%	40%	46%
30代	1%	16%	45%	36%
40代	1%	15%	60%	20%
50代	1%	25%	54%	12%
60代	2%	29%	46%	12%
70代~	3%	30%	48%	12%

	関心がある		関心がない	
	とても	まあ	あまり	全く
全世代	6%	45%	35%	6%
~20代	8%	35%	35%	19%
30代	9%	51%	28%	12%
40代	4%	41%	43%	8%
50代	3%	50%	35%	4%
60代	8%	42%	34%	5%
70代~	6%	51%	32%	3%

4-2 集計結果より

小山市の農業に対する認知度・関心度も、前出の小山地区の資源と同じように「あまり/全く」知ら

ないが、関心はある」という結果になった。年代別では、30代が「とても/まあ関心がある」合計60%となり、他世代より高い関心を示している。20代が、合計で43%で、最も低い。

5：地域の困りごと

その他と無記入を除いた選択肢を、6つの領域に分けて全体に占める割合を示す。

5-1 設問【5】の集計結果

質問「あなたが「無くしたい」「解消したい」「解決したい」と考える小山地区の困りごとは、どんなことでしょうか？」 *グループインタビューでの成果をもとに設定した17の選択肢を用意し、その中から3つ選んで回答する設問とした。

回答が多い順（数字は回答人数）

- 1 路上や公園などのゴミ・ゴミ出しマナー・220
- 2 公共交通の不便さ・・・・・・・・・・ 163
- 3 交通渋滞・・・・・・・・・・ 129
- 4 空き家・空き地の増加・・・・・・・・ 123
- 5 治安の悪化・・・・・・・・・・ 119
- 6 台風や大雨による水害・・・・・・・・ 102
- 7 地域でのコミュニケーション不足・・・・ 94
- 8 子どもが外遊びできる場所の減少・・・・ 85
- 9 買い物の不便さ・・・・・・・・・・ 84
- 10 騒音など住環境への影響・・・・・・・・ 78
- 11 地域活動の担い手・後継者不足・・・・ 73
- 12 選択肢が少ない働く場所・・・・・・・・ 62
- 13 農業の担い手・後継者不足・・・・ 52
- 14 地域の集まりや寄り合い・・・・・・・・ 45
- 15 選択肢が少ない教育環境・・・・・・・・ 45
- 16 祭りや伝統芸能の担い手不足・・・・ 34
- 17 昔からの風習・・・・・・・・・・ 33

その他-56(>詳細はアンケート集計結果報告書)、無記入-69

生活環境に関すること 33.8%	路上や公園などのゴミ・ゴミ出しマナー・空き家空き地の増加・騒音など住環境への影響・治安の悪化
交通や移動に関すること 23.5%	公共交通の不便さ・交通渋滞・買い物の不便さ
教育環境や就労に関すること 12.0%	外遊びできる場所の減少・選択肢が少ない教育環境・選択肢が少ない働く場所
地域コミュニティに関すること 10.8%	昔からの風習・地域の集まりや寄り合い・地域でのコミュニケーションの不足
担い手・後継者不足 10.0%	地域活動、農業、祭りや伝統芸能の担い手・後継者不足
水害の不安 6.4%	台風や大雨による水害

5-2 集計結果より

聞き取り調査でも、ゴミの問題は多く語られたが、アンケート調査でも最大の困りごとであるという結果になった。年代別の特徴的な傾向としては、70代以上の層のみ「地域でのコミュニケーション不足」が上位に上がっている。

年代別の集計結果（20代以下と30代は合算）

～30代：回答 117名	40代：回答 96名	50代：回答 137名	60代：回答 166名	70代～：回答 134名
1 交通渋滞	1 路上などのゴミや	1 路上などのゴミや	1 路上などのゴミや	1 路上などのゴミや・・
2 公共交通の不便さ	ゴミ出しのマナー	ゴミ出しのマナー	ゴミ出しのマナー	2 地域でのコミュニケーション不足
3 治安の悪化	2 交通渋滞	2 公共交通の不便さ	2 公共交通の不便さ	3 空き家・空き地増加
4 買い物の不便さ	3 空き家・空き地増加	3 交通渋滞	3 空き家・空き地増加	4 公共交通の不便さ
5 路上などのゴミや	3 公共交通の不便さ	4 治安の悪化	3 治安の悪化	5 地域活動の担い手不足
ゴミ出しのマナー	4 治安の悪化	5 台風や大雨の水害	4 台風や大雨の水害	

6：大切に守り継ぎたい地域の宝

6-1 設問【6】の集計結果

質問「あなたが「大切に守っていきたい」と考える小山地区の小さな自慢は何でしょう？」

*グループインタビューの成果をもとに設定した12の選択肢を用意し、その中から3つ選んで回答

回答が多い順（数字は回答人数）

- 1 街路樹や公園、平地林など
まちなかに残る自然・・・・・・・・・・ 240
- 2 各地域に残る歴史ある城跡、神社やお寺・219
- 3 交通の利便性・・・・・・・・・・ 213
- 4 買い物の利便性・・・・・・・・・・ 211
- 5 各地に残る祭りや風習、伝統芸能・・・・ 116
- 6 まちなみや景観・・・・・・・・・・ 96
- 7 各地域に残る歴史ある建物や古木・・・・ 71
- 8 地域の工業・・・・・・・・・・ 68
- 9 趣味やスポーツの地域のサークル活動・・・・ 64
- 10 地域の商業・・・・・・・・・・ 58
- 11 地域の人々が主導して開催している
イベント・・・・・・・・・・ 53
- 12 消防団や自治会等、地域の助け合いの活動・45

その他-18(>詳細はアンケート集計結果報告書)、無記入-240

その他と無記入を除いた選択肢を、4つの領域に分けて全体に占める割合を示す。

利便性に関すること 28.7%	交通の利便性 買い物の利便性
歴史的な地域の資源 27.5%	各地域に残る歴史ある城跡、神社やお寺・各地に残る祭りや風習、伝統芸能・各地域に残る歴史ある建物や古木
地区に残る自然環境 16.2%	街路樹や公園、平地林など まちなかに残る自然
地域コミュニティに関すること 7.4%	趣味やスポーツの地域のサークル活動・消防団や自治会等、地域の助け合いの活動
そのほか 6.6%	まちなみや景観
4.7%	地域の工業
4.0%	地域の商業
3.6%	地域の人が主導するイベント

6-2 集計結果より

大まかな把握になるが、小山地区に暮らす人々の意識は、「利便性>歴史的資源>まちなかの自然>コミュニティ」となっている。また年代別では、あまり差異がない傾向になっている。

年代別の集計結果（20代以下と30代は合算）

～30代：回答 117名	40代：回答 96名	50代：回答 137名	60代：回答 166名	70代～：回答 134名
1 交通の利便性	1 まちなかに残る自然	1 地域に残る歴史ある城跡、寺社	1 まちなかに残る自然	1 地域に残る歴史ある城跡、寺社
1 まちなかに残る自然	2 地域に残る歴史ある城跡、寺社	2 まちなかに残る自然	2 地域に残る歴史ある城跡、寺社	2 まちなかに残る自然
2 買い物の利便性	2 交通の利便性	3 買い物の利便性	3 買い物の利便性	3 買い物の利便性
3 まちなみや景観	3 買い物の利便性	4 交通の利便性	4 交通の利便性	4 交通の利便性
4 祭りや風習、伝統芸能	4 祭りや風習、伝統芸能	5 まちなみや景観	5 祭りや風習、伝統芸能	5 祭りや風習、伝統芸能

7：暮らしの価値観

大問【7】として、個人の暮らしの中での充足感や豊かさをどう考えているかを問う質問を設けた。これは、SDGsの推進や持続可能な地域社会運営の構築を考える際に、生活者の価値観とそれに基づく行動様式の考察も必要不可欠であるという見地からの対応となる。

(1)については、全国的な傾向と比較するために内閣府が実施している「国民生活に関する世論調査」(1現在の生活について(4)現在の生活の充足感)と選択肢を同じくしている。同調査では、この質問は、昭和49年(1974)から継続されているので、経年での国民意識の変容も確認することもできる。

(1)(2)については、田園部・都市部の調査結果が出揃ってからの比較検討のデータとするため、ここでは単純集計の結果の掲載にとどめる。

7-1 設問【7】の集計結果

(1)質問「日頃の暮らしの中で「充足感を感じる」のは、どんな時ですか？」*選択肢から3つ選んで回答

回答者が多い順(数字は回答人数)

- 1 趣味やスポーツに熱中している時・・・404
- 2 ゆったりと休養している時・・・388
- 3 家族だんらんの時・・・348
- 4 友人や知人と会合、雑談している時・・・295
- 5 仕事に打ち込んでいる時・・・187
- 6 勉強や教養などに身を入れている時・・・113
- 7 社会奉仕や社会活動をしている時・・・48

無記入 8 その他 16～◎庭仕事 ◎街並みや景観がきれいなとき ◎新しいものに会ったとき ◎欲しいものが買えて、食べたいものが買える時 ◎なし ◎信仰 ◎子ども達と外で遊んでいるとき ◎小山の景色を自分の価値観で継続的に定点観察していること ◎部屋の中に居る時

(2)質問「あなたにとって「豊かさを感じる幸福な暮らし」は、どのようなことでしょうか? 豊かさや幸福の実現に「最も大切だと思うものは?」 *選択肢から3つ選んで回答

回答者が多い順

- 1 心も体も健康でいられること・・・464
- 2 好きなことができるだけのお金や資産のゆとりがあること・・・298
- 3 好きなことをする時間のゆとりがあること・・・276
- 4 老後、災害、犯罪や戦争などの心配がなく、安心して安全に暮らせること・・・271
- 5 自然に恵まれた環境の中で、またはその近くで暮らせること・・・123
- 6 モノはあまり所有せずに、できるだけシンプルに身軽に暮らせること・・・113
- 7 家族や親戚、友人や地域の人たちと助け合って生活すること・・・94
- 8 家電や車など物質的に満ち足りた環境で暮らせること・・・64
- 9 困っている人の役に立てる活動や、地域、社会の役に立てること・・・52
- 10 情報や商品が手に入りやすく文化芸術に触れる機会が多い都会で暮らせること・・・46
- 11 家庭菜園や花づくりなど、土に触れる時間があること・・・41
- 12 住んでいる地域でつくられている農産物や商品が手に入る環境で暮らすこと・・・34
- 13 地域の伝統や文化を絶やさず継承し、次の世代に引き渡す活動ができること、・・・9
- 14 日本各地、世界各国の農産物や商品が手に入る環境で暮らすこと・・・5
- 15 社会的な地位を築き、名が知れた存在になること・・・2

無記入 7、その他 3～◎相対的な価値観では無く、ぶれない絶対的な価値観を持つこと ◎騒音被害や近隣トラブルがなく治安の良い住環境で、事故や犯罪の心配がなく安心して暮らせる事

8：望ましい小山市の都市環境のあり方

小山地区からの視点で、小山市全域のこれからの都市環境のあり方への意見を問うものとして、この設問を設けた。設問【7】と同様に、田園部、都市部のデータが出揃ってからの詳細検討とし、ここでは集計結果の傾向を掴むにとどめる。

8-1 設問【8】の集計結果

質問：「最後に、小山市のこれからのまちづくり

について、お考えやご意見をお聞かせください」

(1) 「20年後、30年後の望ましい小山市の都市環境のあり方について、ご意見をお尋ねします。

AからGそれぞれについて、選択肢の中からお考えに合うものを選び、番号を[回答欄]にご記入ください。(後略)

選択肢①そう望む②どちらかといえば望む③どちらかといえば望まない④望まない⑤わからない

支持・共感（「そう望む」「どちらかといえば望む」の合計%）が多い順に並べ、さらに年代別の結果を加える。グレーは、全体での結果および年代ごとの結果で、最も「そう望む/どちらかといえば望む」が多かった項目

単位は全て (%)	全体	20代	30代	40代	50代	60代	70代
F 公共交通機関の整備や、徒歩や自転車で安全・快適に移動できるまちづくりが進む小山市	94	98	97	97	99	87	90
B 地域の農業が大切にされ、地産地消が進み、市内の食料自給率が上がっている小山市	91	90	97	94	94	88	86
E 空き家の改修や利活用が進み、あるものを大切にしたい住宅整備やまちづくりが進む小山市	87	89	94	84	90	86	83
C 環境保全型の農業によって自然環境も良好に保たれ、コウノトリも増えている小山市	86	86	74	88	93	82	83
A 商業・工業が発展し、工業団地も増え経済的な成長や活力が重んじられている小山市	78	75	77	74	85	79	75
G 車社会に対応して、駐車場やバイパスの整備など、車での移動が快適になる小山市	76	90	79	83	76	78	67
D 空き地や平地林などに新しい宅地開発が進み、定住する若い世代や移住者が増える小山市	70	83	69	69	69	75	62

8-2 集計結果より

7項目は、A/G/Dがどちらかという「開発志向」の内容だが、その3項目が下位に並ぶ結果となった。

大きな差異が出たわけではないが、総じて、「商業・工業が発展し経済的に発展すること」「平地林や空き地に宅地造成を進めること」より、「農業・環境保全を大切にすること・空き家などあるものの利活用をすること」への支持・共感が高い傾向にあり、また、車社会としての利便性より、車がなくても移動しやすい環境を望む声が上がっている。

これらの傾向は、先に調査を行った田園部の豊田地区も、次に示すようにほぼ同様であり、まだ2地区だけだが、田園部と都市部で同じような結果になっている。

豊田地区での支持・共感が高い順

F>B>E>C>G>A>D

小山地区での支持・共感が高い順

F>B>E>C>A>G>D

下線部のみ逆になっているが、Aの「商業・工業が発展し、工業団地も増え経済的な成長や活力が重んじられている小山市」に対する支持・共感、豊田地区での70%に対し、都市部の小山地区では78%となっている。

年代別の数字では、30代（2050年に60歳前後）に着目したい。B「地域の農業が大切にされ、地産地消が進み、市域内の食料自給率が上がっている小山市」に対しての支持・共感が97%と、他のどの年代よりも高い。その一方で、C「環境保全型の農業によって自然環境も良好に保たれ、コウトリも増えている小山市」に対しては74%で、最も低い。

30代は、【4】の小山市の農業への認知度・関

心度を問う質問でも、関心度において「とても/まあまあ関心あり」が60%となり、さほど大きな差ではないが、他のどの年代よりも関心度が高い結果となっている。

8-3 自由記述の傾向について

【8】では下記の2つの自由記述の欄も設けた。
 (2) 上記のAからGであげた例以外に、20年後、30年後の望ましい小山市の都市環境のあり方としてお考えがありましたら、1行程度でお書きください。
 (3) 小山駅周辺の都市環境を持つエリアも、それを取り込む田園環境が広がるエリアも、バランスと調和がとれ、より良い関係を作りながら持続可能なまちづくりを進めていくために、小山市が大切にしていくべきこと、具体的なお提案など、自由にお書きください。

(2)では278名、(3)では296名の回答を得た。別資料の「アンケート集計結果報告書」には、両者をあわせてテーマごと分けて、全回答を掲載した。ここでは、そのテーマのみ掲載する。

A：都市環境について

- 1 | 自然環境や気候変動等について
- 2 | 田園環境と都市環境の調和・連携について
- 3 | 開発、都市計画、都市部の生活環境について
- 4 | 農業について
- 5 | 移動や交通の利便性について

B：生活環境や福祉などについて

- 6 | 子育て世代・若い世代・少子化について
- 7 | 高齢化社会について
- 8 | 安全・安心な環境について
- 9 | 地域コミュニティ・共生社会について

C：まちづくりの進め方について

D：複合的コメントやその他のコメント

4 調査結果の整理

ここでは、現地調査と簡易社会調査の調査成果をもとに、小山地区の特性についての整理、考察を試みる。

4-1 住民構成が多様な都市型エリア

小山市の人口の30%を占める小山地区は、駅の西側エリアと東側エリアでは、市街化の時期や経緯などが大きく異なり、簡易社会調査では、東西の特性の違いなどが住民からも様々に語られた。また、もう少し細かいエリアで考えても、少子高齢化の進行状況もさまざまであることが、調査からみえてきた。

また、小山地区での困りごとを尋ねるアンケートや聞き取り調査では、ゴミ出しのルールが徹底されず、景観を損なっていることや、自治会の担当者の苦労が続いているという話が多くあり、その際に、増えている外国籍の住民の方々や、学生などの単身者、深夜まで営業する飲食店などにマナーやルールを理解してもらうことの困難さも語られた。

アンケート調査では、回答者の77%が、小山市外の出身者であり、そのうちの58%は、栃木県外から移り住んだ人であった。一方、小山地区出身者は17%であった。

小山地区は、日本全国各地の出身者、アジア・アフリカを中心とした外国の出身者、首都圏に通勤する会社員、小山市内で働く人、商工業者、学生、高齢者、子育て世代などが暮らしていて、小山市11地区のなかでも最も住民の構成が「多様な地区だと言える。

4-2 生活と意識

多様な属性を持つ人々ではあるが、選択肢から自分の考えに近いものを選ぶ質問では、結果が広

く分散してしまうわけでもなく、小山地区住民としての一定の傾向があらわれている。

地区の大切に残したいものとしては、大まかな把握になるが、小山地区に暮らす人々の意識は、このような序列になる。

- ①利便性や快適性（住みやすさ）
- ②歴史的資源（小山地区のシビックプライド）
- ③まちなかに残る自然
- ④地域のコミュニティ
（余暇での仲間との活動や互助）

地区の困りごととしては、この3点の比重が大きい結果となっている。

- ①ゴミ出しのマナーやルール問題
（共同体の平穏さや景観が損なわれる問題）
- ②交通渋滞、公共交通の不便さ
（生活の利便性が損なわれる状況）
- ③空き家・空き地の増加や治安の悪化
（景観や安心安全な生活が脅かされる状況）

4-3 他者への意識

駅周辺住民のグループインタビューでは、深夜にコンビニにたむろする暴走族や、公共空間でのスケートボードに興じる若い世代のことが話題に上がったが、そこで語られたのは、迷惑になるとしながらも「排除」の視点ではなく「あの人たちも行き場所がないのだろう」「他にスケボーする場所がない」というコメントだった。

また、アンケートの自由記述において、下記のように「共生」を考えるコメントが一定数見られる。（集計報告書 P54）

◎外国の方や若者に、みんなが住みやすい地域づくりの為の指導や資料を配布してほしい。ゴミ出しルールや騒音、あいさつ等について

- ◎たとえば、マンション・アパート住まいであっても、近所付き合いの出来る街に
- ◎外国人住民との共生、多様性を受容する社会に

4-4 他地区への関心

アンケート設問【4】では、小山市域で行われている農業についての認知度、関心度を確認しているが、年代に差はなく、「あまり知らないが、関心はある」という傾向がみえた。また、アンケートの自由記述でも、小山市域での農業振興についての提案や、後継者不足などを心配するコメントが20件以上寄せられている。(集計報告書 P50)

また、他地区との関わりについては、若手・中堅層のグループインタビューで「まずはお互いを知る機会、交流の機会が必要」という意見と、そのためのさまざまなアイデアが語られている。その一部を再掲する。

◎小山市で考えると、まさに地区というものがよく分からない。交流以前に、それが結構見えない壁になっているのかもしれない。

◎特に街場と農村という意味では。

◎なかなか同じ市のこととして考えられない。田園部の農業や農家の実情など、まちなかの自分たちは、ほとんど知らないし、いろいろ聞いても、なかなかピンとこない。逆もまたあると思う。だからやはり、その辺の交流が今後は絶対必要になる。

小山地区については「住みやすいが、盛り上がりにかける面がある」として、以下のような意見も交わされた。再掲して、この項の結びとする。

◎小山地区は、よそから来た人が多く住んでいて、横のつながりがない集合体なので、地域性という意味では、いちばん一体感が無いかもしれない。

◎小山地区では、それをどう繋いで盛り上げていくかが大事になってくる。

5 参考資料

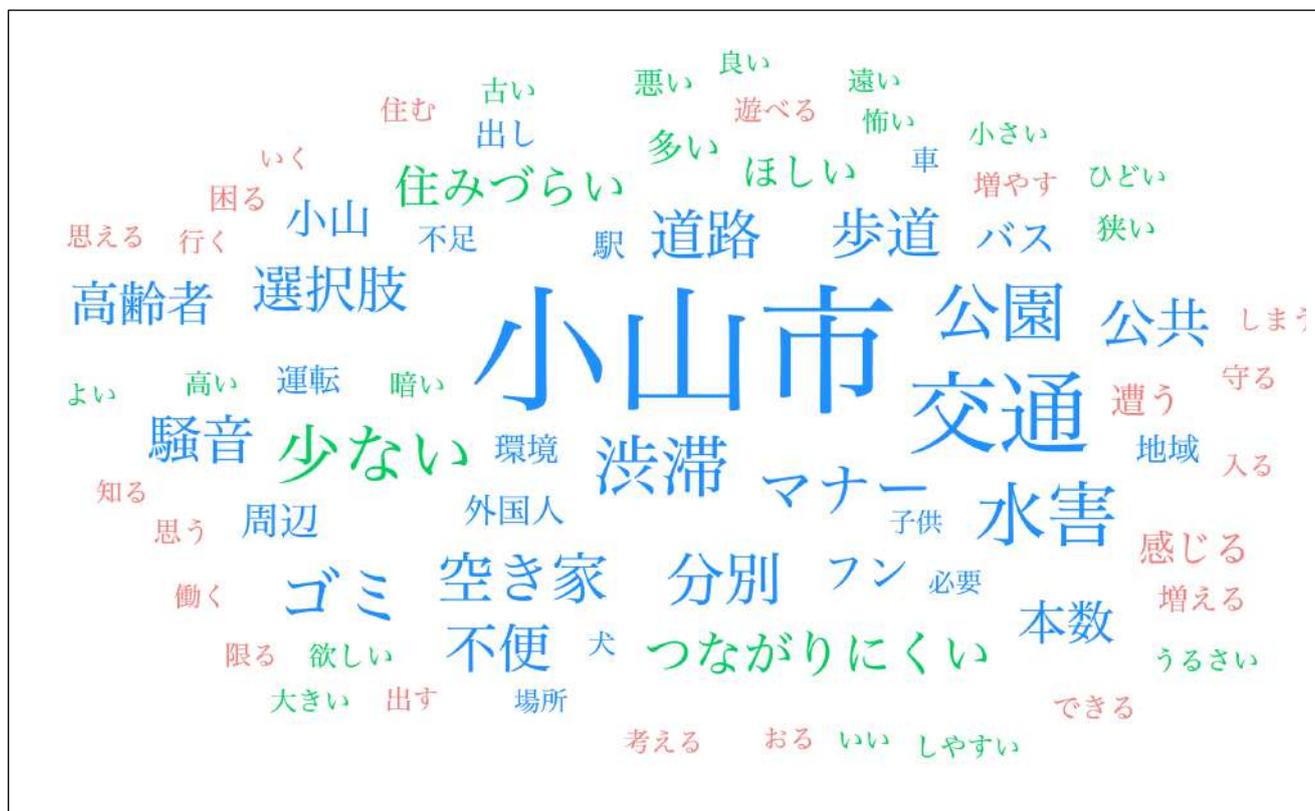
5-1 キーワード抽出

アンケート及び聞き取りの内容から、テキストマイニングという解析ツールを利用して「よく話題に上った」キーワードの抽出を行った。解析は「ユーザーローカル テキストマイニングツール」による。<https://textmining.userlocal.jp/>
 テキストマイニングは、一般的に使用される「私」「思う」などの意味が薄い言葉ばかりがランキング上位にこないよう、調査対象に特徴的に使用される「コウノトリ」などの単語を重視する統計処理法が用いられる。

解析に用いたテキストデータは、アンケートの設問【5】【6】【8】の自由記述全文を対象とし、グループインタビューの解析に用いたテキストデータは8件の聞き取り書き起こし全てを1本にまとめたデータを対象とした。

- | | |
|---------------------|----------|
| 1 設問【5】 困りごと | 7,356 字 |
| 2 設問【6】 大切に守りたいもの | 3,561 字 |
| 3 設問【8】 望ましい都市環境 | 24,951 字 |
| 4 グループインタビュー全件 | 93,515 字 |

1 | アンケート【5】 困りごとを尋ねた設問の自由記述



Ⅲ 簡易社会調査による報告

地区別 世帯・人口数の変化

国勢調査に基づく小山市統計年報（H19年度版～R3年度版）を箕田編集

世帯数の変化					
	2000 H12	2005 H17年	2010 H22年	2015 H27年	2020 R2年
小山市総数	公開データ無	57,225	62,884	65,792	69,624
小山		20,202	22,791	23,791	24,724
大谷		14,003	15,923	17,061	18,197
間々田		8,983	9,578	10,325	11,239
生井		653	630	624	615
寒川		495	481	465	463
豊田		2,205	2,295	2,293	2,594
中		756	772	780	747
穂積		1,881	1,882	1,787	1,792
桑		6,545	6,984	7,191	7,769
絹		1,502	1,508	1,475	1,484

人口の変化					
	2000 H12年	2005 H17年	2010 H22年	2015 H27年	2020 R2年
小山市総数	155,198	160,150	164,454	166,760	166,666
小山	46,719	49,508	52,331	53,632	52,800
大谷	35,473	38,051	40,441	42,438	43,311
間々田	25,990	26,703	27,095	28,060	28,825
生井	2,534	2,323	2,121	1,907	1,722
寒川	1,909	1,761	1,653	1,495	1,331
豊田	7,833	7,644	7,407	7,086	7,194
中	2,963	2,775	2,637	2,465	2,181
穂積	5,083	4,952	4,679	4,258	4,088
桑	21,013	20,938	20,953	20,678	20,860
絹	5,681	5,495	5,137	4,741	4,354

▽増減率 = 増減数 ÷ 前回調査時の人口 赤字は増減率マイナス8%以上

人口の増減数(左)と増減率(右)								
	H12 ▷ H17		H17 ▷ H22		H22 ▷ H27		H27 ▷ R2	
小山市総数	4952	3.20%	4304	2.70%	2306	1.40%	△94	△0.10%
小山	2789	6.00%	2823	5.70%	1301	2.50%	△832	△1.60%
大谷	2578	7.30%	2390	6.30%	1997	4.90%	873	2.10%
間々田	713	2.70%	392	1.50%	965	3.60%	765	2.70%
生井	△211	△8.30%	△202	△8.70%	△214	△10.10%	△185	△9.70%
寒川	△148	△7.80%	△108	△6.10%	△158	△9.60%	△164	△11.00%
豊田	△189	△2.40%	△237	△3.10%	△321	△4.30%	108	1.50%
中	△188	△6.30%	△138	△5.00%	△172	△6.50%	△284	△11.50%
穂積	△131	△2.60%	△273	△5.50%	△421	△9.00%	△170	△4.00%
桑	△75	△0.40%	15	0.10%	△275	△1.30%	182	0.90%
絹	△186	△3.30%	△358	△6.50%	△396	△7.70%	△387	△8.20%

参考・引用文献

本報告書を作成するにあたり引用した文献を中心に、小山市、小山地区の地域調査・研究を行う上で参考となると思われる文献をまとめる。文献は、作業の中で主にどの分野の情報を得るために用いたかに基づき、仮に項目を分けて整理した。

1 風土の定義

藪田稔編『神道』弘文堂、1988年

アルフレッド・シュッツ、トーマス・ルックマン『生活世界の構造』那須壽監訳、筑摩書房、2015年

思川の自然調査委員会『都市の清流…思川を歩く』（小山市教育委員会、1994年

和辻哲郎『風土—人間学的考察』岩波書店、1979年

オギュスタン・ベルク『風土の日本—自然と文化の通態』篠田勝英訳、筑摩書房、1988年

廣重剛史『意味としての自然—防潮林づくりから考える社会哲学』勁草書房、2018年

廣瀬俊介「風土形成の一環となる環境デザインについて：人文科学における研究成果の参照による風土概念検討を通して」『景観生態学』21(1)、日本景観生態学会、2016年、15-21頁

<https://doi.org/10.5738/jale.21.15>

2 環境一般

アン・スパーン『アーバン エコシステム』高山啓子訳、環境コミュニケーションズ、1995年、2頁（原著出版1984）

3 地質・地形

小山市史編さん専門委員会編『小山市史通史編 I 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年

金森定敏「思川の地形と生物」小山市史編さん専門委員会編『小山市史研究』6、小山市教育委員会市史編さん室、1984年、25-36頁

小山市教育研究所編『小山市郷土文化研究誌 第13集』小山市教育研究所、1971年

国土地理院 | 地理院地図

<https://maps.gsi.go.jp>

国土地理院 | 明治期の低湿地データ | 原典資料: 第一軍管地方二万分一迅速図原図 (明治13-19年)

https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/lc_meiji.html

国土地理院 | 空中写真閲覧サービス

<https://geolib.gsi.go.jp>

国立研究開発法人 産業技術総合研究所 地質調査総合センター | 地質図 Navi

<https://gbank.gsj.jp/geonavi/>

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 | 日本土壌インベントリー

<https://soil-inventory.rad.naro.go.jp/>

4 気候

小山市教育研究所編『小山の自然と社会』小山市教育委員会、1965年

五十嵐典夫ほか『益子の歴史』益子町、1983年

栃木の自然 編集委員会編『栃木の自然をたずねて』築地書館、1997年

気象庁 | 過去の気象データ検索

<https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>

5 生物と生態系

栃木県 | レッドデータとちぎWEB

<http://tochigi-rdb.jp/>

環境省 | 生物多様性センター | 自然環境調査 Web-GIS

<https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>

東京都環境局 | 保全地域の指定状況 | 28. 立川崖線 29. 国分寺崖線

https://www.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/nature/natural_environment/tokyo/area/28_gaisen.html

松戸市「松戸市緑の基本計画 改訂版」2009年

尹 紋榮・柳井重人「松戸市緑の条例の保全樹林地指定を受けた土地所有者の樹林地公開に対する認識」『ランドスケープ研究』78(5)、2015年、609-614頁

<https://doi.org/10.5632/jila.78.609>

6 歴史一般

村上直「近世における小山市域の諸村の様相について」小山市史編さん専門委員会編『小山市史研究』2、小山市企画部市史編さん室、1979年、26-47頁

7 地形と陸上・河川交通

小山市史編さん専門委員会編『小山市史 通史編II 近世』小山市、1986年

阿部昭、橋本澄朗、千田孝明、大嶽浩良『栃木県の歴史』山川出版社、1998年

『第123回企画展 下野の鎌倉街道』栃木県立博物館、2019年

高橋修、字留野主税『鎌倉街道中道・下道』高志書院、2017年

今井敏行「集落内道路の整備診断手法に関する一考察」『農村計画学会誌』1(2)、農村計画学会、1982年、26-35頁

<https://doi.org/10.2750/arp.1.26>

奥田久『内陸水路の歴史地理学的研究 - 近世下野国の場合』大明堂、1977年

奥田久監修『栃木の水路』栃木県文化協会、1979年

「日光道中絵図巻5_野木宿より小金井宿まで」国立公文書館デジタルアーカイブ

<https://www.digital.archives.go.jp/item/1603304>

8 農業

『栃木県下都賀郡誌(復刻版)』千秋社、2004年(「下都賀郡小誌」「下都賀郡制誌」を合本収録)

小山市史編さん専門委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年

村上直「近世における小山市域の諸村の様相について」小山市史編さん専門委員会編『小山市史研究』2、小山市企画部市史編さん室、1979年、26-47頁

9 信仰・祭礼

小山市史編さん専門委員会編『小山市史民俗編』小山市、1978年

10 都市計画

奥田教朝・吉岡昭雄『都市計画通論（第2版）』オーム社、
1973年

11 水害防備

池田裕一、飯村耕介、柴沼莉沙「平成27年9月関東・東北豪雨での栃木県小山市における浸水被害の発生状況について」『河川技術論文集』22、土木学会、2016年、339-344
頁

12 地名

菅間久男『小山市の地名由来と歴史』随想舎、2006年

田園環境都市ビジョン 基礎資料
小山地区

2023年1月

小山市